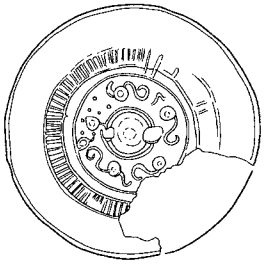
ISSN 0913-8374

市原市文化財センター年報

平成９年度



財団法人 市原市文化財センター

序

平成９年度には、装いを新たにした『千葉県史』資料編考古３（奈良・平安時代）が刊行され、本市の数多くの遺跡発掘調査成果が紹介されました。本年度はそれらの成果の基礎となる発掘調査の整理報告事業が本格的に始まりました。

特に市原市庁舎を中心とする国分寺台地区の土地区画整理事業地内の国分寺台遺跡群は、その名を示す通り、国史跡の上総国分僧寺跡、上総国分尼寺跡をはじめとする数多くの貝塚、集落跡、古墳群、瓦窯跡群を含む多様な大遺跡であり、全国的にも注目されております。平成９年度から、この国分寺台地区遺跡群の整理報告事業が開始されたことはひとえに関係者の御理解と御協力の賜物であります。

山田橋大山台遺跡においては、平成７年度から３ヵ年にわたる調査を終了し、隣接の表道遺跡と大塚台遺跡を合わせると約５万㎡の面積を本調査したことになり、夏期には公民館主催の親子体験発掘の対象に供し、秋期には遺跡見学会を開催し、数多くの市民に御覧いただきました。年度末恒例の遺跡発表会において、国立歴史民俗博物館館長の佐原　真先生に御講演をいただきました。『大昔と現代』と題し、埋蔵文化財の意義について、大変わかりやすいお話しをいただき、市民の好評を得ました。

本年報は、こうした当センターの平成９年度の事業と活動を取りまとめたものであり、市原市の埋蔵文化財に対する理解の一助となり、広く活用いただけば幸いです。

財団法人市原市文化財センター

理事長　　小　茶　文　夫

目　　次

序
Ⅰ　機　　構 …… 1
Ⅱ　平成９年度の事業概要 …… 2
Ⅲ　平成９年度の調査概要 …… 6
　１．姉崎妙経寺遺跡（３次）本調査 …… 9
　２．姉崎棗塚遺跡（２次）確認・本調査 …… 11
　３．潤井戸天王台古墳群確認本調査 …… 14
　４．市原条里制遺跡（菊間徳万地区Ａ）確認本調査 …… 16
　５．瀬又小滝遺跡確認本調査 …… 25
　６．村上川堀遺跡（２次）確認・本調査 …… 26
　７．村上川堀遺跡（３次）確認・本調査 …… 28
　８．山田橋大山台遺跡本調査 …… 30
　９．不入斗百枚田遺跡確認本調査 …… 35
　10．潤井戸鎌之助遺跡本調査 …… 36
　11．十五沢坊ケ谷遺跡（Ａ地点）確認本調査 …… 38
　12．市内・郡本遺跡（３次）確認及び本調査 …… 39
　13．市内・草刈谷畑遺跡確認調査 …… 40
　14．市内・郡本遺跡（４次）確認・本調査 …… 41
　15．市内・中高根南名山遺跡（７地点）確認・本調査 …… 42
　16．市内・市原条里制遺跡（八幡砂田地区）確認・本調査 …… 43
　17．永吉松ノ木台遺跡確認調査 …… 44
　18．永吉金原遺跡確認調査 …… 44
　19．中野鹿ノ原遺跡確認調査 …… 44
　20．市原城郭跡本調査 …… 46
　21．畑木小谷遺跡本調査 …… 48
　22．西国吉遺跡本調査 …… 50
Ⅳ　遺跡管理システムについて …… 51
Ⅴ　平成９年度受贈図書一覧 …… 54
　付編１．瀬又小滝遺跡調査報告 …… 77
　　２．百枚田砦跡調査報告 …… 85
　　３．西野下田遺跡調査報告 …… 92

Ⅰ 機　　構

財団法人市原市文化財センターの機構は、役員および職員から構成されている。役員は、寄付行為の定めにより、理事長、副理事長、理事、監事をもって構成され、平成９年度の職員は、事務職員４名（うち都市公社出向職員１名）、技術職員16名（うち事務従事職員１５名）であり、その組織および氏名は以下のとおりである。

１．組　　織

役　員

理事長
副理事長
常務理事
理　　事
監　　事

- 庶務課　　課長　主事　事務員(嘱託)
- 調査一課　　課長　副主幹　主査　係長　副主査　調査研究員　主事　事務員(嘱託)
- 調査二課　　課長　副主査　主任調査研究員　調査研究員(嘱託)

２．役　　員

職　名	役　職　名	氏　名
理事長	専　　任	白鳥一夫
副理事長	生涯学習部長	鳥海清宏
常務理事	専　　任	山口　節
理　事	市原市教育員会教育長	大野　皎
理　事	国学院大学教授	加藤晋平
理　事	和洋女子大学名誉教授	寺村光晴

職　名	役　職　名	氏　名
理　事	郷土史家	木村千春
理　事	企画部長	鵜澤綱夫
理　事	総務部長	田中信雄
理　事	都市計画部長	大町裕之
監　事	出納室長	高山美則
監　事	教育総務部総務課長	鈴木利昭

３．職　　員

所　属	職　名	氏　名
庶務課	課長	宮崎澄夫
	主事	高浦貞子
	主事	阿倍茂之
	事務員（嘱託）	常澄智子
調査課	課長	粟田則久
	副主幹	蜂屋孝之
	主査	田中清美
	係長	小出紳夫
	副主査	近藤　敏
	副主査	高橋康男
	副主査	田所　真

所　属	職　名	氏　名
調査一課	調査研究員	小川浩一
	調査研究員	北見一弘
	調査研究員	鶴岡英一
	調査研究員	小橋健司
	調査研究員	牧野光隆
	主事	大鐘光江
	事務員（嘱託）	辻　葉子
調査二課	課長	宮本敬一
	副主査	大村　直
	主任調査研究員	忍澤成視
	調査研究員(嘱託)	半田堅三

Ⅱ　平成９年度事業概要

１．理事会の開催

第１回理事会　平成９年５月27日

議案第１号　　平成８事業年度報告の承認について

議案第２号　　平成８事業年度収入支出決算の承認について

第２回理事会　平成９年11月21日

議案第１号　　平成９事業年度事業計画の変更について

議案第２号　　平成９事業年度補正予算（第１号）について

第３回理事会　平成９年12月19日（書面表決）

議案第１号　　職員給与規定の一部を改正する規程について

第４回理事会　平成10年１月21日

議案第１号　　「所管地域を越えた埋蔵文化財発掘調査事業に関する覚書」の交換について

第５回理事会　平成10年３月27日

議案第１号　　理事長の決定について

議案第２号　　平成９事業年度事業計画の変更について

議案第３号　　平成９事業年度補正予算（第２号）について

議案第４号　　平成10年度事業計画について

議案第５号　　平成10事業年度収支支出予算について

２．会計監査

平成９事業年度会計監査は、平成10年５月19日財団法人市原市文化財センター事務室において、高山美則、武内邦夫　監事により実施された。

３．平成９年度受託事業

番号	事業名	委託者名	遺跡名	種別	事業内容・面積	契約年月日	受託金額（円）
1	姉崎駅前土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査（E・L・M・N区）	市原市（姉崎土地改造事務所）	姉崎妙経寺遺跡（3次G・H区）	住居跡古墳群	本調査（1,700㎡）	平成９年７月16日	16,282,350
2	都市計画道路八幡椎津線（姉崎）建設工事に伴う埋蔵文化財調査業務委託	市原市（街路課）	姉崎棗塚遺跡（２次）	中世包蔵地	確認調査（330㎡）	平成９年９月17日	7,208,250
3	都市計画道路八幡椎津線（姉崎）建設工事に伴う埋蔵文化財調査業務委託	市原市（街路課）	姉崎棗塚遺跡（２次）	中世墓道路跡	本調査（1,830㎡）	平成９年10月23日	15,517,950

番号	事業名	委託者名	遺跡名	種別	事業内容・面積	契約年月日	受託金額（円）
4	都市計画道路草刈西広線（神崎）建設工事に伴う埋蔵文化財調査業務委託	市原市（街路課）	潤井戸天王台古墳群集落跡	近世塚古墳群集落跡	確認本調査（5,630㎡）	平成9年6月9日	53,993,100
5	若宮都市下水路築造工事に伴う埋蔵文化財調査業務委託	市原市（下水道建設課）	市原条里制遺跡（菊間徳万地区A）	古代包蔵地水田跡	確認本調査（1,500㎡）	平成9年8月11日	5,998,650
6	瀬又加圧所用地埋蔵文化財調査委託	市原市（水道建設課）	瀬又小滝遺跡	包蔵地住居跡	確認本調査（500㎡）	平成9年6月25日	4,999,050
7	市道35号線（村上）埋蔵文化財調査業務委託	市原市（道路建設課）	村上川掘遺跡	包蔵地溝跡	確認調査（62.5㎡）	平成9年7月8日	2,732,100
8	市道35号線（村上）埋蔵文化財調査業務委託	市原市（道路建設課）	村上川掘遺跡	溝跡道路跡	本調査（190㎡）	平成9年7月29日	2,508,450
9	（仮称）市原市防災センター用地埋蔵文化財発掘調査	市原市（消防局）	山田橋大山台遺跡	集落跡	本調査（11,496㎡）	平成9年4月1日	59,999,100
10	市立有秋中学校駐輪場等整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務委託	市原市（教育営繕課）	不入斗百枚田遺跡	中世台地整形	確認本調査（360㎡）	平成9年4月10日	4,113,900
11	市津運動広場埋蔵文化財本調査委託	市原市（スポーツ振興課）	潤井戸鎌之助遺跡	集落跡貝塚	本調査（8,100㎡）	平成9年5月30日	49,999,950
12	ほ場整備事業（県営担い手）海上地区埋蔵文化財調査業務（委託番号第2号）	市原土地改良事務所	十五沢坊ケ谷遺跡	包蔵地	確認調査（170㎡）	平成10年1月5日	2,040,000
13	海上地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財調査	市原市（ふるさと文化課）	十五沢坊ケ谷遺跡	包蔵地	確認調査（30㎡）	平成9年12月24日	360,001
14	市内遺跡発掘調査事業	（ふるさと文化課）	市内複数遺跡		確認本調査（3,100㎡）整理	平成9年4月10日	18,177,600
15	都市農業センター建設に伴う埋蔵文化財調査委託	市原市都市農業センター	浅井小向釜神遺跡	近世塚古墳群集落跡	整理	平成9年10月6日	4,998,000
16	国分寺台遺跡群発掘調査整理報告事業（根田祇園原貝塚）	市原市（ふるさと文化課）	国分寺台遺跡群（根田祇園原貝塚）	集落跡貝塚	整理	平成9年4月1日	11,567,650
17	国分寺台地区文化財整理事業	市原市（ふるさと文化課）	国分寺台遺跡群（西広貝塚）	包蔵地住居跡貝塚	整理	平成9年4月15日	29,999,550
18	市道35号線（村上）埋蔵文化財調査業務委託（その2）	市原市（道路建設課）	村上川掘遺跡（3次）	貝層溝跡	確認調査（142㎡）	平成9年11月27日	3,828,300

番号	事業名	委託者名	遺跡名	種別	事業内容・面積	契約年月日	受託金額(円)
19	市道35号線（村上）埋蔵文化財調査業務委託（その2）	市原市(道路建設課)	村上川掘遺跡（3次）	建物跡 貝層 土坑	本調査（560㎡）	平成10年1月19日	4,225,200
20	市原市市東第一土地区画整理事業（第1地点その4）に伴う埋蔵文化財調査	市東第一土地区画整理組合	永吉松ノ木台遺跡	集落跡 溝跡 土坑	確認調査（517㎡）	平成9年5月23日	5,701,500
21	市原市市東第一土地区画整理事業（第1地点その5）に伴う埋蔵文化財調査	市東第一土地区画整理組合	永吉金原遺跡	住居跡 周溝	確認調査（390㎡）	平成9年5月23日	4,494,000
22	市原市市東第一土地区画整理事業（第1地点その5）に伴う埋蔵文化財調査	市東第一土地区画整理組合	中野鹿ノ原遺跡	包蔵地	確認調査（330㎡）	平成9年5月23日	3,463,950
23	宅地造成（椎津）に伴う埋蔵文化財調査	細田哲平	椎津五霊台遺跡	中世土坑 周溝 集落跡	整理報告書刊行	平成8年6月11日（9年度まで）	4,729,760（総事業費23,685,880円）
24	宅地造成（椎津）に伴う埋蔵文化財調査（第2次）	東日本建設㈱	椎津五霊台(B)遺跡	椎津城跡 畝堀	整理報告書刊行	平成8年12月27日（9年度まで）	1,138,150（総事業費2,799,540円）
25	（仮称）後楽園市原リクリエーションワールド建設に伴う埋蔵文化財調査（A・B・C区）	㈱東京ドーム	新生荻原野遺跡(A・B・C区)	近世塚 周溝 集落跡	整理報告書刊行	平成5年11月12日（9年度まで）	4,771,195（総事業費115,376,480円）
26	マンション建設に伴う埋蔵文化財調査	ダイヤ建設㈱	六孫王原遺跡(A・B・C・D地区)	古墳 集落跡 周溝墓	整理報告書刊行	平成6年5月16日	4,827,179（総事業費21,112,940円）
27	郡本地区集合住宅建設に伴う埋蔵文化財調査	岡本吉男	郡本遺跡（第4次）	掘立柱建物集落跡	本調査（380㎡）	平成9年8月25日（10年度まで継続）	3,484,795（総事業費5,313,000円）
28	市原地区土地造成に伴う埋蔵文化財調査	㈲とりせん商事	市原城跡	台地整形 中世墓地	本調査（887㎡）	平成9年9月3日（10年度まで継続）	2,074,327（総事業費2,998,300円）
29	身体障害者養護施設建設に伴う埋蔵文化財調査	大野裕之	畑木小谷遺跡	周溝 集落跡	本調査（1,190㎡）	平成9年9月4日	4,095,000
30	老人保険施設建設に伴う埋蔵文化財調査	医療法人高原会	中高根南名山遺跡（第7地点）	旧石器 住居跡	本調査（212㎡）	平成9年11月4日（10年度まで継続）	2,054,406（総事業費3,723,300円）
31	第1種電気通信設備の建設に伴う埋蔵文化財調査	㈱協和エクシオ	西国吉遺跡	周溝集落跡 弥生前期 包蔵地	確認本調査（300㎡） 整理	平成9年11月25日（10年度まで継続）	3,451,354（総事業費5,384,400円）
32	宅地造成（大厩等）に伴う埋蔵文化財調査	大厩辰巳ケ原遺跡等調査会	大厩辰巳ケ原遺跡	集落跡 土壙墓 炉穴	整理	平成9年11月25日（10年度まで継続）	219,183（総事業費4,806,245円）
	合計						343,053,950

4．研究事業

調査事業、整理事業に係わる日常の研究活動、職員の資質向上を目指す研修を行なっている。

(1) 外部主催研修会等

① 全国埋蔵文化財法人連絡協議会関係

ア．総　　会　　平成９年６月12日　　東京都港区

イ．研 修 会　　平成９年10月８～９日　長野県長野市

ウ．関東ブロック法人連絡協議会　平成９年５月15～16日　群馬県北群馬郡

平成９年11月11～12日　埼玉県秩父郡

エ．コンピュータ等研究委員会関東ブロック地区委員会

平成９年６月４日　　東京都豊島区

平成10年15～16日　　茨城県水戸市

② 千葉県文化財法人連絡協議会関係

ア．総　　会　　平成９年６月25日　　千葉市中央区

イ．役 員 会　　平成10年３月17日　財団法人千葉県文化財センター

ウ．部　　会　　事務部会　　２回　技術部会　５回

エ．研 修 会　　共同研修会　１回

③ 海外研修会　　平成９年10月16～20日　大韓民国

(2) 内部研修会

① 補助員研修会　　平成９年11月27日　国立歴史民俗館・河村記念美術館

② 職員研修会　　平成10年２月６日　袖ヶ浦市郷土博物館

史跡　大塚・歳勝土遺跡

横浜市立歴史博物館

(3) 遺跡管理システムの構築

市原市では市域内に約2,500箇所の遺跡が存在し、当センター調査も400件を数える。これらの埋蔵文化財情報は、事務処理の省力化・考古学的解析さらには一般への公開に備えて、デジタル情報化し、コンピュター上での一括管理が望ましい。「遺跡」「調査歴」「報告書」等の「文献」データベースの文字情報の入力作業は完了している。これらと地図情報との関連づけが不可欠であるため、遺跡管理システム整備としてその骨格にＧＩＳ（地図情報システム）を９年度から導入した。（詳細についてはⅣ遺跡管理システムを参照）

5．普及事業

(1) 千葉県文化財法人連絡協議会

遺跡調査研究発表会

平成10年１月25日（日）　於　千葉市文化センター

(2) 遺跡発表会

平成10年３月15日（日）　於　サンプラザ市原

調査遺跡の成果報告

① 山田橋大山台遺跡　② 畑木小谷遺跡　③ 潤井戸天王台古墳群

④姉崎妙経寺遺跡　⑤姉崎棗塚遺跡

特別講演

大昔と現代　国立歴史民俗博物館　館長　佐原　真

(3) 遺跡見学会

平成９年12月13日（土）　開催場所　山田橋大山台遺跡

(4) 印刷物の刊行

『市原市文化財センター年報（平成７年度）』

『第13回市原市文化財センター遺跡発表会要旨』

７．平成９年度決算報告

平成９年４月１日から平成10年３月31日まで（単位：円）

収入の部　（単位：円）

科目	予算額 当初予算額	予算額 補正予算額	予算額 合計	決算額	差異	備考
基本財産運用収入	25,000	10,000	35,000	35,000	0	
事業収入	484,648,000	△ 141,327,000	343,321,000	343,265,940	55,060	
雑収入	567,000	△ 163,000	404,000	502,717	△ 98,717	
特定貯金取崩収入	0	1,344,000	1,344,000	1,344,000	0	
当期収入合計	485,240,000	△ 140,136,000	345,104,000	345,147,657	△ 43,657	
前期繰越収支差額	50,467,000	458,000	50,925,000	50,925,851	△ 851	
収入合計	535,707,000	△ 139,678,000	396,029,000	396,073,508	△ 44,508	

支出の部　（単位：円）

科目	予算額 当初予算額	予算額 補正予算額	予算額 合計	決算額	差異	備考
受託事業費	451,140,200	△ 122,787,000	328,615,000	327,950,546	664,454	
研究普及事業費	11,488,000	1,433,000	12,921,000	12,675,748	245,252	
一般管理費	27,659,000	△ 1,716,000	25,943,000	25,606,030	336,970	
消費税支出	11,915,000	△ 3,776,000	8,139,000	8,108,500	30,500	
固定資産取得支出	400,000	825,000	1,225,000	1,223,985	1,015	
財政調整基金積立預金支出	87,000	31,000	118,000	117,503	497	
退職給与引当預金支出	2,556,000	△ 580,000	1,976,000	1,976,000	0	
予備費	800,000	△ 799,000	1,000	0	1,000	
当期支出合計	506,307,000	△ 127,369,000	378,938,000	377,658,312	1,279,688	
当期収支差額	△ 21,067,000	△ 12,767,000	△ 33,834,000	△ 32,510,655	△ 1,323,345	
次期繰越収支差額	29,400,000	△ 12,309,000	17,091,000	18,415,196	△ 1,324,196	

Ⅲ　平成９年度調査概要

平成９年度の発掘調査は、確認調査３件、確認本調査11件、本調査６件の21遺跡を対象に実施した。この他に、国庫補助事業によって市内５ヵ所の確認本調査をおこなった。

調査対象になった遺跡は台地上の旧石器時代の地点分布と礫群から、海岸砂堆上の中世墓城まで多彩であるが、従来調査歴がなかった沖積低地部分の調査が増してきたのが特徴である。

旧石器時代は、山田橋大山台遺跡において姶良火山灰層（ＡＴ）からソフトローム中の３時期に地点分布が12ヵ所あり調査された。どちらも礫群有し、道具は極めて少なくナイフ型石器と槍先型先頭器が出土している。

縄文時代は、潤井戸鎌之助遺跡において後期堀之式期の住居内貝層が調査され、村田左岸低位段丘面の中期後半から後期前半の集落跡として、10年度まで調査を予定している。姉崎妙経寺遺跡Ｇ・Ｈ区の調査では、Ａ区の貝層とほぼ同じ時期の集石遺構が貝層背後の砂丘堆上から検出され、砂丘上にも縄文中期からの生活跡が残されていることが確認された。

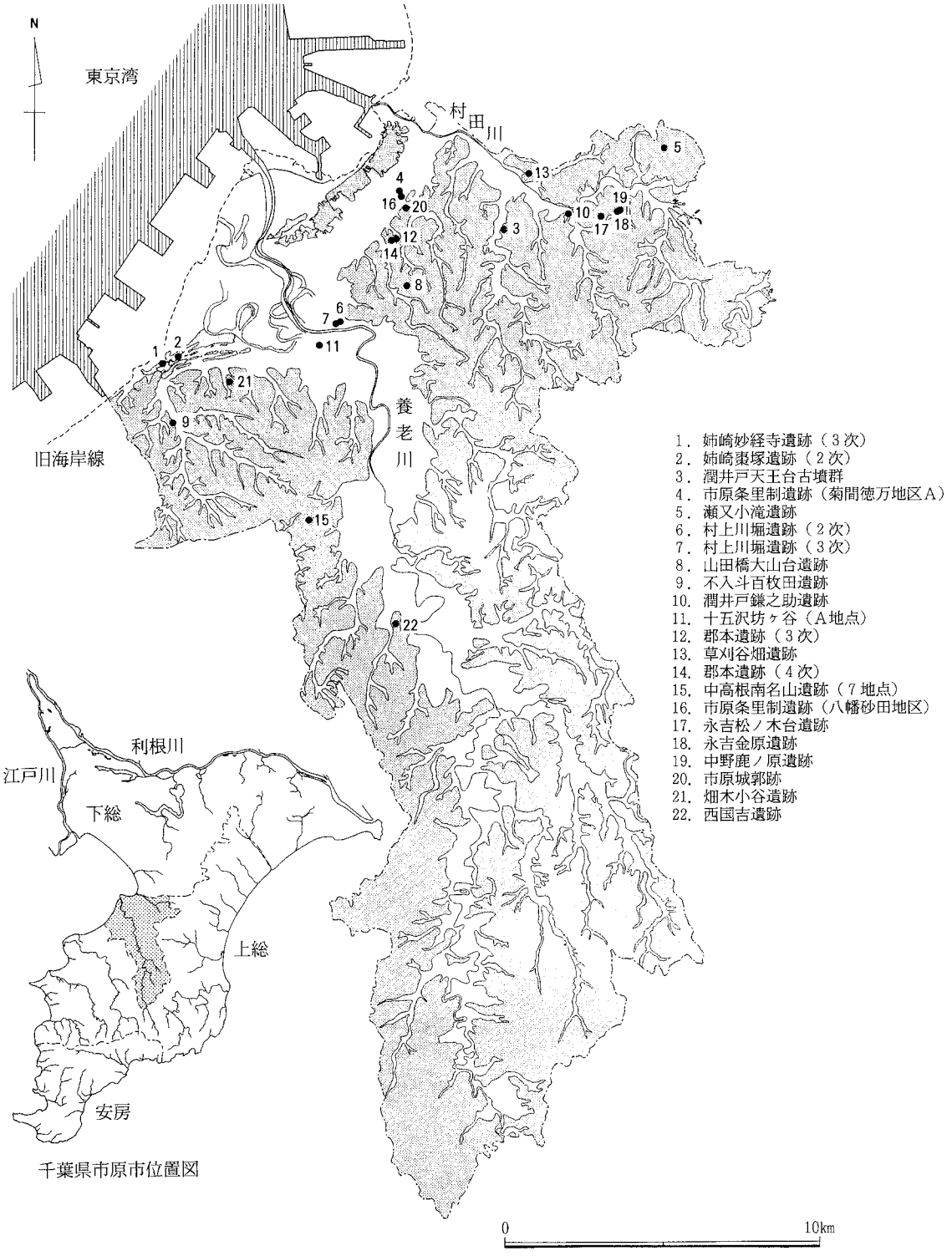
弥生時代は、養老川中流左岸の台地上の西国吉遺跡から中期前半の須和田式土器が出土した。山田橋大山台遺跡は調査が終了し、市原台地中央部付近の弥生時代後期から古墳時代にかけての拠点的集落の変遷が明らかになってきた。また神崎川右岸の天王台遺跡では、低位段丘上に弥生時代終末期からの集落が検出され、背後の台地上には古墳時代前期からの古墳群が検出され、居住域と墓域の関連が注目される。また、北関東系後期弥生土器の出土も興味がもたれる。

古墳時代では、天王台古墳群の29号墳から乳文鏡・勾玉が出土している。畑木小谷遺跡では、古墳周溝内土壙から馬の顎骨が検出され、古墳時代の数少ない馬の出土例となった。姉崎妙経寺遺跡では、新たに３基の円墳が確認され、今後の調査では墳丘の消滅した砂丘帯上の古墳群の様相が明らかになれば姉崎古墳群の多様な姿が次第に解明されてくるだろう。

奈良平安時代では、大山台遺跡の道路跡があり、表通遺跡で分岐した道が２条調査された。姉崎棗塚遺跡においても両側に溝を有する道路跡らしき遺構が検出され、中世墓域を区画している。市原条里制遺跡（菊間徳万Ａ区）では、古代から中世にかけての水田跡土壌を検出したが、明確な畦畔等の水田遺構は確認されなかった。

中世においては、棗塚遺跡の砂丘帯上の土壙墓群とそれに伴う埋葬された人骨群があり、また市原城跡では斬首された頭骨がまとまって出土し、戦国期の葬例として特筆される。

以上簡単にまとめたが、詳細は当該報および本報告書を参照されたい。



第１図　平成９年度調査遺跡位置図

1．姉崎妙経寺遺跡３次調査

事 業 名　姉崎駅前土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査

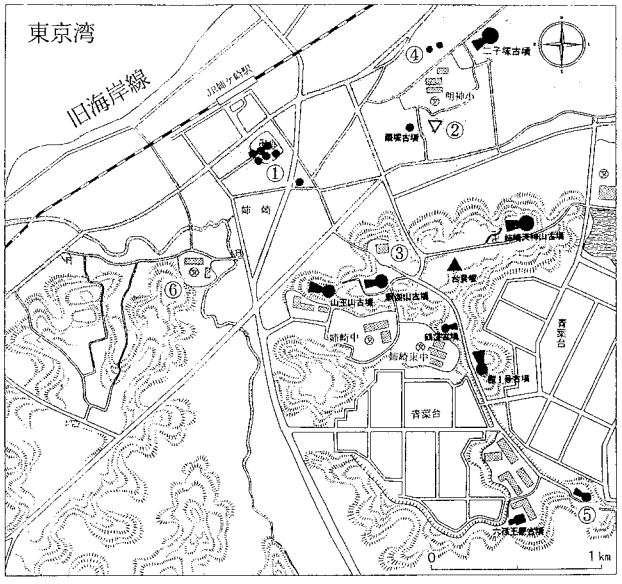
所 在 地　市原市姉崎453番地ほか

調査期間　平成９年８月18日～平成９年12月５日

調査面積　1,700㎡

調査概要　遺跡はＪＲ姉ヶ崎駅の南東約300ｍに位置する妙経寺境内地に所在する。この一帯は標高６～７ｍの高さで、周囲より３～４ｍほど高い砂堆（砂丘）上に位置している。今回の調査は、継続して行なわれている市原市の「姉崎駅前土地区画整理事業」による妙経寺墓地の改葬・移転に伴うもので、今年で３年目の調査となった。今回は本堂の西側部分（調査区域Ｇ区）および参道入り口の鐘楼南側（同Ｈ区）の２地区で合せて1,700㎡の発掘を行なった。

Ｇ区の部分については、江戸時代からの土葬墓がほとんどで、ほぼ全域にわたり掘削・かく乱を受けており、遺構が残っている可能性は少ないものと考えていたが、調査の結果、平成８年度に発見した５号墳の西側周溝部分と時期のわからない溝状遺構（古墳周溝？）の残存部分２条を検出した。参道入り口の鐘楼南側地区（Ｈ区）については、比較的新しい墓地のため遺構がよく残っていた。調査の結果、円墳３基（６号墳・７号墳・８号墳）および平成７年度に調査した３号墳の西南側周溝部分を検出した。６号墳は内径18ｍ、幅２ｍの周溝で、周溝底部から５世紀前半頃の土師器壺が出土している。７号墳については、南側の約半分が削平されていたが、内径17ｍ、幅２ｍの周溝を持っている。時期については、６世紀頃と推定している。８号墳は、北西側を調査区外に残しているものの内径19ｍ、周溝幅２ｍで、時期については、周溝内より出土した須恵器・土師器から６世紀後半頃と推定している。３号墳については、平成７年度の調査時点では全体の1/4の発掘のため、径20ｍ前後と推定していたが、西南側がやや直線的なだ円形で長径13ｍ、短径12ｍの規模を持つ円墳であることがわかった。時期については、７世紀前半頃と推定している。



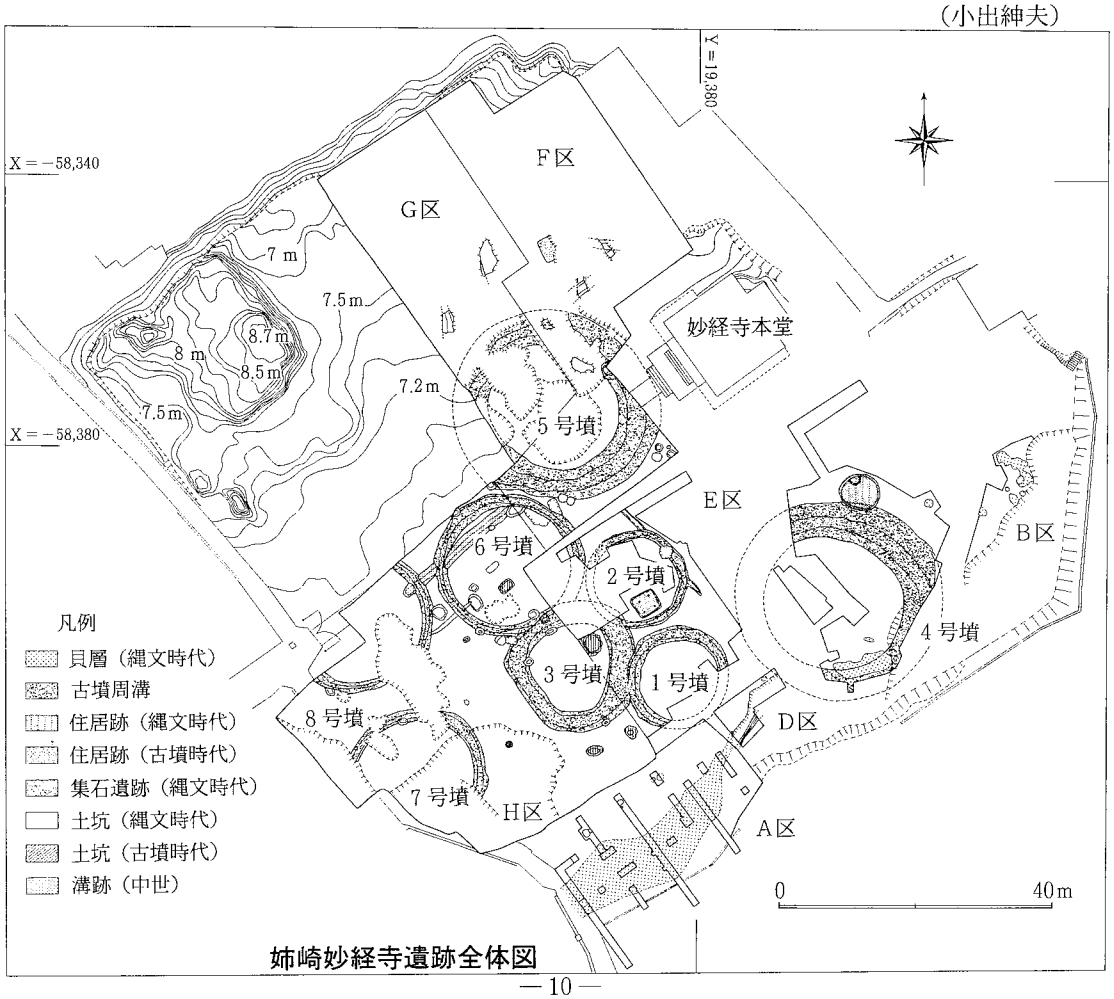
姉崎妙経寺遺跡の位置
① 妙経寺遺跡
② 貴塚遺跡
③ 姉埼神社
④ 上野台遺跡
⑤ 堰頭古墳
⑥ 茶ノ木遺跡

砂 堆（砂丘帯）

古墳以外の遺構については、古墳時代と推定される土坑３基、中世期の土坑２基、６号墳・８号墳の墳丘および周溝を壊して造られた中世と考えられる幅1.5ｍ、長さ20ｍ以上の溝状遺構を検出している。また、平成７年度の調査では縄文時代中期の大規模な貝塚を検出していたが、今回の調査で、縄文時代の土坑３基、集石遺構１基を検出した。集石遺構については、直径１ｍ前後の土坑状で、内部に扁平な丸い石を詰め込んでおり、熱を受けて赤化した石や焼土などが多く見られた。また、３号墳の東南側部分墳丘下からは、人為的に削平された様なテラス状のカット面が見られ、その覆土中より多くの縄文土器が出土している。位置的に貝塚に近いことや、貝塚の形成された時期と縄文土器の時期が同じことなどから貝塚に関連した遺構の可能性を考えている。

以上、今までの調査成果から古墳は合計８基を検出しているが、時期的には、５世紀前半頃より７世紀までの間にわたり古墳が造り続けられていたことがわかった。このことは、当初予想していた以上にこの地域の海岸隣接砂堆上は古墳を造営するに条件が整っていたことが理解できるものである。

（小出紳夫）



姉崎妙経寺遺跡全体図

2．姉崎棗塚遺跡（2次）

事業名　都市計画道路八幡椎津線（姉崎）建設工事に伴う埋蔵文化財調査

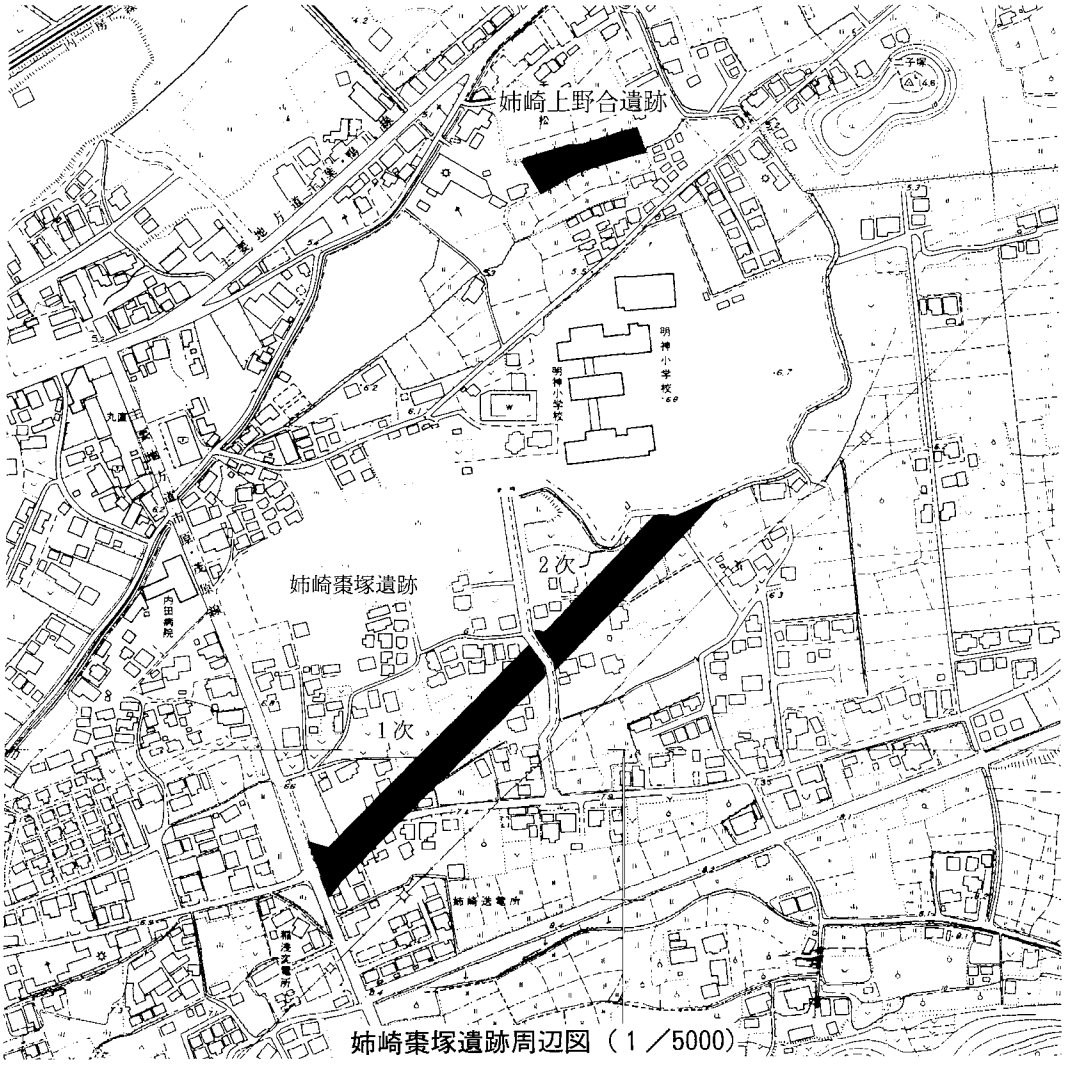
所在地　市原市姉崎1922-7地先ほか

調査期間　平成9年10月24日～平成10年2月6日

調査面積　1,830㎡（確認調査・本調査）

調査概要　調査は2次に当たる。1次調査ではいずれも中世の、陶磁器・貝塚・土壙墓（人・馬）・鍛造剥片などが検出されている。調査地は、姉崎神社から北北東へ約500m、明神小学校の南に位置し、海抜5～6mの砂堆上に当たる。調査区は北東から南西へのびる長細い形で、中央の若干南西寄りに現在の道路が横切り北調査区と南調査区に分かれる。

地表土の直下には黒灰色を呈する遺物包含層が見られた。南調査区の南西部に限り、1次調



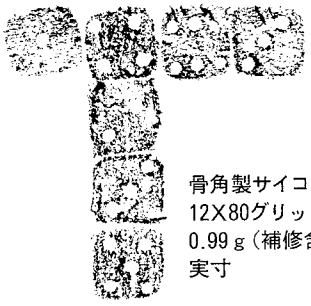
姉崎棗塚遺跡周辺図（1／5000）

査時と比べ貝の少ない混貝土層が検出された。この包含層上面では遺構の平面形が確認できず、地山の淡い褐色を呈する砂層まで掘り下げてはじめて遺構の形状が把握できた。包含層を掘り下げている際に人骨等が検出されて、調査が進むうちに土壙墓と明らかになる場合があった。

今次調査において確認された遺構は、土坑159基、小竪穴６基、土壙墓18基、火葬墓１基、粘土貼土坑（土壙墓の可能性もある）５基、道路１条、溝11条である。遺構の大部分は、建築プランを想定できなかった穴である。ほとんどの遺物が包含層中より検出されたため、時期の確定ができる遺構は少なかったが、多くは帰属が集中する室町時代後半頃のものと考えられる。陶磁器（青磁・白磁・瀬戸・美濃・常滑・備前）・カワラケ・内耳土器・羽釜・鉄滓・砥石・石臼・土錘・骨角製サイコロ・銭・板碑片・研磨された陶器片などが少なからず出土した（詳細については下記＊の資料に記述がある）。

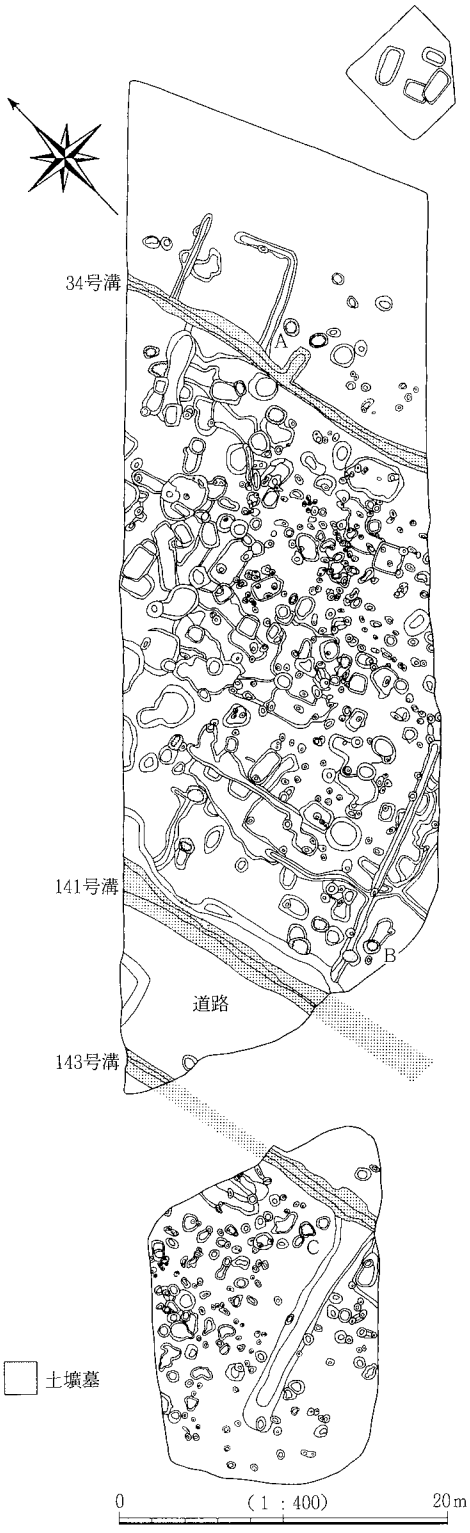
検出された道路跡は、北調査区と南調査区の境付近を北北西に向かって横切る、幅８ｍ（溝の中心からは９ｍ）前後の空間で、141号と143号という平行に走る溝に挟まれている。硬化した路面は検出できなかったが、溝に挟まれた区域が一見して他の場所に比べ遺構の分布が薄いこと、その位置が現在の地形図に見られる110ｍ前後の幅でなされる土地区画のパタンに一致することから、道路と判断した。これが道路であれば鎌倉街道（立野－姉崎ルート）に関連する可能性がある（(財）千葉県文化財センター1999千葉県埋蔵文化財分布地図（３））。両側溝からは中世後期の遺物しか出土しておらず、中世後期のうちに廃絶したと考えられる。側溝には、それを切り込む土壙墓、カワラケ集中地点が見られた。また、北調査区の端近くに30ｍほどの距離をおき、道路跡と平行に走る34号溝があり、その溝より北東側では遺構が急に減少することが認められた。これは34号溝が、道路跡と共に、何らかの意識を反映した区画を成していることを示すと思われる。

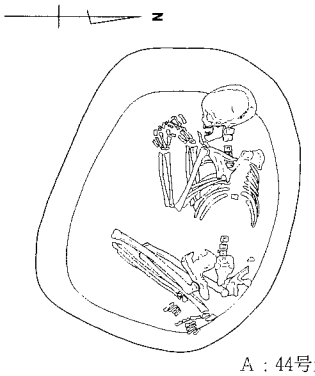
土壙墓は、道路跡の北東側から17基、南西側から１基が検出された。土壙墓に葬られていた人骨は概して遺存状態が良好で、当時の埋葬姿勢の傾向が看取できた。例外も見られたが、大抵は屈葬横臥であった。それらの中には　漆器、銭数枚、カワラケなどの副葬品を持つものも認められた。子供の墓には銭が伴わずカワラケのみが見られる、という傾向があった。　（小橋健司）



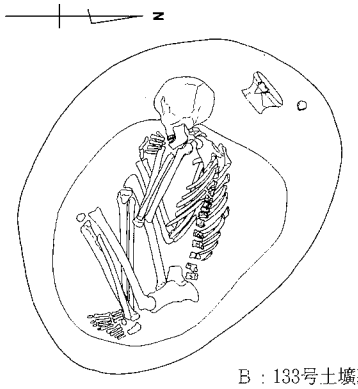
骨角製サイコロ
12X80グリッド出土
0.99ｇ（補修含む）
実寸

＊蜂屋孝之　1998　『共同研修会資料　姉崎棗塚遺跡』市原市文化財センター

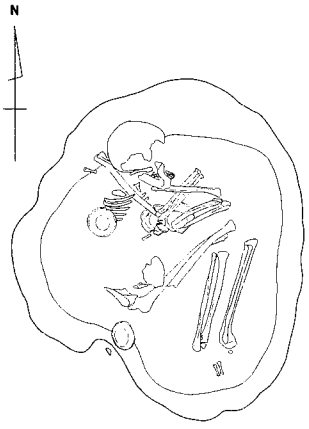




A：44号土壙墓



B：133号土壙墓



C：162号土壙墓

0 (1：20) 100cm

3．潤井戸天王台古墳群

事 業 名　都市計画道路草刈西広線建設工事に伴う埋蔵文化財調査

所 在 地　市原市潤井戸2,270－７他

調査期間　平成９年７月10日～平成10年３月20日

調査面積　5,560㎡

潤井戸天王台古墳群は市原市の北東部に位置し、村田川の支流神崎川の東岸、標高30～35ｍを測る台地先端部および標高22～27ｍの河岸段丘上に立地する。

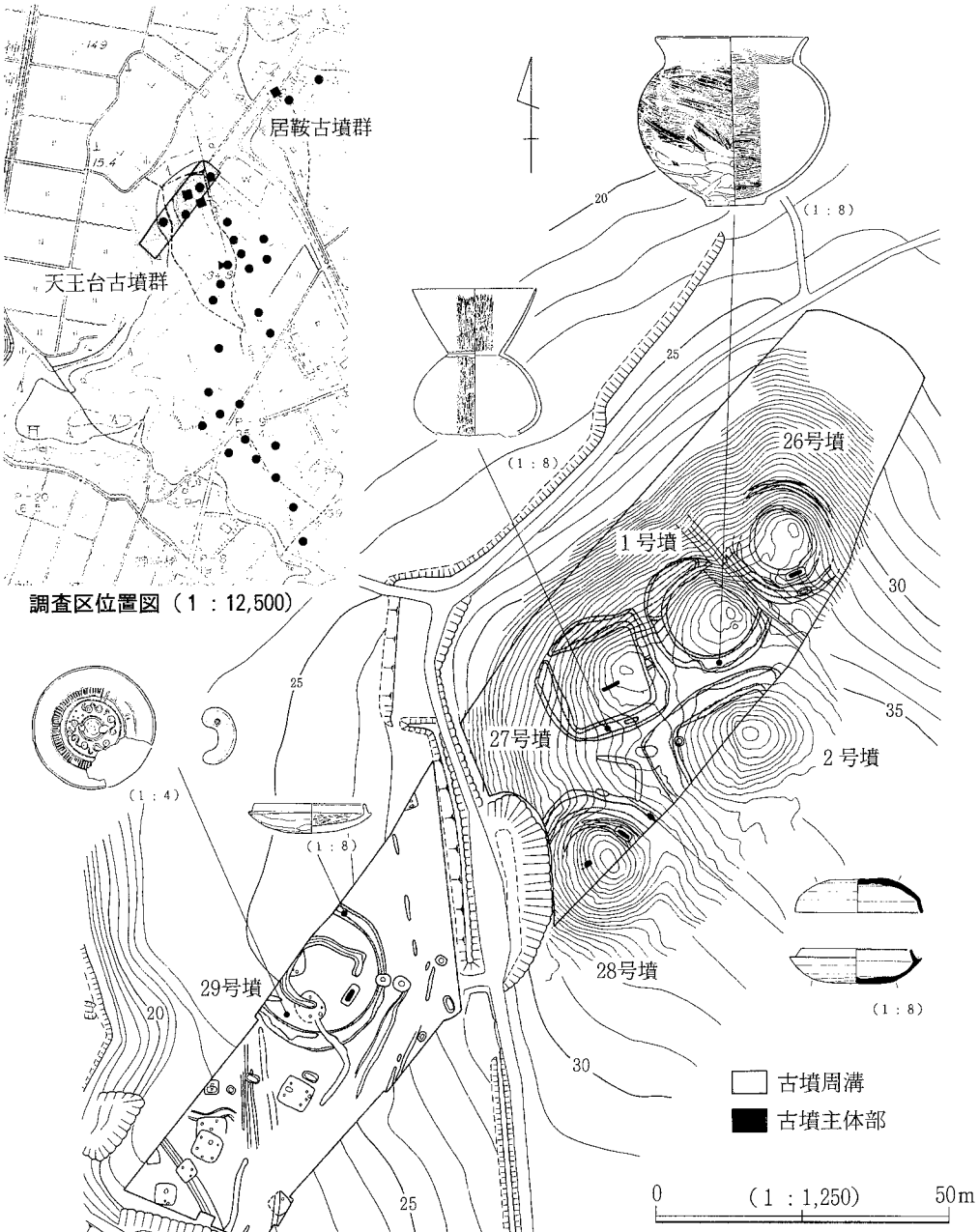
調査の結果、弥生時代終末から古墳時代初頭の住居跡10軒・土坑６基、古墳時代前期の円墳１基・方墳１基・方墳ないし前方後方墳１基、古墳時代後期の円墳３基、近世の塚１基・溝跡１条・井戸跡３基などが検出された。

住居跡は、すべて調査区南西側の段丘面からの検出で、さきに調査が行われた北側隣接地の天王台遺跡と立地や時期が共通することから、これらは密接な関係を持つ集落と考えられる。集落の痕跡が認められなくなるのと相前後して、台地上には古墳群が形成され、墓域へと変化していく。天王台古墳群ではこれまでに28基の古墳が確認されていたが、今回の調査区ではこのうちの５基が対象となり、１基が新たに発見された。

26号墳は、築造法によるものであろうか、周溝内側にも溝が見られ、この溝の埋土を掘り込む、木棺直葬の主体部が検出された。27号墳は、東側周溝の中央部分を浅く掘り残し、陸橋状の施設を造り出す。周溝内からは底部穿孔の大型の坩が出土している。墳丘中央から木棺直葬の主体部が検出されたが副葬品は見られない。２号墳は調査区域外に延びるため、前方後方墳となる可能性も考えられる。28号墳は、26号墳同様に周溝内側に溝跡が見られた。墳頂下と墳丘北側裾部から木棺直葬の主体部が検出され、周溝内からは杯８点がまとまって出土した。29号墳は当初近世の塚として調査していたもので、段丘面上に位置する。塚の盛土部分からは乳文鏡と勾玉が出土したが、本来は中央主体部に副葬されたものと思われる。また、墳丘東側裾部からは木棺直葬の主体部が検出された。

出土遺物から、１・２・27号墳が古墳時代前期、26・28・29号墳が古墳時代後期の築造と考えられる。調査区内においては２号墳→27号墳→１号墳→26号墳・28号墳→29号墳の順に変遷していくものと思われ、前期には台地先端部に築造され、後期になるとこれを取り巻くように斜面部、さらには段丘面まで広がっていったと考えられる。

村田川・神崎川流域では、草刈遺跡・菊間遺跡・大厩遺跡・小田部古墳など出現期から前期の古墳が多く所在し、鏡も新皇塚古墳・大厩浅間様古墳で出土していることから、古墳群を支えた集落跡を含め、周辺遺跡との関連を検討していく必要がある。　（鶴岡英一）



古墳番号	墳形	墳丘規模	埋葬施設	出土遺物	時期
1号墳	円墳	径14.6m・高0.8m		土師器（椀・甕）	前期
2号墳	方墳	長18.0m・高1.0m		土師器（壺・甕）	前期
26号墳	円墳	径16.5m・高0.8m	木棺直葬1	耳環2	後期
27号墳	方墳	長14.0m・高0.6m	木棺直葬1	土師器（坩）	前期
28号墳	円墳	径20.0m・高1.6m	木棺直葬2	直刀2・耳環4・ガラス小玉212・須恵器（杯）・土師器（杯）	後期
29号墳	円墳	径20.0m・高0.7m	木棺直葬1	乳文鏡1・勾玉1・直刀2・耳環2・ガラス小玉21・管玉9・土師器(杯)	後期

潤井戸天王台古墳群全体図

4．市原条里制遺跡（菊間徳万地区Ａ）

事 業 名　若宮都市下水路築造工事に伴う埋蔵文化財調査業務委託

所 在 地　市原市菊間20番地他

調査期間　平成９年８月18日～平成９年８月21日（確認調査）

平成９年８月22日～平成９年９月19日（本調査）

調査面積　1500㎡（確認調査 150㎡・本調査 558㎡）

調査概要　今回の調査地区の周辺では、東関道関連（県文化財センター）や小規模な調査が数ヶ所で実施されている。遺構の内容は縄文時代後期の包含層、古代から近世の溝や畦畔跡などが検出されている。当調査は下水路の改変工事関連であり、調査地点の標高は約５ｍ、東京湾の旧汀線からは約２㎞内陸に入った後背湿地部分である。調査の結果、西側では近世以降の削平がみられ遺構の残存は不明確であった。東側ほど各層が厚く残り、縄文泥炭層から古代～近世にいたる層位を確認した。層位と時代は図４のとおりである。検出した遺構は古代と考えられる疑似畦畔で５ヶ所確認した。幅は0.5ｍ～２ｍで西側は最も幅広くＴ字状に交差する部分ともみられる。各畦畔の間隔は６ｍ～12ｍである。出土遺物は、土師器片・須恵器片・布目瓦片・加工木材片等である。また、ラフラ等について㈱古環境研究所に分析をお願いしたので別項に紹介する。

（田中清美）

図１　位置図

図2　調査関連図（古代の畦畔）

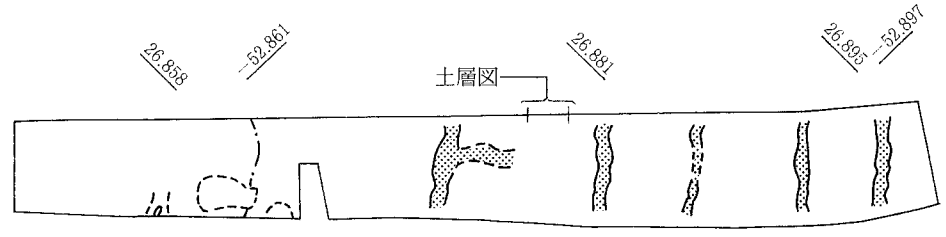
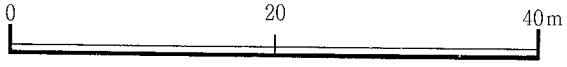
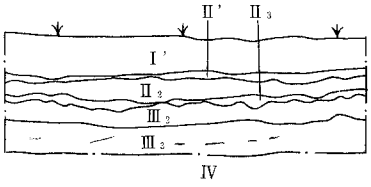
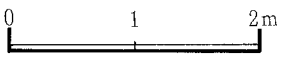


図3　調査全体図







Ⅰ'　耕作土
Ⅱ'　青灰色
Ⅱ2　黒灰色（近世～中世）
Ⅱ3　〃　（古代）
Ⅲ2　茶褐色泥炭層（縄文後期以前）
Ⅲ3　黒色泥炭層
Ⅳ　砂層

図4　標準土層図

市原市、市原条里（菊間徳万地区Ａ）の自然科学分析

株式会社古環境研究所

Ⅰ．市原条里（菊間徳万地区Ａ）の地質とテフラ

１．はじめに

市原市とその周辺には、富士火山や箱根火山のほか、浅間火山や南九州の姶良火山など多くの火山から噴出したテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が分布している。これらのテフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされているものがあり、それら示標テフラとの層位関係を遺跡で求めることによって、土層の形成年代や遺構の構築年代に関する資料を収集できるようになっている。

そこで、沖積低地の良好な土層の断面が認められた市原条里（菊間徳万地区Ａ）において、地質調査を行って土層の層序についての記載を行うとともに、テフラ検出分析と屈折率測定を合わせて行って、土層の形成年代に関する資料を得ることを試みた。調査分析の対象となった地点は、基本土層断面である。

２．土層の層序

基本土層断面では、下位より灰色砂層（層厚10㎝以上）、褐灰色砂質土（層厚８㎝）、黒灰色泥炭層（層厚３㎝）、白色風化粗粒火山灰層（層厚0.4㎝）、黒灰色泥炭層（層厚４㎝）、黒灰色泥炭層（層厚３㎝）、白色風化粗粒火山灰層（層厚0.3㎝）、黒灰色泥炭層（層厚２㎝）、暗灰色土（層厚10㎝）、黄褐色土の粒子混じりで若干色調の暗い灰色土（層厚15㎝）、褐灰色粘質土（層厚11㎝）、褐灰色作土（層厚18㎝）、が認められる（図１）。発掘調査では、これらのうち、暗灰色土の基底から疑似畦畔が検出されている。また、暗灰色土の上面には10世紀ころの畦畔が検出されている。

３．テフラ検出分析

（１）分析試料と分析方法

基本土層断面において認められたテフラ試料および基本的に５㎝ごとに採取された試料のうち５㎝おきの試料、合計11点について、示標テフラの層位確認および同定を行うためにテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

１）試料10ｇを秤量

２）超音波洗浄装置により泥分を除去。

3）80℃で恒温乾燥。

4）実体顕微鏡下でテフラ粒子の特徴を観察。

（2）分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。分析の対象となった試料の中では、試料番号13、10、7、1に比較的特徴のあるテフラ粒子を認めることができた。試料番号13には、若干円みを帯びたスコリア（最大径1.3㎜）が多く含まれている。スコリアの色調は、量の多い順に灰色、暗灰色、赤褐色である。試料番号7スコリア（最大径1.6㎜）が多く含まれている。スコリアの色調は、量の多い順に暗灰色、灰色、赤褐色である。

試料番号10には、暗灰色や灰色のスコリアが比較的多く認められる。また試料の中には、角閃石も少量含まれている。スコリアの最大径は1.2㎜である。試料番号7には、黒灰色や暗灰色のスコリア（最大径1.0㎜）のほかに、淡褐色の軽石（最大径0.4㎜）が少量含まれている。さらに試料番号1には、黒灰色や灰色のスコリアが多く含まれている。スコリアの最大径は1.1㎜である。

4．屈折率測定

（1）測定試料と測定方法

土層の観察とテフラ分析により、テフラの降灰層準の可能性が考えられた試料のうち、試料番号10と7の2点について、示標テフラと同定の精度を向上させるために、屈折率の測定を行った。測定は位相作法（新井，1972）による。

（2）測定結果

策定結果を表2に示す。試料番号10に含まれる斜方輝石の屈折率は（r）は、1.708-1.710である。またわずかながら、斜方輝石や単斜輝石のほかに角閃石も認められた。また、試料番号7には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が認められる。斜方輝石の屈折率（r）は1.708-1.711である。

5．考察－示標テフラとの同定と遺構の層位について

屈折率測定の対象とした試料のうち、試料番号7に含まれるテフラ粒子のうち、軽石や斜方輝石の多くは、1108（天仁元）年に浅間山火山から噴出した浅間Bテフラ（As-B，新井，1979）に由来する可能性が考えられる。また、試料番号2のスコリアは、1707（宝永4）年に富士火山から噴出した富士宝永テフラ（F-Ho，町田・新井，1992）に由来すると考えられる。したが

って、本遺跡において発掘調査により検出されている畦畔の層位は、As-Bより上位でF-Hoより下位にある可能性が考えられる。

スコリアが多く含まれている試料番号10の斜方輝石については、4世紀中葉に浅間火山から噴出した浅間C軽石（As-C，新井，1979）または1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（As-B，新井，1979）に由来する可能性が考えられる。ただ前述したように、上位の試料番号7にAs-Bに由来する軽石が含まれていることを考慮すると、この試料にはAs-Cに由来する斜方輝石の含まれている可能性の方が大きいと考えられる。また、若干含まれている角閃石については、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA，新井，1979，坂口，1986，早田，1989，町田・新井，1992）に由来すると思われる。したがって、この土層については、6世紀初頭以降で1108年以前に形成された可能性が考えられる。試料番号10のスコリアの特徴は、従来知られているテフラの中では、平安時代に降灰したと考えられている高島平4テフラ（Tk-4，早田ほか，1990）に比較的類似しているように思われる。

なお、試料番号13のテフラの形態や色調などは、大山台遺跡調査区北壁において、弥生時代の遺物包含層から検出されたスコリアによく似ており、両者は同じテフラの可能性が考えられる。

6．小結

市原条里（菊間徳万地区A）において、地質調査、テフラ検出分析、屈折率測定を行った。その結果、下位より2層のスコリア層のほか、浅間Bテフラ（As-B，1108年）、富士宝永テフラ（F-Ho，1707年）に由来する可能性の大きいテフラ粒子が検出された。また、このほかにも浅間火山や榛名火山起源に由来すると考えられるテフラ粒子が検出された。市原条里とその周辺では、さらに多くのテフラが検出される可能性が大きい。今後テフラに関する分析が継続されるとともに、精度の良い放射性炭素（^{14}C）年代測定が行われ、土層や遺構の年代が把握されることが期待される。

文献

新井房夫（1972）斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定－テフロクロノロジーの基礎的研究．第四紀研究，11，p．254-269

新井房夫（1979）関東地方北西部の示標テフラ．考古学ジャーナル，no，157，p．p．41-52.

町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．東京大学出版会，276p．

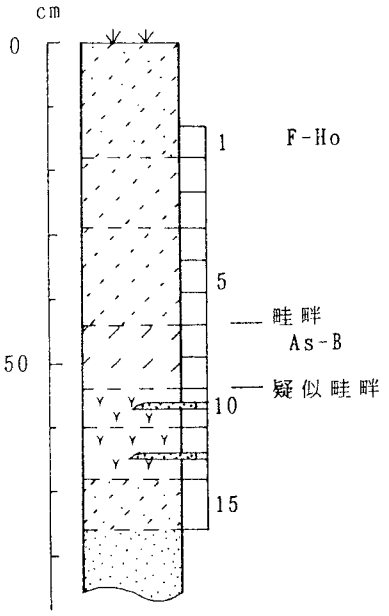
坂口　一（1986）榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器．群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・

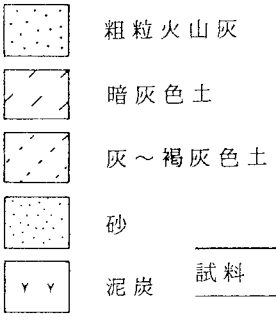
今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p. 103-119.

早田勉 (1989) 6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害. 第四紀研究, 27, p. 297-312.

早田勉・矢作健二・小田静夫 (1990) 古墳時代以降に江戸に降灰した火山灰－高島平北遺跡のテフラ層序. 日本第四紀学会公演要旨集, no. 20. p. 162-163.

図1　基本土層断面の土層柱状図





数字はテフラ分析の試料番号

表1　基本土層断面におけるテフラ検出分析結果

試料	スコリア			軽石		
	量	色調	最大径	量	色調	最大径
1	+++	黒灰＞灰	1.1	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-
5	+	黒灰，暗灰	0.8	-	-	-
7	+	黒灰，暗灰	1.0	+	淡褐	0.4
9	-	-	-	-	-	-
10	++	暗灰＞灰	1.2	-	-	-
11	+	灰＞褐	0.6	-	-	-
12	++	灰＞暗灰＞赤褐	1.0	-	-	-
13	++++	灰＞暗灰＞赤褐	1.3	-	-	-
14	+	赤褐	0.6	-	-	-
15	-	-	-	-	-	-

++++：とくに多い，+++：多い，++：中程度，+：少ない，-認められない．最大径の単位は，mm.

表2　基本土層断面における屈折率測定結果

試料	重鉱物	火山ガラス (n)	斜方輝石 (γ)	角閃石 (n_2)
7	opx>cpx	-	1.708-1.711	-
10	(opx,cpx,ho)	-	1.708-1.710	-

opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，ho：角閃石．屈折率の測定は位相差法（新井，1972）による．

Ⅱ．市原条里（菊間徳万地区Ａ）遺跡におけるプラント・オパール分析

１．はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（SiO2）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。

プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する方法であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や検査が可能である。（藤原・杉山，1984）。

市原条里（菊間徳万地区Ａ）遺跡の発掘調査では、As-Bの上位から畦畔遺構が検出された。ここでは、同遺構における稲作の検証を主目的として分析を行った。

２．試料

試料は、基本土層断面から採取された８点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

３．分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原，1976）をもとに、次の手順で行った。

１）試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）

２）試料約１ｇに対して直径約40μmのガラスビーズを約0.02ｇ添加
（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）

３）電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理

４）超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散

５）沈底法による20μm以下の微粒子除去

６）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成

７)検鏡・計数。

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールをおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。試料１ｇあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料１ｇ中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重、単位：10-5 ｇ）をかけて、単位面積で層厚１㎝あたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算計数は2.94、ヒエ属（ヒエ）は8.40、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、タケ亜科（ネザサ節）は0.48である。

4．分析結果

水田跡（稲作跡）の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科（おもにネザサ節）の主要な５分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表１および図１に示した。

5．考察

（１）水田跡の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料１ｇあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。ただし、関東周辺では密度が3,000個／ｇ程度でも水田遺構が検出されていることから、ここでは判断の基準を3,000個／ｇとして検討を行った。

基本土層断面では、F-Hoより下位の褐灰色粘質土（試料１）から灰色砂層（試料８）までの層準について分析を行った。その結果、褐灰色粘質土（試料１）、灰色土（試料２）、暗灰色土（試料３）からイネが検出された。このうち、褐灰色粘質土（試料１）と灰色土（試料２）では密度が5,000個／ｇ以上と高い値であり、畦畔が検出された暗灰色土（As-B混、試料３）でも4,400個／ｇと比較的高い値である。したがって、これらの層準では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

（２）堆積環境の推定

ヨシ属は比較的湿ったところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境（乾燥・湿潤）を推定することができる。

イネ以外の分類群では、As-Bより下位の泥炭層を中心にヨシ属が多量に検出され、それ以外の層準ではタケ亜科（おもにネザサ節）が多く検出された。また、定量は行わなかったが、泥炭層よりも上位ではクスノキ科などの照葉樹に由来する植物珪酸体が多く検出された。おもな分類群の推定生産量によると、As-Bより下位の泥炭層ではヨシ属が圧倒的に卓越していることが分かる。

以上のことから、稲作が開始される以前の遺跡周辺は、ヨシ属などが多く生育する湿地の状況であったと考えられ、As-B混層の時期にそこを利用して水田稲作が開始されたものと推定される。また、周辺の台地部などはタケ亜科（おもにネザサ節）を主体としてススキ属なども見られるイネ科植生であったと考えられ、クスノキ科などの照葉樹林を分布していたものと推定される。

6．まとめ

プラント・オパール分析の結果、畦畔遺構が検出された浅間Ｂテフラ（As-B，1108年）混層からは、イネが多量に検出され、同遺構で稲作が行われていたことが分析的に検証された。また、その上層から富士宝永テフラ（F-Ho，1707年）の下層にかけても、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。

本遺跡周辺は、稲作が開始される以前はヨシ属などが多く生育する湿地的な環境であったと考えられ、As-B混層の時期にそこを利用して水田稲作が開始されたものと推定される。

参考文献

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（１）－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，９，Ｐ．15-29.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究（５）－プラント・オパール分析による水田址の探査－．考古学と自然科学，17，Ｐ．73-85.

表１　市原条里遺跡（菊間徳万地区Ａ）におけるプラント・オパール分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

分類群＼試料	基本土層断面 1	2	3	4	5	6	7	8
イネ	53	67	44					
ヒエ属型	15				8			
ヨシ属	23	52	37	371	159	132	7	
ススキ属型	46	37	51		23	7	15	
タケ亜科	243	172	183	8	53	132	246	53

推定生産量（単位：kg/㎡・cm）

イネ	1.56	1.98	1.29					
ヒエ属型	1.28				0.64			
ヨシ属	1.44	3.30	2.31	23.41	10.05	8.33	0.47	
ススキ属型	0.57	0.46	0.64		0.28	0.09	0.18	
タケ亜科	1.17	0.82	0.88	0.04	0.25	0.63	1.18	0.25

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

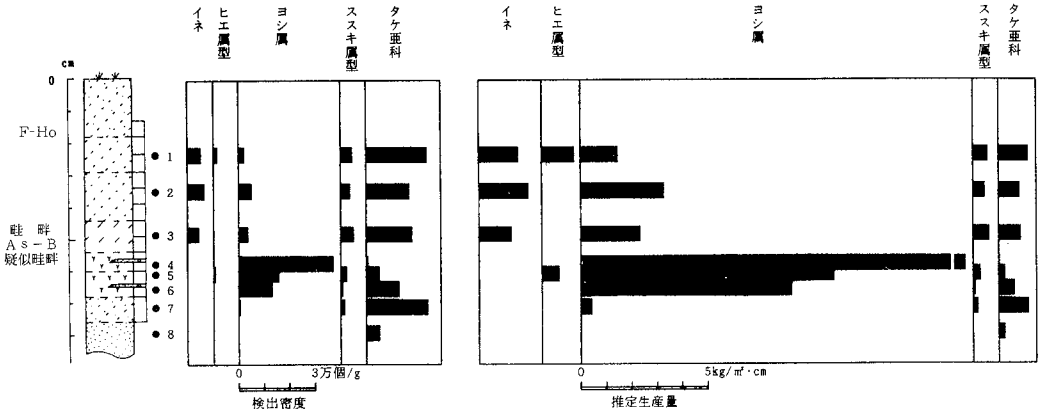


図１　市原条里遺跡（菊間徳万地区Ａ）、基本土層断面におけるプラント・オパール分析結果

5．瀬又小滝遺跡確認・本調査

事 業 名　瀬又加圧所用地埋蔵文化財調査委託（確認・本調査）

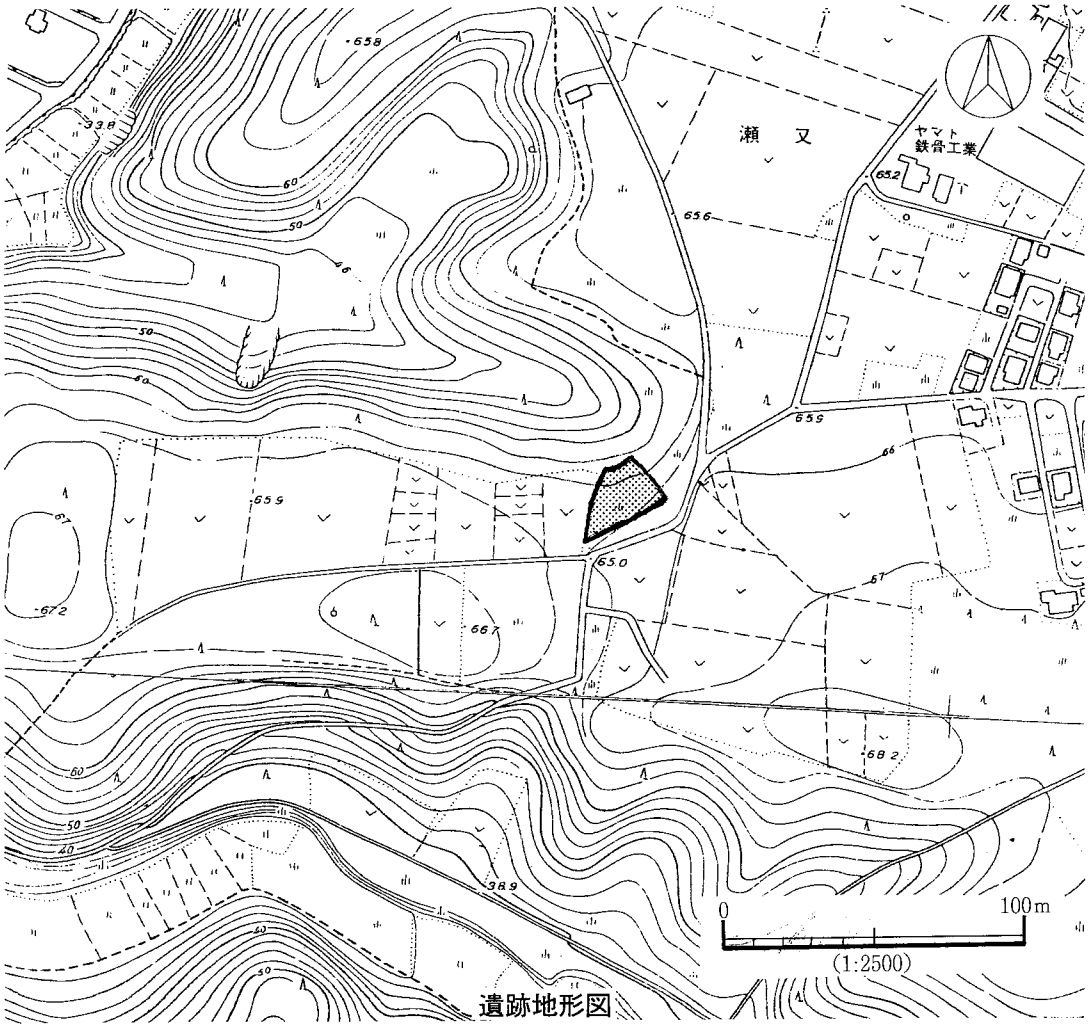
所 在 地　市原市瀬又字下漆房769-15

調査期間　平成９年７月１日～平成９年７月９日（確認調査）

平成９年７月10日～平成９年７月25日（本調査）

調査面積　500㎡のうち50㎡（確認調査）　100㎡（本調査）

調査概要　瀬又小滝遺跡は、村田川本流の上流域でその一小谷を望む台地縁辺部に位置し、河口から約12km入った地点である。今回調査した地点は、北西側に開いた小谷の最奥部台地端部に位置する。調査は対象範囲500㎡に10％のトレンチを設定し、その結果により南西側100㎡の本調査を実施した。調査の結果、縄文時代早期後半の竪穴状遺構、土坑を検出した。詳細は当平成９年度年報の付編１．瀬又小滝遺跡調査報告に掲載している。　（田中清美）



遺跡地形図

6．村上川堀遺跡２次

事業名　市道35号線（村上）建設に伴う埋蔵文化財調査（確認・本調査その１）

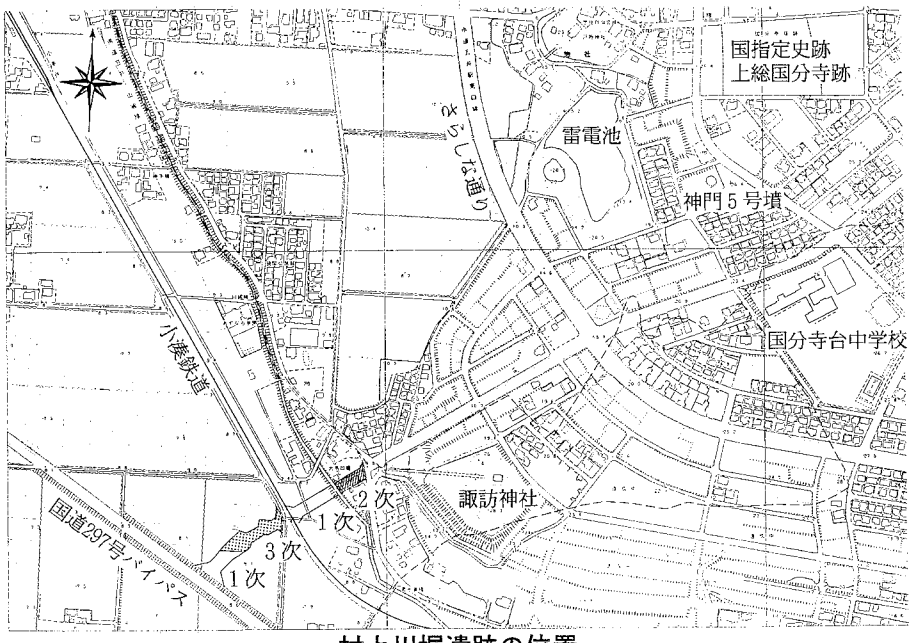
所在地　市原市惣社1646-4ほか

調査期間　平成９年７月14日～平成９年７月22日（確認調査）

平成９年８月１日～平成９年８月12日（本調査）

調査面積　625㎡のうち62.5㎡（確認調査）　190㎡（本調査）

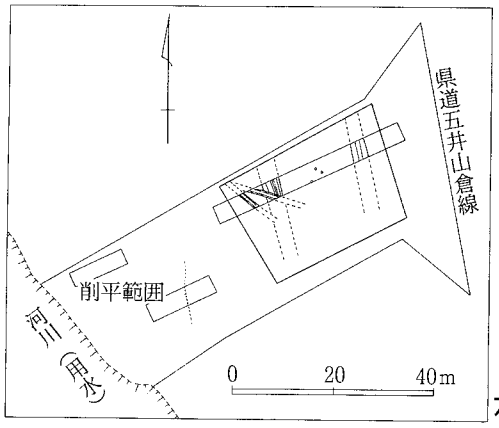
調査概要　村上川堀遺跡は養老川下流域平野の北側台地（市原台地）に接する標高10ｍ前後の沖積地に位置している。当遺跡の北東側台地上には、諏訪台遺跡・天神台遺跡・上総国分寺跡などの国分寺台遺跡群が所在する。また、隣接の低地上には、平成７年度に実施した１次調査により奈良・平安時代にかけての多数の溝や掘立柱建物・井戸状遺構などが発見されている。以上の状況を踏まえ、平成９年７月に対象地625㎡について確認調査を行ない、その結果190㎡の本調査が必要となり今回実施することとなった。調査の結果、区域内からは、溝跡９条を検出した。溝跡のうちSD1・SD2は、やや西よりに傾く南北方向のもので、方向的に類似性が見られる。SD1については幅約1.8ｍ前後、深さ40㎝で緩いＶ字の形状をもっている。SD2は、逆台形状で、幅約1.8ｍ前後、深さ50㎝で、２時期の掘り返しが確認できた。また、SD2溝の造作前にもう１条の溝（SD8）があり、この溝を壊してSD2溝が造られている。溝の時期については、覆土内から土師器・須恵器・瓦片が出土していることから平安時代と考えている。また、区域内のほぼ東西方向にかけて、上端幅６～70㎝のＵ字形をした類似性のある溝（SD3、SD5）



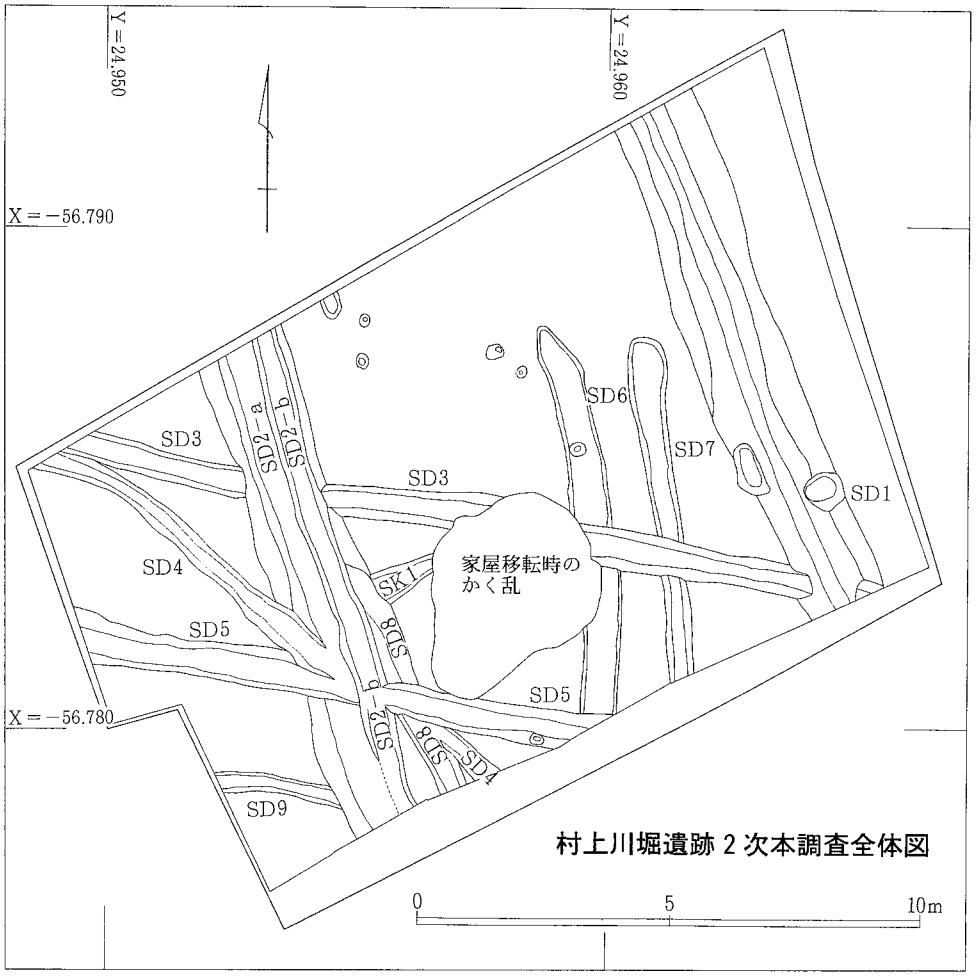
村上川堀遺跡の位置

が並行して2条検出されているが、その形状から、両側に溝をもつ幅3mの道路状遺構として取り扱った。時期については、当該遺構からの出土遺物が無いため、断定できないが、平安期の溝であるSD2を壊して造られている点、溝覆土がやや暗茶褐色ぎみなどから中世期と推定している。以上調査の結果、古墳時代の溝1条、平安期の溝2条、中世期の道路状遺構1基を検出した。平安期の溝については水路として考えられる。道路状遺構については、今回初めて検出されたもので、今後の調査により、その時期・性格等について明らかにされることと思われる。

（小出紳夫）



左図村上川堀遺跡2次確認調査全体図



村上川堀遺跡2次本調査全体図

7．村上川堀遺跡３次

事業名　市道35号線（村上）建設に伴う埋蔵文化財調査（確認・本調査その２）

所在地　市原市惣社2786-2の一部

調査期間　平成９年12月８日～平成９年12月19日（確認調査）

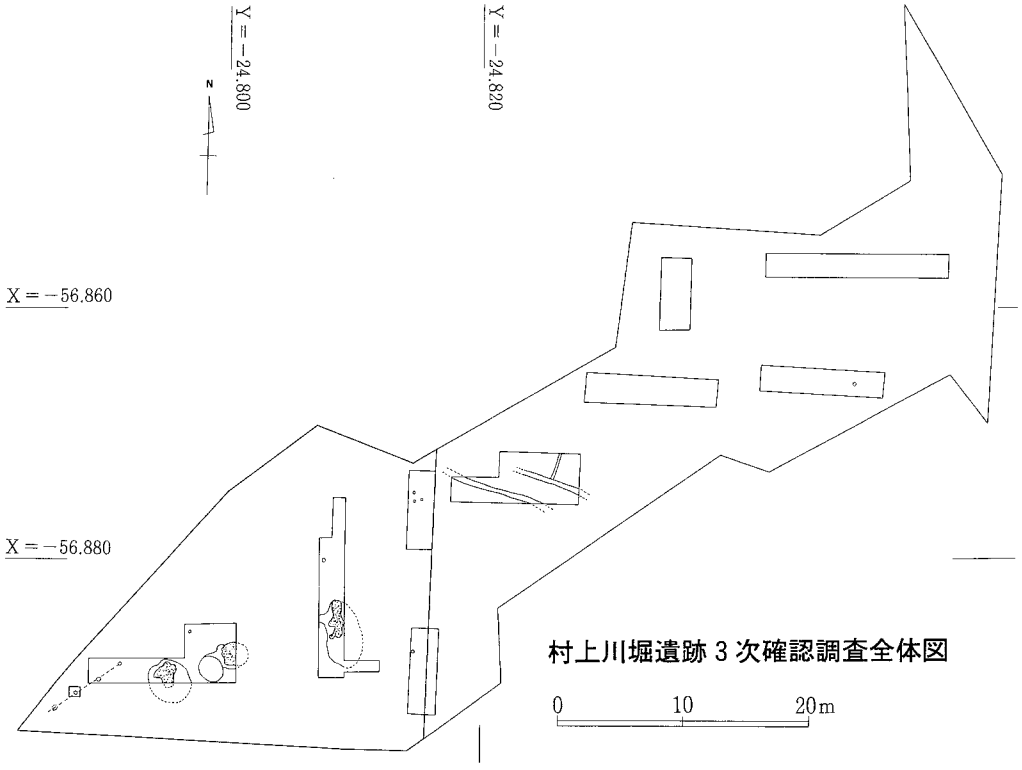
平成10年１月21日～平成10年２月10日（本調査）

調査面積　1,417㎡のうち142㎡（確認調査）　560㎡（本調査）

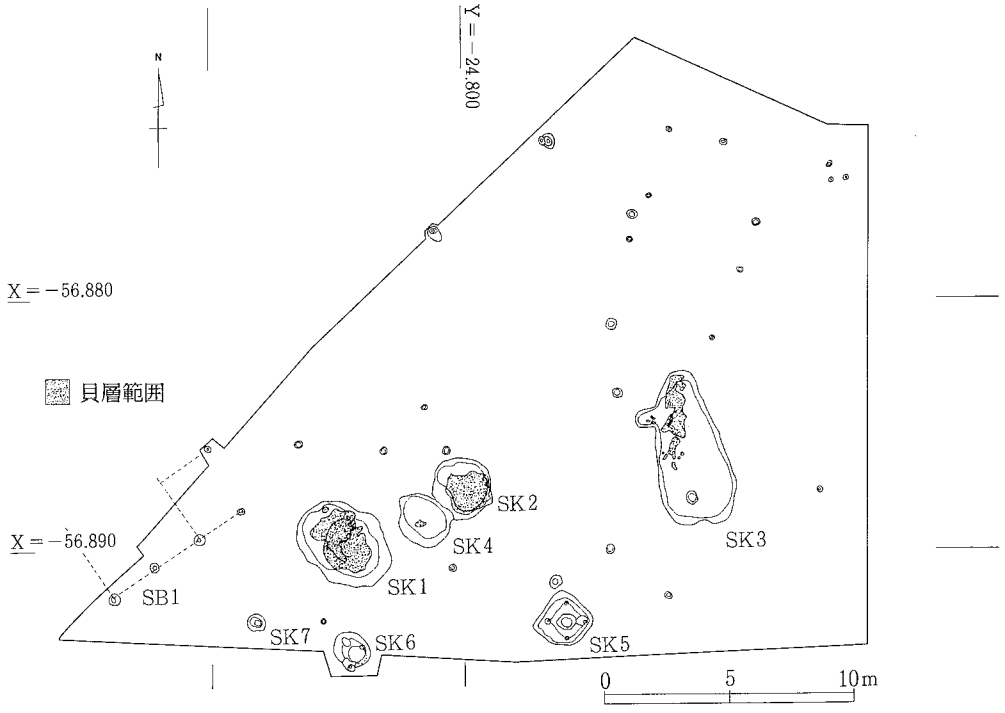
調査概要　村上川堀遺跡は養老川下流域平野の北側台地（市原台地）に接する標高８ｍ前後の沖積地に位置している。今回の調査は、平成９年12月に実施した路線部分（対象面積1,417㎡）の確認調査結果により、遺跡の所在する部分560㎡（路線の南西側約1/3）について、本調査を行なうこととなった。調査の結果、区域内から平安時代の井戸跡２ヶ所（SK5, SK6）、土坑１基（SK7）、同じく平安時代と推定される掘立柱建物跡１棟（SB1）、中世の土坑２基（SK2, SK4）、地下式壙１基（SK1）および地下式壙・土坑（SK2）に伴う中世の貝層ブロック４ヶ所を検出した。

井戸跡のうち、SK5については、1.8ｍ（６尺）方形の掘り形で、そのなかの四隅に柱と井戸枠を正方形（３尺方形）にはめ込んだ状態での板の痕跡が残っていた。また、もう一方の井戸跡SK6については１ｍ前後の丸い形状で、２本の柱の痕跡が見られることから「釣るべ井戸」と考えられる。SK1については、当初規模の大きな土坑と考えていたが、形状が長径４ｍ、短径３ｍの楕円形で深さ1.4ｍを持つ点、土坑内の堆積物のなかに天井の崩落した状況を示している点、また、一般の地下式壙の内部からよく出土する巻き貝のアカニシが、底部付近から出土していることから、中世地下式壙と判断した。なお、この覆土からは、アサリ・イボキサゴを主体とした貝層と、その下部からアサリ・ハマグリ・マデガイを多く含むもう一枚の貝層が検出されている。SK2, SK4については、両方とも径２ｍ前後で深さ1.3ｍ程のほぼ円形な土坑である。両方とも天井が崩落したような粘土塊が多量に堆積していた。またSK2土坑内部には、粘土塊の上にアサリ・ハマグリ・イボキサゴを主体とする貝が捨てられた状態で多量に含んでいた。SK3については、長径６ｍ、短径３ｍ、深さ40㎝程度の底の浅い不整形な土坑で、SK2同様にアサリ・イボキサゴなどの貝が多量に検出されている。

確認調査の時点では、耕地整理時の削平により遺構は、おおかた壊されているものと考えていたが、比較的残りがよく、また予想した以上の遺構が検出された。特に、地下式壙は、一般的に高台に造られることがほとんどであるが、今回発見した地下式壙については、このような水の湧く低地に造られることはあまり例のないものと考えている。また、平安時代の井戸跡などの多くの遺跡が検出されていることから、この一帯に平安時代の集落が所在した可能性が考えられると共に、当時の住環境が、比較的安定していたものと想像できよう。　（小出紳夫）



村上川堀遺跡３次確認調査全体図



村上川堀遺跡３次本調査全体図

8．山田橋大山台遺跡

事業名　（仮称）市原市総合防災センター用地埋蔵文化財発掘調査

所在地　市原市山田橋字大田336ほか

調査期間　平成９年４月１日～平成10年３月31日

調査面積　11,496㎡　（上層11,000㎡，下層496㎡）

調査概要　大山台遺跡については平成６年度確認調査から平成７・８・９年度の本調査まで遺跡の立地、近隣遺跡、遺構について図中の参考に記した通り数多く記事にされている。平成11年度からは整理報告作業が開始され、先行隣接遺跡は弥生時代に関しては同一集落である。

遺跡は扇状の市原台地中央部に当たり、八幡方面新田川と五井方面金杉川の台地を開析した谷頭の分水界、標高33m前後の台地上にある。市原台地の弥生時代、水稲耕作を始め、水田を営んだ弥生時代中期の集落の立地の多くは海岸平野を見下ろす谷口地域から始まる。その後弥生後期までは開析された谷に沿って上流の方向に水田開発が進み、新田川水系には能満唐崎台遺跡が残されている。また金杉川や白幡川水系には上総国分尼寺下層の祇園原、坊作遺跡に弥生中期から後期の集落が調査されている。それら複数の水系の水源地域にあり、弥生時代後期のみで形成された200軒を超える竪穴式住居跡があり、拠点集落と考えられる当遺跡である。

山田橋遺跡群は直径500mあり、表通・大塚台・東千草山遺跡まで弥生時代後期の住居跡は検出され、集落は面的に連続する。その中で主軸長が7,5mを超える大型竪穴式住居跡が分散して６軒有り、集落を構成する住居跡の主軸が南北を向きながらもかなり振れるものもあることから、時期差や時間差があると考えられる．弥生時代当該期の方形周溝墓は３基と少なく、他に木棺直葬の土壙墓が３基検出され、なかでも住居跡主軸に直交して土壙墓が構築されたものが２基あり、256号方形周溝墓の主体部が住居跡廃絶直後に構築されたものもある。

古墳時代にはいると集落は縮小し、台地縁辺に神門型の古墳が１基あり山田橋大塚台古墳として現高４ｍ、直径30ｍ現存している。古墳時代中期には小円墳が１基、後期には竪穴式住居跡が数軒のみとなり、奈良時代には入っても小規模な集落となる。その中で畿内産の暗文のある杯が出土しており、８世紀中頃と推定される。

北側隣接の表通遺跡から続く道路遺構は、表通遺跡の接続するであろう溝状遺構から出土した岡の異体字よる「望館」と墨書された須恵器の杯が８世紀後半と考えられることから、奈良時代以降の官道と推定される。大山台遺跡には館跡が存在しないため、近隣の上総国分寺の瓦が出土する千草山廃寺は立地上官衙的性格があると考えられる。道路遺構は中世まで利用され、江戸時代前期には埋没し、富士宝永火山灰が上部に堆積している。

複数の調査の集合ではあるが、国分寺台遺跡群の隣接部分を５万㎡以上の調査をしているこ

とになる。公表された弥生時代後期一括資料の表通遺跡(11)46号遺構は、調査区域の東端に位置する(1~4)。東海地方の影響を受けた資料は、市内南部に出土している(5)。海岸平野谷口に立地する中期から後期の拠点環壕集落(6•7)とは、谷頭分水界の後期成立の拠点集落の当遺跡とは性格が異なる。弥生後期のみの集落調査事例(8)が近隣にあり、比較検討材料が揃い始めている。国分寺台遺跡群の整理報告作業も始まり、坊作遺跡などさらに有効材料が資料化されることになるだろう。弥生時代研究も新しい視点の共有化では調査報告(9)が刊行され、新しい展望が開かれている。竪穴式住居跡や道路遺構については、テフラ分析、土壌分析を利用して埋積過程の事実を確認するため自然科学分析を予定している。遺物出土状態は遺跡遺構との関連において重要である。それを内包している遺跡遺構の覆土は従来関心が薄かったが、考古学上覆土を考える新しい視点の調査事例が刊行されている(10)。

大山台遺跡では、谷頭地域まで弥生時代から奈良時代までの遺構が存在し、上部の道路遺構から弥生後期竪穴住居跡確認面まで３ｍあり、良好な房総地域の普遍的土壌の堆積を検出した。谷頭部の土壌調査の植物珪酸体分析から、遺跡内の標準土層に植生変遷が追えることを確認し、古環境研究所の杉山真二氏に調査成果の要約をお願いし、本稿後に掲載した。感謝申し上げたい。分析方法は、本誌４．市原条里制遺跡（菊間徳万Ａ）と同様であり、参照をお願いしたい。

（近藤　敏）

(1) 大村 直「46号遺構一括土器群」『シンポジュウム房総の弥生文化』1988.11千葉県立房総風土記の丘

(2) 鮫島和大「南関東弥生後期における縄文施文の二つの系統」『考古学研究室紀要十二号』1994.3 東京大学文学部考古学研究室（端末結節縄文と東海系影響土器の関連研究）

(3) 鮫島和大「弥生町の壺と環濠集落」『考古学研究室紀要十四号』1996.6 東京大学文学部考古学研究室（東海地方からの影響を中後期の環濠の変遷及び土器施文の規格性問題研究）

(4) 「移行期の南関東地方の遺跡1-4-⑤」『第34回企画展古墳出現のなぞ』1991.1栃木県立博物館

(5) 南富士台遺跡『市原市文化財センター調査報告第22集』1987.3（菊川式出土）

(6) 菊間手永遺跡『市原市文化財センター調査報告第23集』1987.3

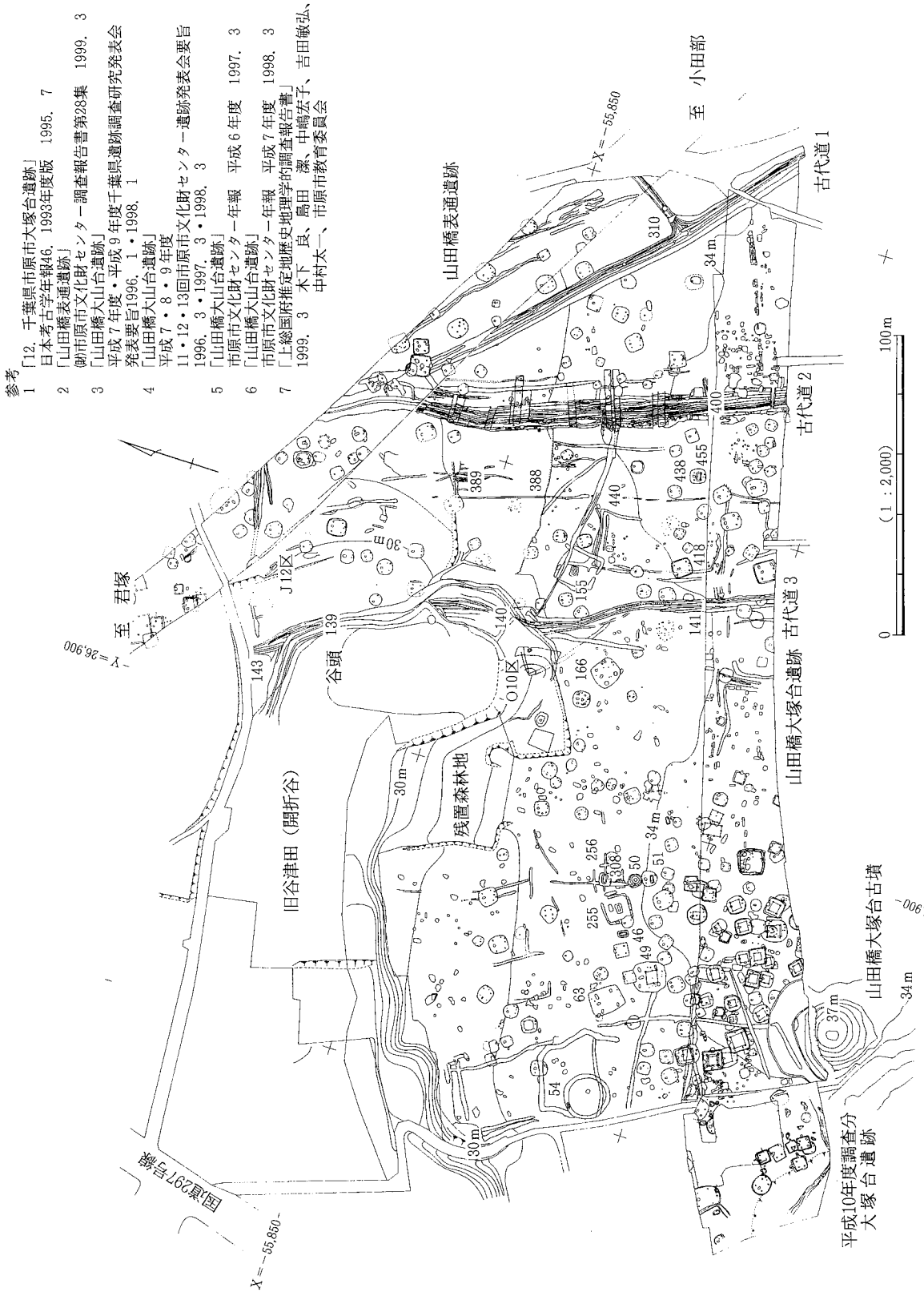
(7) 鈴木敏弘「午王山遺跡」『和光市埋蔵文化財調査報告書第９集』1993.3（菊川式出土）

(8) 「市原市武士遺跡１」『千葉県文化財センター調査報告第289集』1996.3

(9) 早稲田大学校地埋蔵文化財調査室「第２部下戸塚遺跡の調査」1996.3早稲田大学

(10) 目黒区大橋遺跡調査会「大橋遺跡」1998.3（覆土等の事実記載に重点を置いた遺構論）

(11) 山田橋表通遺跡『市原市文化財センター調査報告書第28集』1999.3



山田橋大山台遺跡及び隣接遺跡の全体図（平成７・８・９年度分）

市原市、大山台遺跡における植物珪酸体分析（要約）

杉山真二（古環境研究所）

1．試料

大山台遺跡における最終氷期以降の植生・環境を推定する目的で植物珪酸体分析を行った。分析試料は、0－7区テストピット、0－11区136号遺構、0－10区、調査区北壁の4地点から採取された計24点である。0－10区における試料採取箇所を図に示す。

2．植物珪酸体分析から推定される植生と環境

姶良Tn火山灰（AT,約2.4-2.5万年前）の下位層から安房ガラス（AG,約1.3-1.4万年前）混層にかけては、クマザサ属（ミヤコザサ節を含む）などのササ類を主体としたイネ科植生が継続されていたと考えられ、とくにAT混のⅥ層やその下層のⅦ層ではミヤコザサ節が繁茂する状況であったと推定される。

タケ亜科のうち、メダケ属ネザサ節は温暖、クマザサ属は寒冷の指標とされ、両者の推定生産量の比率である「ネザサ率」の変遷は、地球規模の氷期－間氷期サイクルの変動とよく一致することが知られている。ここではクマザサ属が圧倒的に卓越していることから、当時は寒冷な気候条件で推移したと推定される。また、クマザサ属のうちチシマザサ節やチマキザサ節は現在でも日本海側の寒冷地などに広く分布しており、積雪に対する適応性が高いとされているが、ミヤコザサ節は太平洋側の積雪の少ないところに分布している。ここではミヤコザサ節が優勢であることから、当時は寒冷で乾燥した気候環境であったと推定される。

クマザサ属は氷点下5℃程度でも光合成活動をしており雪の中でも緑を保っていることから、大半の植物が落葉または枯死する秋から冬にかけてはシカなどの草食動物の重要な食物となっている。気候条件の厳しい氷期にクマザサ属のササ類が豊富に存在したことは、当時の動物相を考える上でも重要である。

Ⅶ層よりも下位層ではネザサ節の比率が高くなっており、その後の時期よりも比較的温暖であったと推定される。この温暖期は、ATとの層位関係などから、約3万年前頃とされる最終氷期の亜間氷期（酸素同位体ステージ3）に対比される可能性が考えられる。

AGの上層から鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah,約6,300年前）の上層にかけては、クマザサ属などのササ類を主体として、ススキ属やチガヤ属、ネザサ節なども見られるイネ科植生が継続されていたと推定される。クマザサ属は森林の林床でも生育が可能であるが、ネザサ節やススキ属は日当たりの悪い林床では生育が困難である。このことから、当時の遺跡周辺は森林で覆われたような状況ではなく、比較的開かれた環境であったと推定される。

伊豆カワゴ平テフラ（kg，約2,800～2,900年前）混層からⅡa層にかけては、ネザサ節を主体として、ススキ属やチガヤ属、メダケ節なども見られる草原的な環境が継続されていたと推定される。また、Ⅱb層（暗褐色土）の時期には遺跡周辺にクスノキ科やブナ属などの森林（林）が分布していたと推定される。

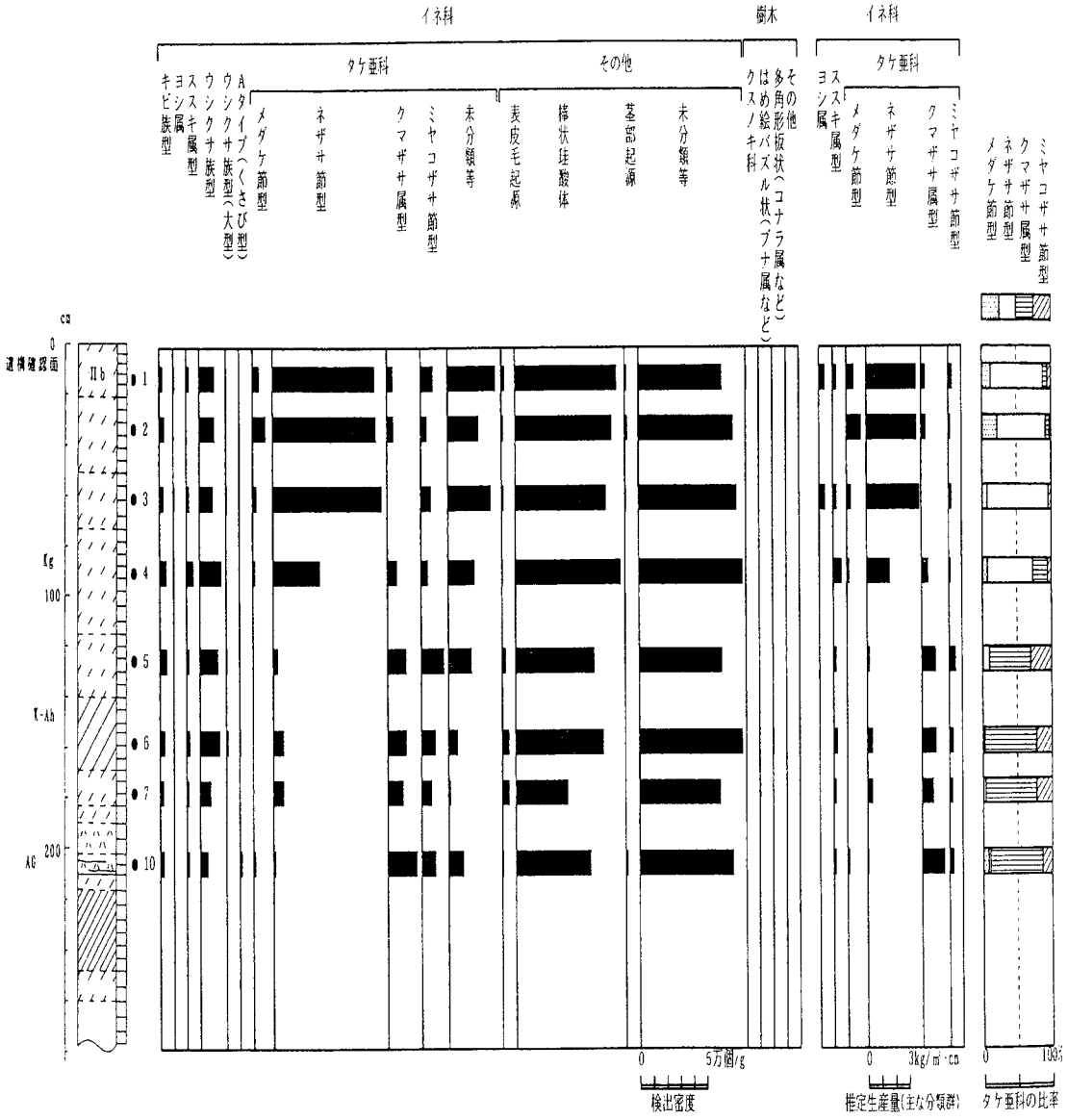


図　大山台遺跡、O-10区における植物珪酸体分析結果

9．不入斗百枚田遺跡

事 業 名　市立有秋中学校駐輪場等整備事業に伴う埋蔵文化財調査業務委託

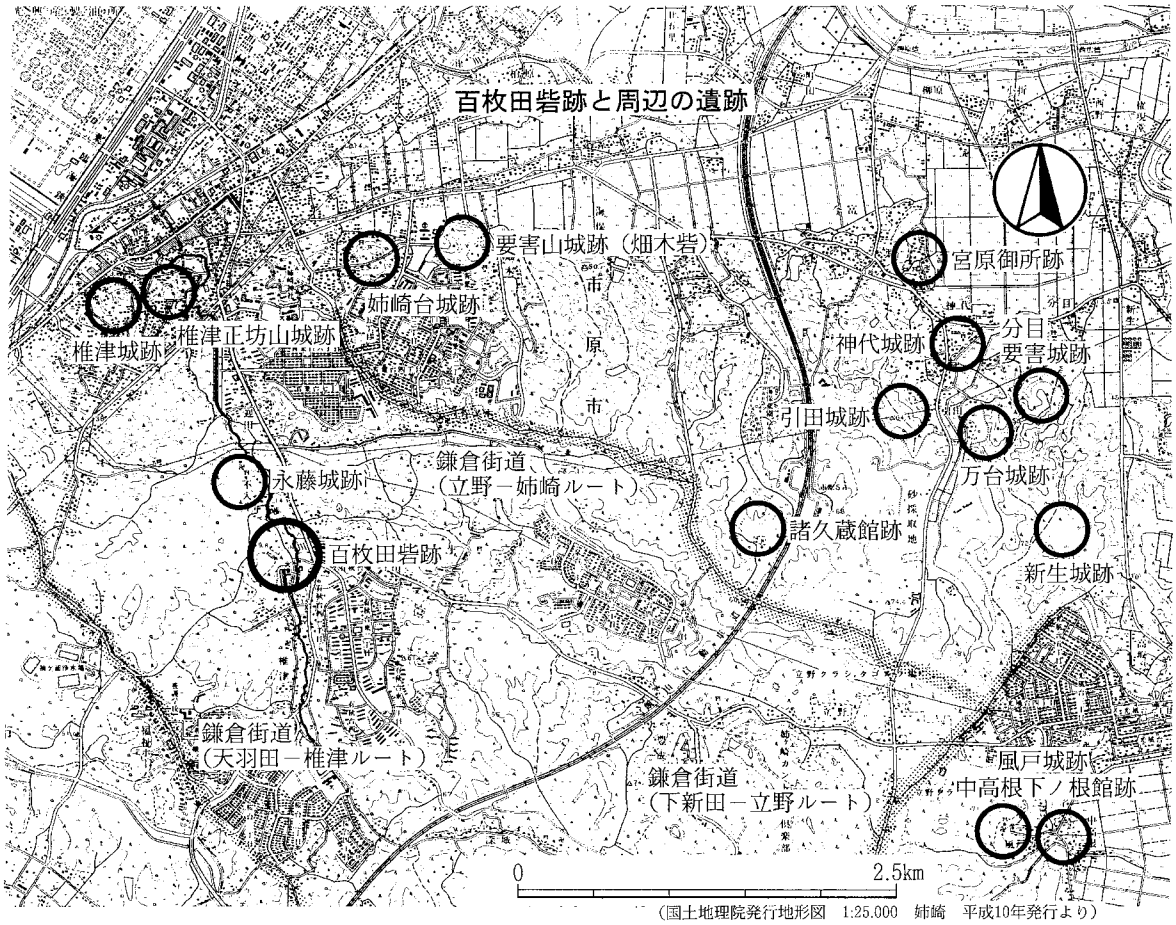
所 在 地　市原市不入斗1272番地

調査期間　平成9年4月22日～平成9年5月15日

調査面積　360㎡（確認調査・本調査）

調査概要　今回の調査は中学校用地内の駐輪場の建設に先立つものである。遺跡は椎津川（境川）上流、深城川と片又木川の合流する地点の、これら小河川に樹枝状に開析された標高24m～38m、南西方向から北東方向に延びる痩せ尾根状をなす台地に位置する。 本遺跡の北西、小谷を挟んで、中世、戦国期とされる永藤城跡が位置する。調査の結果、遺構は、土塁１基、この土塁と並行して延びる溝状遺構２条、台地整形痕、近世土坑１基が検出された。土坑以外の遺構の時期は、近世以前ではあるが、その上限は不明である。なお、詳細については、本報告が附編に収録されているので、そちらを参照されたい。

（北見一弘）



（国土地理院発行地形図　1:25.000　姉崎　平成10年発行より）

10. 潤井戸鎌之助遺跡

事業名　市津運動広場建設に伴う埋蔵文化財本調査委託

所在地　千葉県市原市潤井戸11－2他

調査期間　平成9年6月2日～平成10年3月31日

調査面積　17,600㎡のうち8,100㎡

調査概要　潤井戸鎌之助遺跡は、東京湾の八幡浦から村田川を7㎞ほど上流に遡った、微高地形（低位段丘面）上に立地している。調査は、市津運動広場建設工事に先行して実施したものであり、平成8年度の確認調査結果を受けて定められた範囲を対象とした。

今回の本調査によって記録した遺構の主な内容は以下のとおりである。

縄文時代後晩期……竪穴住居跡4軒、陥し穴5基、袋状ピット12基、ピット群4ヶ所

弥生時代後期……竪穴住居跡1軒、方形周溝墓3基、溝2条

古墳時代前期……竪穴住居跡12軒

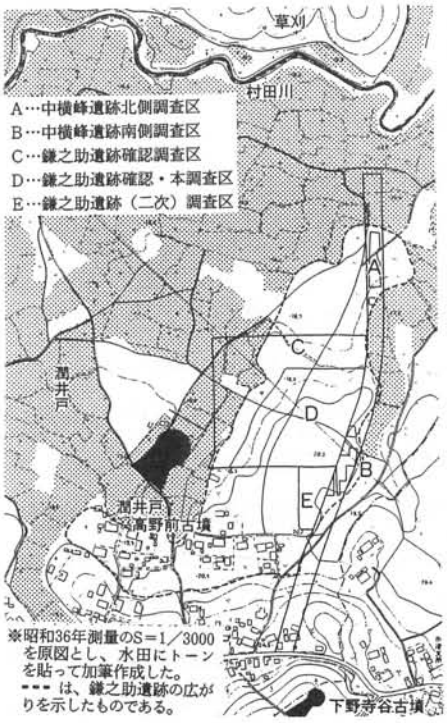
古墳時代後期……竪穴住居跡1軒

飛鳥時代～奈良時代……掘立柱建物跡13棟、竪穴住居跡7軒、道路跡1条、区画溝1条、ピット群

中世以降……地業跡1ヶ所、道路跡1ヶ所、溝2条

縄文時代では、発見された住居跡の数が比較的少ないようであるが、削平個所にも、炉跡などの残欠が数カ所で発見されている。確認調査結果を踏まえるならば、調査対象地の南半分から西の地域にかけて集落が展開していたものと考えられよう。弥生時代では、方形周溝墓の存在が際立っている。この種の墓域は、東側隣接地区の調査（潤井戸中横峰遺跡）でも北側250m程の地点で発見されている。西南に1軒発見された竪穴住居跡は、弥生時代の集落が、この辺りから西側に向けて広がっていることを示唆していよう。弥生時代の集落が西南寄りに偏っているものと考えられるのに対して、古墳時代前期の集落は北側斜面部寄りと西南部の平坦面とに広く展開していることが看守される。今年度の調査遺構の中ではもっとも多い数の住居跡によって構成される集落であり、特に西南部の建物の中には立て替えをおこなったものが認められるなど、安定した集落のあり方を示していた。しかし、古墳時代後期の集落は、調査区の中にほとんど姿を見せていない。確認調査のみの地区の中には、後期の住居跡も含まれているようである。近隣地域に移動したのであろう。七世紀の中頃になると、掘立柱建物跡が出現する。建物の配置に規則性が認められ、従前の集落とは不連続な施設であることを際立たせている。また、この建物群の一部と振れを同じくする当該機の道路跡も発見されており、自然集落には見られない特徴として、特筆されるべき事象であった。

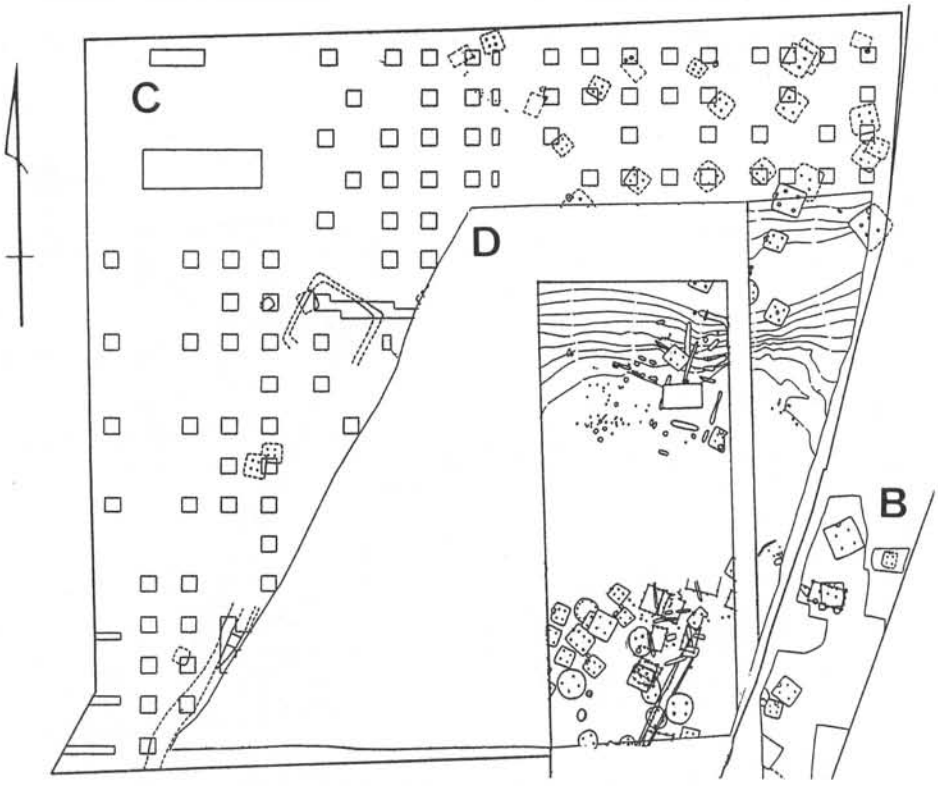
（田所　真）



潤井戸 鎌之助遺跡の立地

潤井戸鎌之助遺跡の全景（北から）

掘立柱建物群の全景（東から）



潤井戸 鎌之助遺跡遺構配置図

11. 十五沢坊ヶ谷遺跡

事業名　海上地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財調査

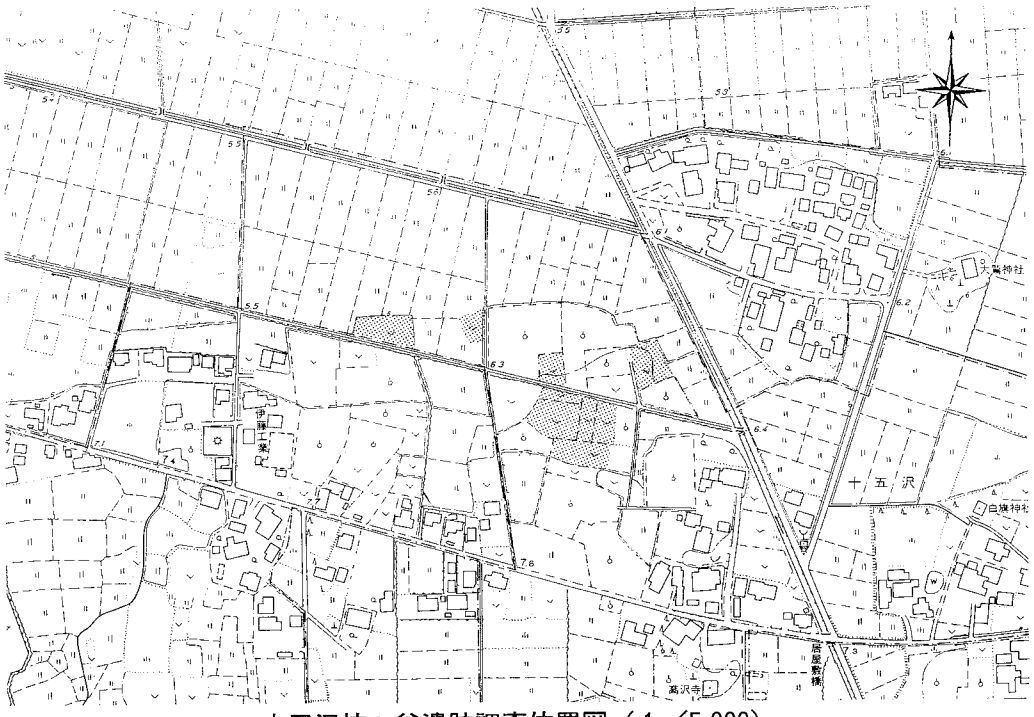
所在地　千葉県市原市十五沢字居屋敷

調査期間　平成９年１月21日～３月13日

調査面積　3,600㎡のうち180㎡（確認調査）

調査概要　今回の調査地点は、養老川に面する標高約６ｍ～７ｍの自然堤防上に位置している。

今回の確認調査は、自然堤防上の畑を中心に実施している。検出された遺構は、溝状遺構６条、井戸跡１基である。溝状遺構はいずれも区画溝と考えられるが、遺物を伴わなかったため時期は不明である。井戸跡も完掘したが、遺物も皆無であった。確認グリッドからは奈良・平安時代の土師器片が若干出土しただけであった。この地域は海上郡衙の推定地であることから郡衙関連遺構の検出が期待されたが、今回の調査地点においては遺構・遺物が極めて希薄であった。今回の調査地点の東方では昭和59年の国道297号線バイパスの調査で厨家と思われる掘立柱建物跡や区画溝が検出されたほか、平成７年度に国庫補助による確認調査が実施され、高床構造の郡衙正倉の可能性がある総柱式建物跡１棟が検出されている。また、平成８年度の国庫補助による確認調査でも掘立柱建物跡５棟、井戸跡１基などが検出されており、郡衙関連の施設と考えられる遺構が点在することが把握されつつある。　（蜂屋孝之）



十五沢坊ヶ谷遺跡調査位置図（１／5,000）

12. 郡本（こおりもと）遺跡（第３次）

事業名　市内遺跡発掘調査

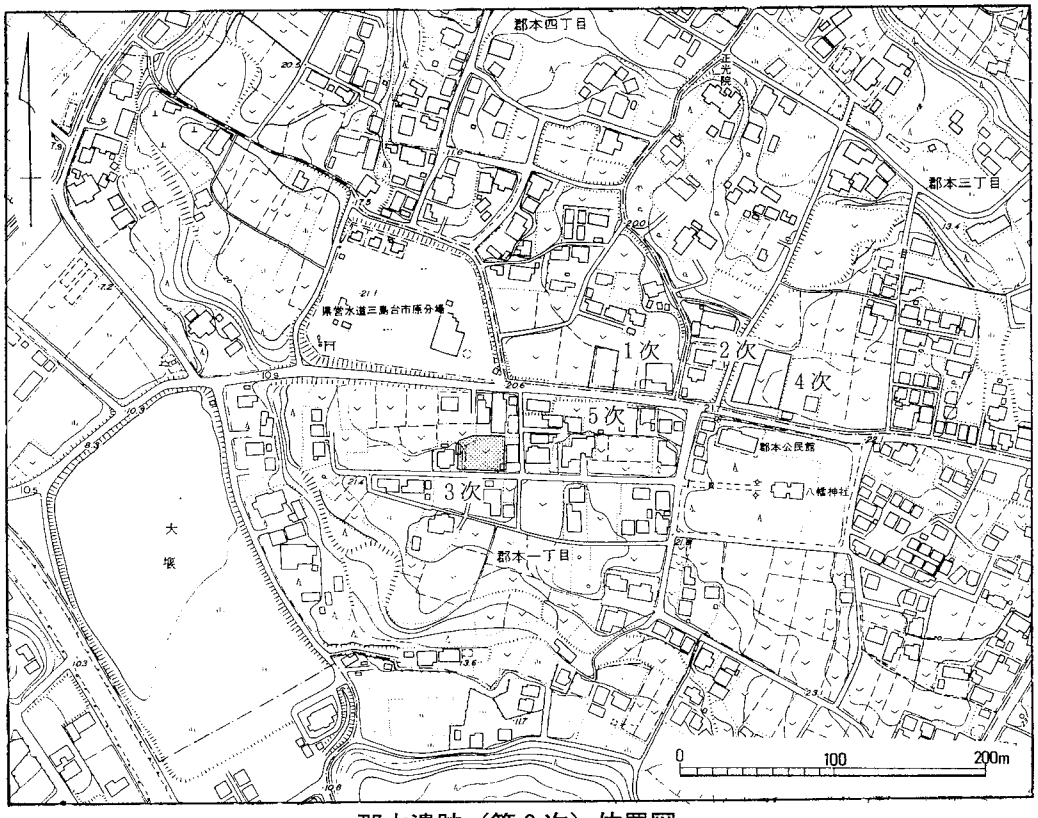
所在地　市原市郡本１丁目131

調査期間　平成９年４月14日～平成９年４月23日

調査面積　604.53㎡のうち60㎡（確認調査）　245㎡（本調査）

調査概要　市原台地は上総下総国境界を流れる村田川と、上総海上郡と市原郡境界を流れる養老川に挟在する台地である。市原台地西部域の上総国分寺跡を中心とする国分寺台遺跡群と、市原台地中央市原郡衙推定地を中心とする郡本遺跡群を分ける白旗川水系右岸を臨む、郡本大堰東側の標高21m前後の台地に郡本遺跡（３次）調査地点はある。市原郡衙推定地中心部とされる郡本八幡神社参道はほぼ東西方向に走り、その参道北辺沿いに存在する。遺構として古墳時代後期の２号竪穴式住居跡、奈良時代の１号竪穴式住居跡を各１軒とピットを多く検出している。また溝状遺構は平安時代中期頃まで遡れそうである。１号住居跡からは土師器の杯、甕や、須恵器杯、蓋等が出土しており、また管状土錘が20点以上出土している。　（小川浩一）

「郡本遺跡（第３次）」『平成９年度市原市市内遺跡発掘調査報告』1998.３市原市教育委員会



郡本遺跡（第３次）位置図

13. 草刈谷畑遺跡

事業名　市内遺跡発掘調査

所在地　市原市草刈1273番地ほか

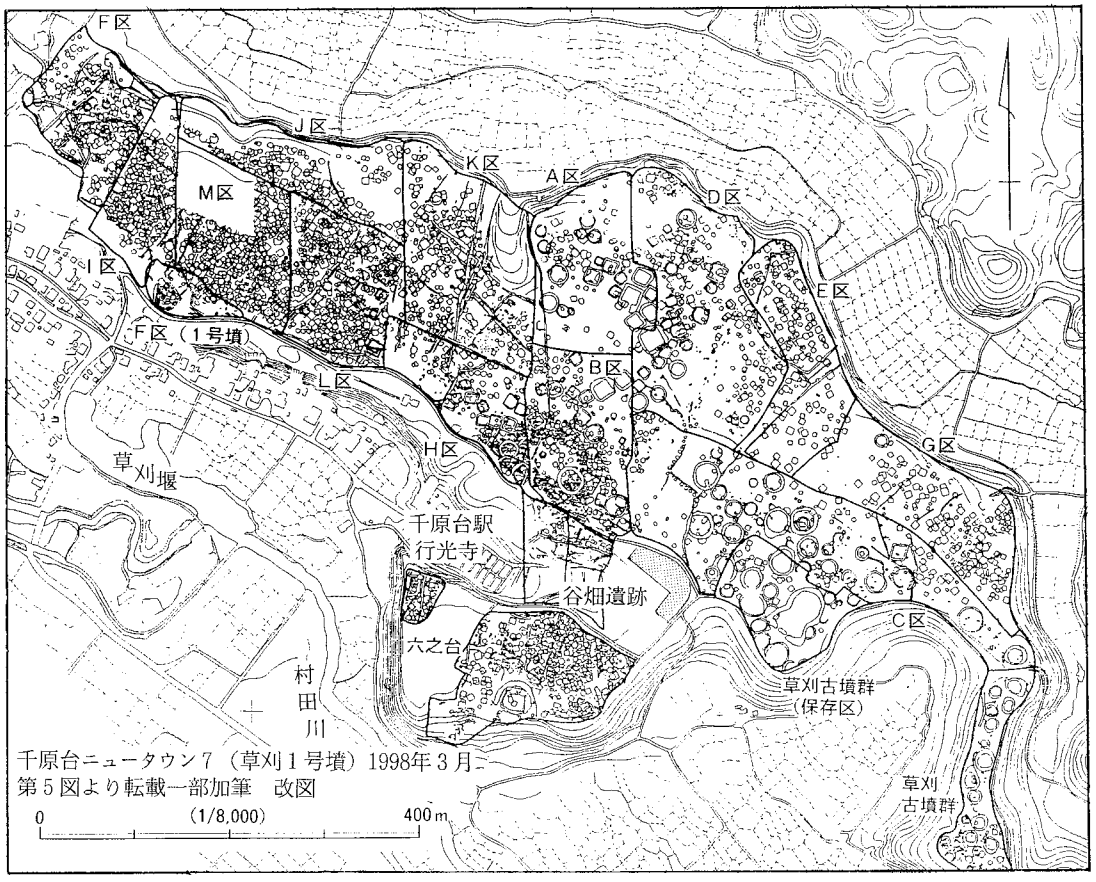
調査期間　平成９年４月24日～平成９年５月９日

調査面積　2,780㎡のうち278㎡（確認調査）

調査概要　当遺跡は千葉県文化財センター調査の千原台ニュータウン遺跡群に隣接する村田川右岸の標高34m前後の台地上にあり、行光寺のある西方向から開析する東西に延びる谷の谷頭に位置する。縄文時代包含層と弥生後期から古墳時代前期の集落跡があり、確認調査の範囲では14軒の竪穴式住居跡を検出している。また他に周溝が推定内径17m、外径21mの古墳時代中期の円墳と考えられる遺構も確認された。出土遺物は縄文中期加曽利Ｅ式期の縄文土器および若干の石器、弥生時代後期～古墳時代前期の土器が主である。古墳周溝からは土師器坏が出土している。

草刈地区の台地はニュータウン建設関連によってほとんどが開発に伴う調査が行なわれ、報告書の刊行が進んでいる。谷畑遺跡はその中で残された部分として重要である。（小川浩一）

「草刈谷畑遺跡」『平成９年度市原市市内遺跡発掘調査報告』1998.３市原市教育委員会



千原台ニュータウン７（草刈１号墳）1998年３月
第５図より転載一部加筆　改図

14. 郡本（こおりもと）遺跡（第4次）

事業名　市内遺跡発掘調査(確認調査)　郡本地区集合住宅建設に伴う埋蔵文化財調査(本調査)

所在地　市原市郡本3丁目201－1の一部

調査期間　平成9年5月12日～平成9年5月19日（確認調査）

平成9年9月16日～平成9年10月22日（本調査）

調査面積　746.01㎡のうち74㎡（確認調査）　380㎡（本調査）

調査概要　市内遺跡の確認調査の結果を受けて協議を行ない、その後本調査を行なうことになった。現町名変更前は字名を長ノ代（チョウノダイ）と呼ばれた地区であり、平成6年度調査の郡本2次調査区は西に隣接する。市原郡衙推定地の中心とみられている郡本八幡神社は、県道を挟んで南に隣接することになるが、この県道は明治初年の迅速図にはない道路である。

遺構は弥生時代後期と奈良平安時代の竪穴住居跡9軒、竪穴状遺構2基、掘立柱建物跡3棟が検出された。掘立柱建物跡は2次調査地区から3棟以上一線に連続する可能性がある。遺物は則天文字の墨書等の特殊遺物の出土があり興味がもたれる。詳細は下記の本報告参照　（鶴岡英一）

小川浩一「郡本遺跡（第4次）」『平成9年度市内遺跡発掘調査報告』1999.3 市原市教育委員会

鶴岡英一「Vまとめ」『市原市郡本遺跡(第4次)』1999.3　財団法人市原市文化財センター

木下　良ほか　『上総国府推定地歴史地理学的調査報告』1999. 3 市原市教育委員会

郡本遺跡（第4次）位置図

15. 中高根南名山遺跡（第2次）

事業名　市内遺跡発掘調査(確認調査)　老人保健施設建設に伴う埋蔵文化財調査(本調査)

所在地　市原市中高根字南名山1,341－1・1,341－2

調査期間　平成9年9月16日～平成9年10月20日（確認調査）

平成9年11月10日～平成9年11月26日（本調査）

調査面積　13,000㎡のうち1,300㎡(上層)　130㎡(下層)（確認調査）

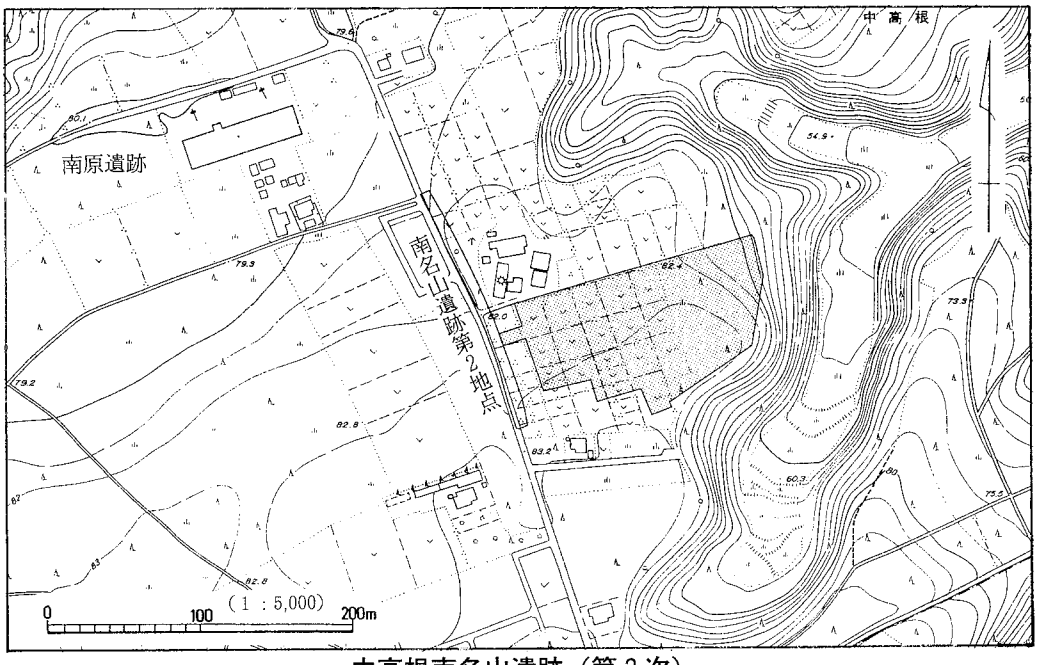
112㎡(上層)　100㎡（下層）（本調査）

調査概要　市内遺跡事業の確認調査(1)の結果を受けて協議の上、本調査を行なった(2)。本調査が第2次調査になったのは、第1次調査として市道建設に伴い第1地点調査から第6地点調査までが先行したためである(3)。調査範囲は広くトレンチャーにより深耕され、遺構の遺存状態は良くない。1次調査において検出された道路状遺構との関連も考えられる005号遺構がほぼ南北方向に走っている。他には、004号の方形周溝状遺構があり須恵器の長頸壺が出土している。また縄文時代の早前期の竪穴状の遺構が2基あり、姉崎台地姉崎面の高位段丘面の遺跡の立地を示している。旧石器の調査が行なわれ1地点分布を検出しており、縦長剥片を使用したナイフ形石器や削器が出土し、珪質頁岩製素材ともに注目される。　（小川浩一）

(1)「中高根南名山遺跡」『平成9年度市原市市内遺跡発掘調査報告』1998.3 市原市教育委員会

(2)「市原市中高根南名山遺跡（第2次）」1998. 10 財団法人市原市文化財センター

(3) 半田堅三「市原市中高根南名山遺跡」1995.5　財団法人市原市文化財センター



中高根南名山遺跡（第2次）

16. 市原条里制遺跡（八幡砂田地区）

事 業 名　市内遺跡

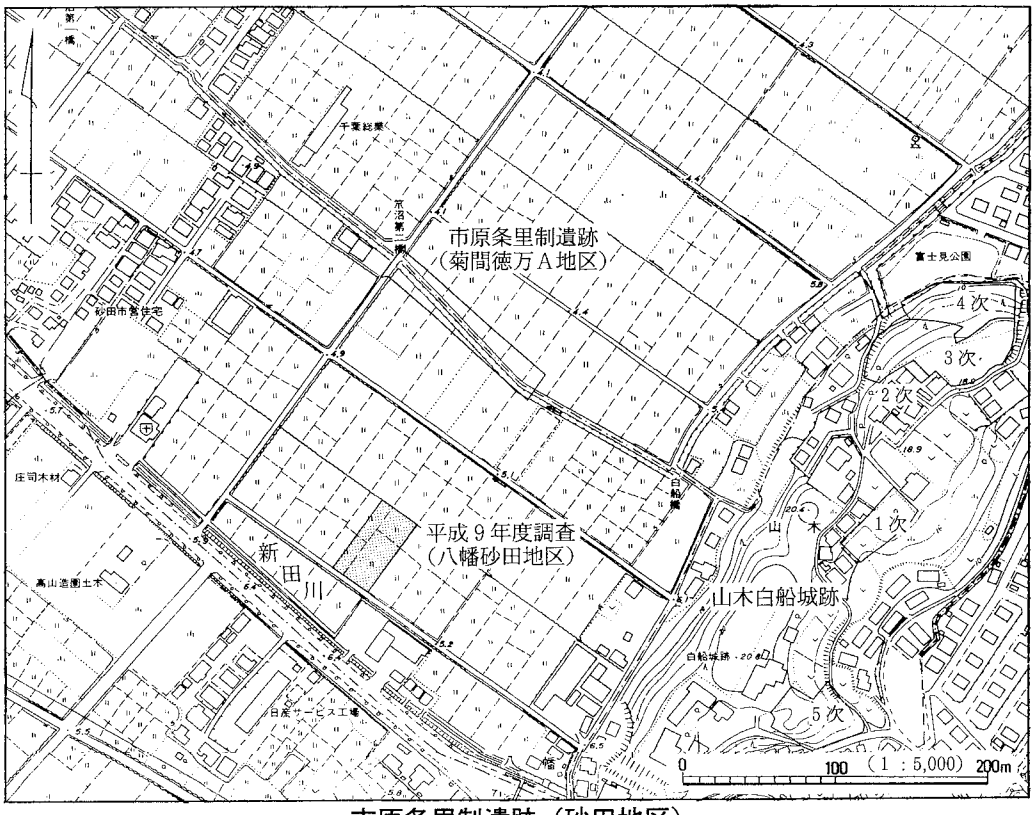
所 在 地　市原市八幡字砂田261－１の一部・262－２の一部

調査期間　平成８年１月11日～平成８年２月５日

調査面積　1,588㎡のうち429㎡

調査概要　遺跡は市原台地の北西部の標高５ｍ～３ｍの海岸平野のほぼ全域におよび、当調査区は台地波食崖から200m海岸方向に寄った標高５ｍ付近の後背低湿地に立地する(1)。新田川の右岸にあたるが流路になった痕跡はない。遺跡のベースは縄文海進時の砂層に灰色の粘土層その上に泥炭層が発達する。その上部から土壌層が形成され水田遺構や遺物が場所によって出土する。水田遺構は擬似畦畔として捉えられる。出土遺物は宋銭、布目瓦、須恵器等であり混在している場合が多い。古代包含層では耕作による土壌の巻き上げが断面に確認される。

(1)大谷弘幸「市原条里制遺跡」『千葉県の歴史資料編考古３(奈良・平安時代)』1998.３千葉県
「市原条里制遺跡(八幡砂田地区)」『平成９年度市原市市内遺跡発掘調査報告』1998.３市原市教育委員会　（平成９年度に近隣の菊間徳万Ａ地区でも調査を実施している）　（田中清美）



市原条里制遺跡（砂田地区）

17. 永吉松ノ木台遺跡

事業名　市原市市東第一土地区画整理事業（第１地点その４）に伴う埋蔵文化財調査

所在地　市原市永吉字松ノ木台1,225－12ほか

調査期間　平成９年７月11日～平成９年８月７日

調査面積　5,315㎡のうち517㎡（上層）　5,315㎡のうち52㎡（下層）

調査概要　調査概要　右図に示すように①部分が松ノ木台遺跡である。下総台地南辺部支川村田川右岸開析谷の分岐点北側標高40m前後の台地に位置し、東側に浅い谷が南北に切れ込んでいる。縄文時代土坑と、奈良平安時代の竪穴式住居跡およびそれに伴う掘立柱建物跡が検出され、方形周溝状遺構も検出されており古代以降の集落が存在している。　（北見一弘）

18. 永吉金原遺跡

事業名　市原市市東第一土地区画整理事業（第１地点その５）に伴う埋蔵文化財調査

所在地　市原市永吉字金原1,327－１ほか

調査期間　平成９年６月12日～平成９年７月２日

調査面積　3,900㎡のうち390㎡（上層）　3,900㎡のうち39㎡（下層）

調査概要　右図に示す②部分が金原遺跡である。松ノ木台遺跡南側開析谷分岐の北東方向側にに曲りこんだ開析谷の北側標高48m前後の台地に位置する。縄文時代早期撚糸紋時期の包含層が礫群と共に検出されている。東鹿ノ原古墳群を形成するであろう円墳１基が調査区東南部に検出されている。集落跡として奈良平安時代の竪穴式住居跡が検出され、土壙も検出されている。

（北見一弘）

19. 中野鹿ノ原遺跡

事業名　市原市市東第一土地区画整理事業（第１地点その６）に伴う埋蔵文化財調査

所在地　市原市中野字鹿ノ原台385番ほか

調査期間　平成９年５月23日～平成９年６月９日

調査面積　3,300㎡のうち330㎡

調査概要　右図に示す③部分が鹿ノ原遺跡である。金原遺跡の北東方向の標高47m前後の台地中央部に位置し、開析谷から約100mほど離れている。極めて薄い縄文時代の包含層と土坑が検出された。

平成９年度の市原市市東第一地区区画整理事業の調査は、区画整理事業地の北辺部地域の東

西の鹿ノ原古墳群の隣接区域である。平成７年度調査年報に④部分の金原遺跡と⑤部分の松ノ木台遺跡が掲載されている。また南側開析谷を隔てて⑥部分に永吉鬼母子神遺跡が存在する。鬼母子神遺跡においては古墳時代後期の集落跡が検出され、当該期の東西の鹿ノ原古墳群との関連に興味がもたれる。松ノ木台遺跡では古墳時代から奈良平安時代の集落跡があり、金原遺跡では奈良平安時代に集落跡が検出されている。しかしこの地域では弥生時代及び古墳時代前半の時期の集落跡は確認されていない。村田川中下流域は弥生時代から集落が存在し、上流域との遺跡時期の立地の差は歴然としており、中流の千原台遺跡群地域と千葉東南部遺跡群地域と近い立地を示している。これらは当該期の地域開発の足跡を示すものであり、先行調査地域の事例研究を基に広い視野を持った調査体制必要であることを示している。　　（北見一弘）

市東第一土地区画整理事業位置図

20. 市原城郭跡

事業名　市原地区土地造成に伴う埋蔵文化財調査

所在地　市原市市原字作ノ内95-1、-3、-4

調査期間　平成９年９月18日～平成９年10月３日

調査面積　887㎡

調査概要　今回の調査は、市原城郭跡の初めての発掘調査である。当城はいわゆる軍記物に登場するが、実際の史実は不明である。城域は北東側に小谷をもって開く形の幅500ｍ、長さ600ｍ程の舌状台地に立地し、南側は自然地形を利用して東西方向の外堀が配される。調査地点は城域の北西端部で、土塁とその周辺の郭部分の小範囲である。土塁は台地縁辺部に存在し、土塁頂部と低地との比高は約６ｍである。土塁は地山を内側から削り出して造り、その土砂は内側の郭部分の造成に使用されている。土塁上には２基の土壙が存在し、１号は屈葬人骨１体、２号は頭骨のみ15体以上が検出された。土壙に伴う遺物は出土していないが２号より流れ込んだ状況で15世紀代の五輪塔片が検出されている。また２号出土の頭骨は処刑し、投げ込んで埋葬した可能性がある。房総のほとんどの城郭は1590年以降廃城と考えられており、両土壙ともその土塁上に埋葬されている点などから戦国末期から江戸初期の所産と推定している。当城郭の北側には小谷を挟んで白船城郭跡が存在し、東京湾を望む市原台地添いには南の養老川下流域を望む根田城郭跡から村田川下流域を望む菊間手永遺跡まで中世関係の城郭や遺跡が連綿として存在する可能性が大きい。なお、当調査の本報告書は平成11年９月に刊行している。（田中清美）

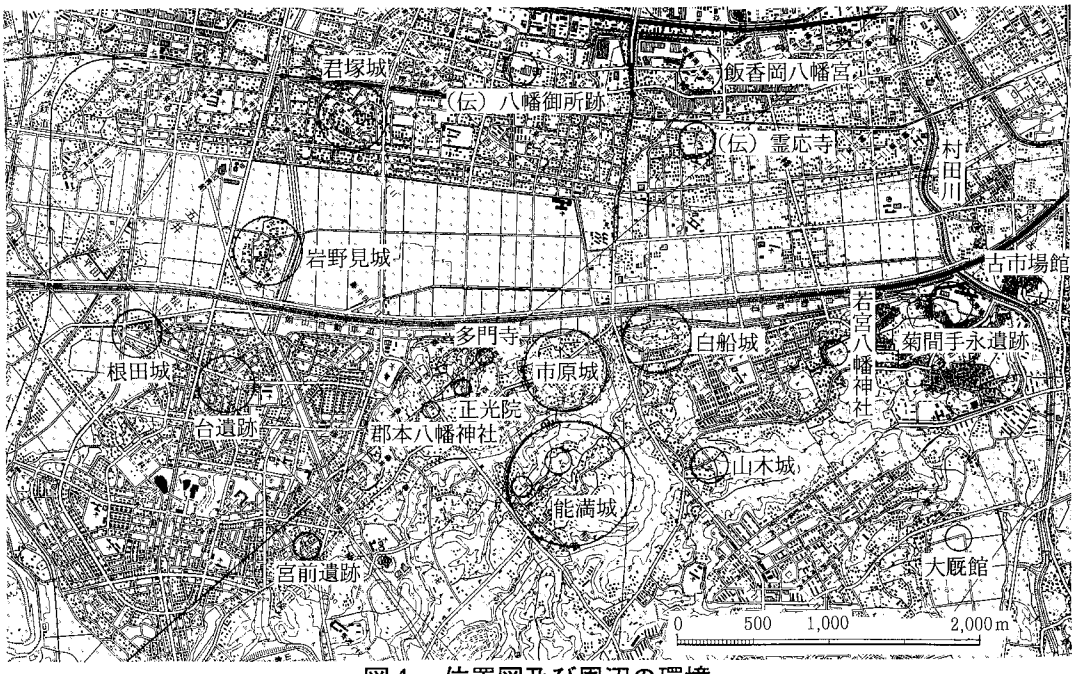
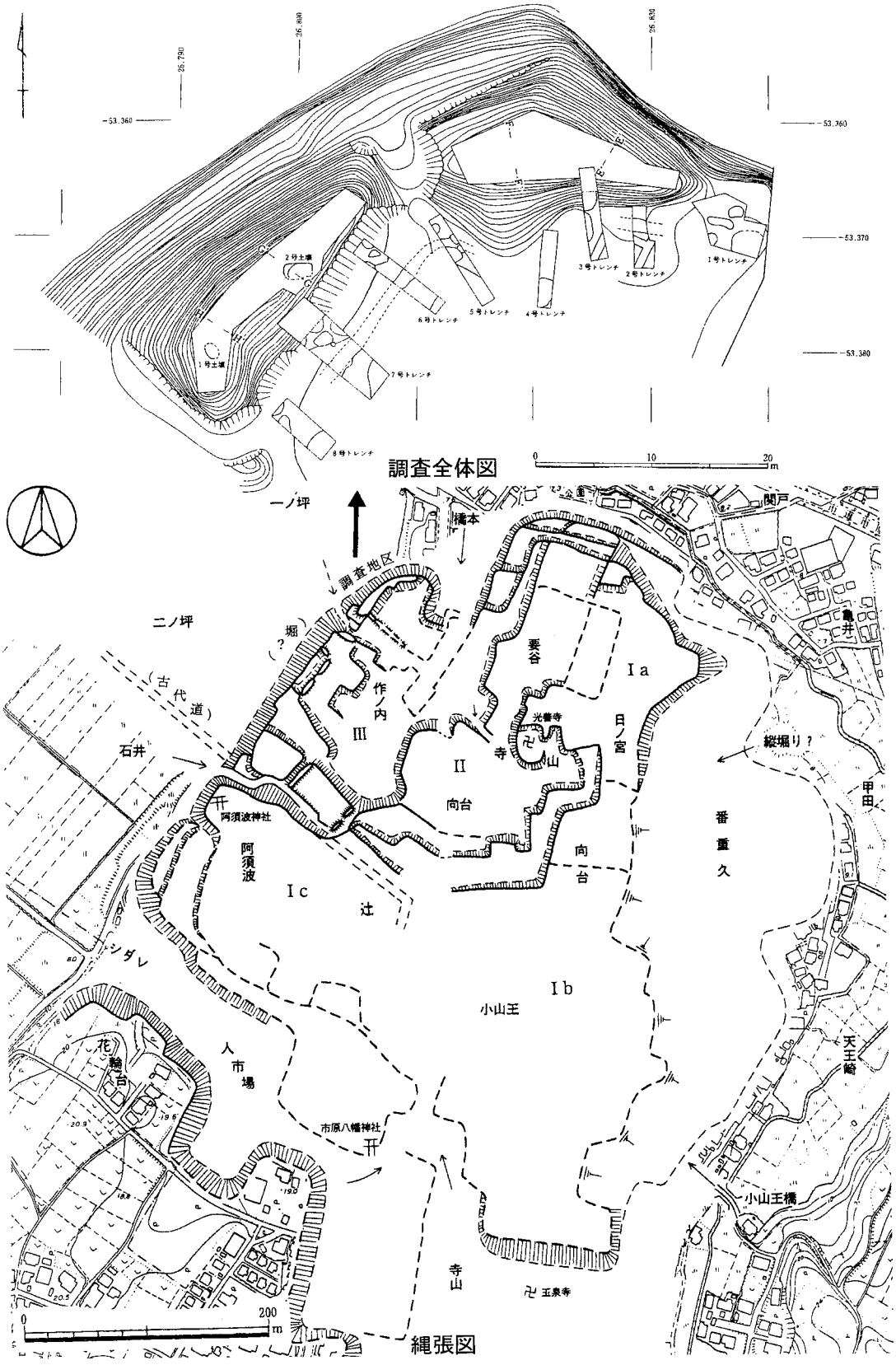


図１　位置図及び周辺の環境


調査全体図
一ノ坪
二ノ坪
調査地区
橋本
関戸
亀井
要谷
Ia
日ノ宮
光善寺
寺山
II
向台
作ノ内
III
堀（？）
（古代道）
石井
阿須波神社
阿須波
Ic
辻
向台
番重久
縦堀り？
甲田
シダレ
Ib
小山王
人市場
花輪台
市原八幡神社
寺山
玉泉寺
天王崎
小山王橋
縄張図

21. 畑木小谷遺跡

事業名　身体障害者寮護施設建設に伴う埋蔵文化財調査・市内遺跡発掘調査

所在地　市原市畑木246-1の一部、246-2の一部

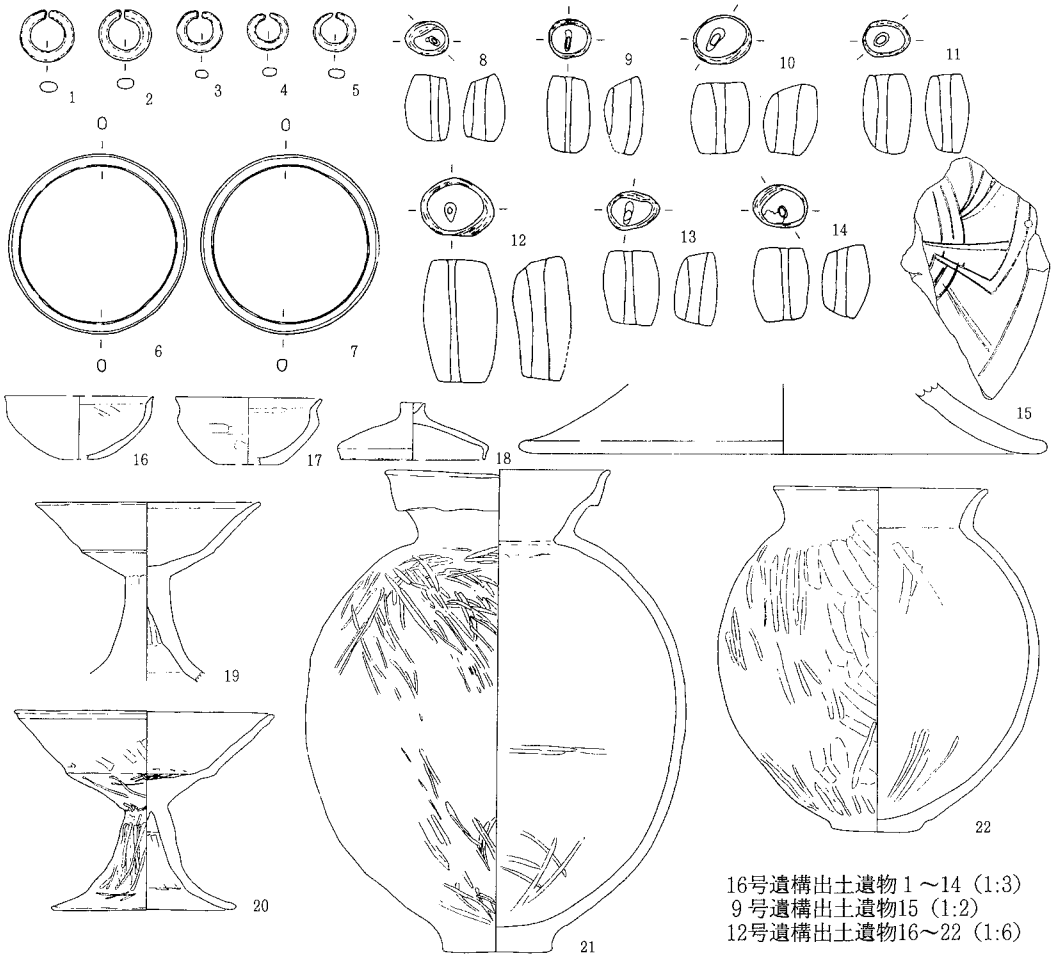
調査期間　平成９年10月21日～平成10年１月30日（事業者分）

平成９年10月21日～平成10年２月３日（市内遺跡分）

調査面積　1,190㎡（事業者分）・1,160㎡（市内遺跡分）

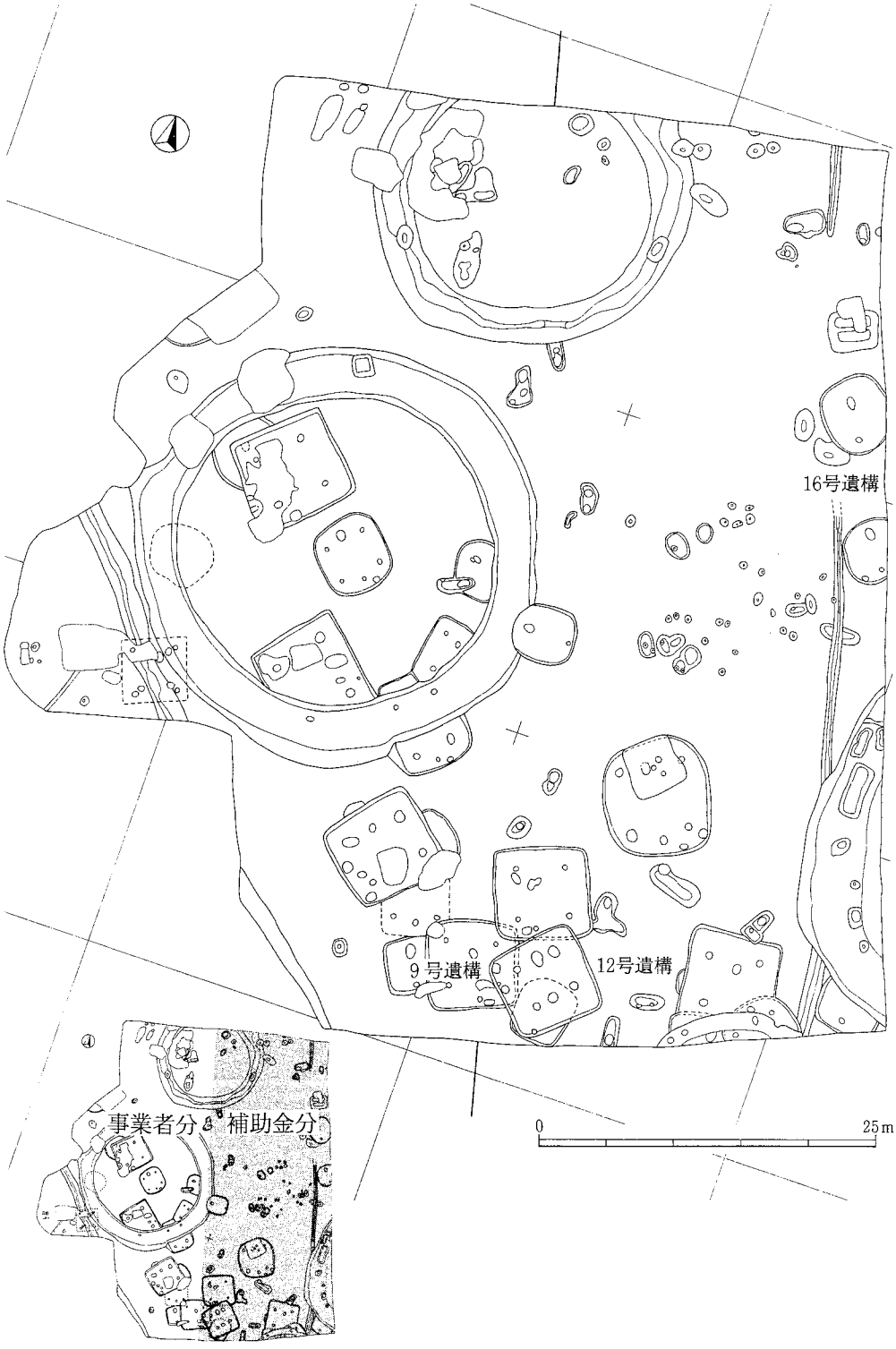
調査概要　遺跡は養老川下流左岸、標高42ｍ程の舌状台地上に位置する。上記開発行為に伴い、平成８年度の確認調査の結果を受けて1,190㎡を事業者負担分、1,160㎡を市内遺跡分として本調査を実施した。後者は既報告であり、前者についても平成10年度に報告予定である。詳細についてはそちらを参照されたい。　（北見一弘）

「畑木小谷遺跡」『平成10年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会　1999



16号遺構出土遺物１～14（1:3）
９号遺構出土遺物15（1:2）
12号遺構出土遺物16～22（1:6）

畑木小谷遺跡出土遺物実測図



畑木小谷遺跡全体図（1:400）

22. 西国吉遺跡（にしくによし）

事業名　第1種電気通信設備の設置に伴う埋蔵文化財調査

所在地　市原市西国吉293の一部

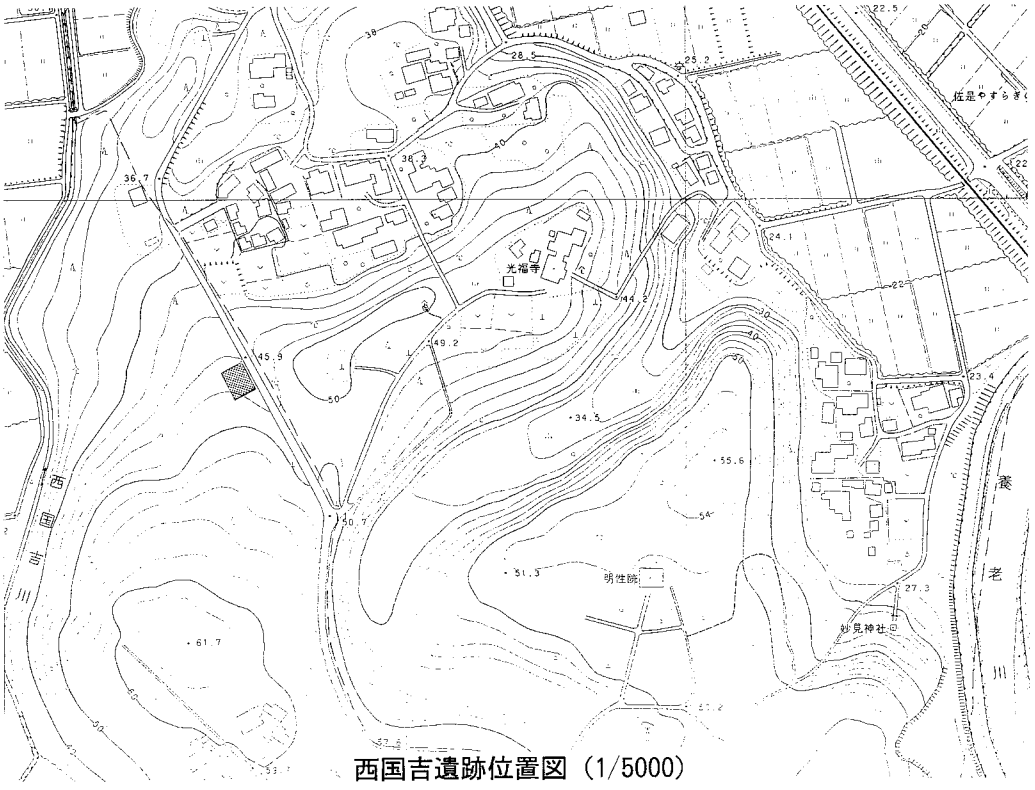
調査期間　平成9年11月14日～平成9年12月12日

調査面積　300㎡（確認・本調査）

調査概要　遺跡は養老川左岸の標高約50mの台地上に立地する。養老川に向かって突き出た台地の中ほどにあたり、周辺一帯には円墳群が広がり、小支谷を挟んだ東方の台地上には、市原市の代表的な中世城郭である佐是城跡があり、現在も土塁や堀跡などの遺構を残している。

調査は、当初10％の確認調査を行い、遺構が全面的に広がっていたところから、全面本調査に移行した。調査の結果、弥生時代および古墳時代の住居跡6軒、古墳1基などを検出した。また、遺構に伴うものではないが、弥生時代中期須和田式土器が比較的まとまって出土している。須和田式土器については、養老川流域では右岸の武士遺跡における出土例が知られるが、左岸における当該期の土器の出土例としては稀有なものである。菱形連繋文＋円形刺突の壷、条痕文の甕、縦線文の甕等特徴的な遺物を多く含んでいる。狭小な面積の調査であったが大きな成果を得ることができた。なお、詳細は下記報告書に拠られたい。　（高橋康男）

蜂屋孝之・小川浩一『市原市西国吉遺跡』財団法人市原市文化財センター　1999



西国吉遺跡位置図（1/5000）

Ⅳ　遺跡情報管理システムについて

はじめに

市原市内に所在する集落跡・貝塚・古墳・城跡などの遺跡（埋蔵文化財包蔵地）は2600ヶ所余りを数える。また、発掘調査された遺跡も、市役所周辺の土地区画整理事業に伴う国分寺台遺跡群の大規模な発掘調査や、400事業を数えるまでになった当センター関連の調査など、かなりの数にのぼっている。

これらの埋蔵文化財に関する情報は、年を追うごとに増大しており、必要になるたびに分散的な資料を個人で検索・収集するという、これまでのやり方では、市内の遺跡に関するものだけでも、把握するのに多大な時間と労力がかかるというのが現状である。

このような状況を考えると、考古学的な解析を行う上での共通のデータの整備や、整理・報告作業、事務処理の省力化という面でも、情報の発信元が、各種関連情報をデジタル化し、一括に整理することが望ましい。

平成８年度までに、以上のような意識が徐々に形づくられ、「遺跡の分布調査」・「調査事業」・「報告書等の文献」などを、文字情報としてパソコンに入力してきた。

そして、平成９年度には、個別で形成されていた収蔵図書データベースなどを、すべて関連づけたかたちで、統一的な文字情報データベースを構築する作業をすすめた。その中で、近年、都市整備関連の分野で普及している、パソコンベースの地理情報システム（ＧＩＳ）を、地図と一体である埋蔵文化財情報に利用しよう、という気運が盛り上がり、「市原市遺跡情報管理システム」を導入することになった。なお、システムの開発は外部委託した。

概要

当システムは、遺跡分布地図の内容を元にし、事業内容・調査成果・収蔵図書の各データが結びつけられたデータベースである。特徴は、遺跡の範囲・調査地の範囲など、様々な種類の図形に意味（空間情報・各種属性）を持たせて、文字情報と共に管理できる点にある。

アプリケーションはWindows98上でAccess97とArcView ver3.0を用いている。

基本的に、文字情報はAccess、地図情報はArcViewで扱われる。両者は「遺跡コード」・「調査コード」という項目を介して、結合されており、Accessでのデータの更新は、データベースが立ち上げられる度にArcView側に反映されるようになっている。

文字の情報は、フィールドという項目の連なりでかたちづくられた、レコードという単位で扱われる。レコードの集合はテーブルと呼ばれる。テーブルに格納されたデータを元に、データベースのいろいろな形式が編成される。

そのうちのひとつであるフォームは、画面上に各テーブルの項目を抜き出し、配置したもので、データの入力・表示をレコードごとに、カード式で行うものである。

遺跡管理システムには「遺跡」「事業」「調査」「図書」のフォームがある。

「遺跡」は『千葉県市原市埋蔵文化財分布地図』（市原市教育委員会1987・1988）を元にしている。「事業」は調査・整理事業の内容が、「調査」は調査地の各属性と出土遺構の時期・種類（チェックボックス式）が表される（遺物は備考的にしか扱わない）。「図書」は以前からのデータベース（The Card: PC9801版）が変換され用いられている。また、「遺跡」・「調査」のフォームでは、検索結果の図形情報をArc Viewで表示させることができるようになっている。

それぞれのフォームには、そのとき選択されているレコードの他に、関連するデータの一覧がサブフォームとして、表示されるようになっている。サブフォーム内のレコードをクリックすれば、それぞれの元のフォームに移り、詳細が見られるという仕組みである。

一方、ArcViewは、「テーマ」という種別ごとに、図形を扱う。テーマは、重ね掛けされたトレーシングペーパーのように操作される。テーマの内容は「分布地図」の「種別」という項目を利用して設定され、「調査区域」・「遺跡・散布地」・「古墳」・「貝塚」・「城・寺跡」・「製鉄」・「馬土手」・「窯跡」・「横穴」・「町丁字の境界線」・「10mおきの等高線」・「1／2500地形図」・「1／25000地形図」・「1／50000境界線」がある。

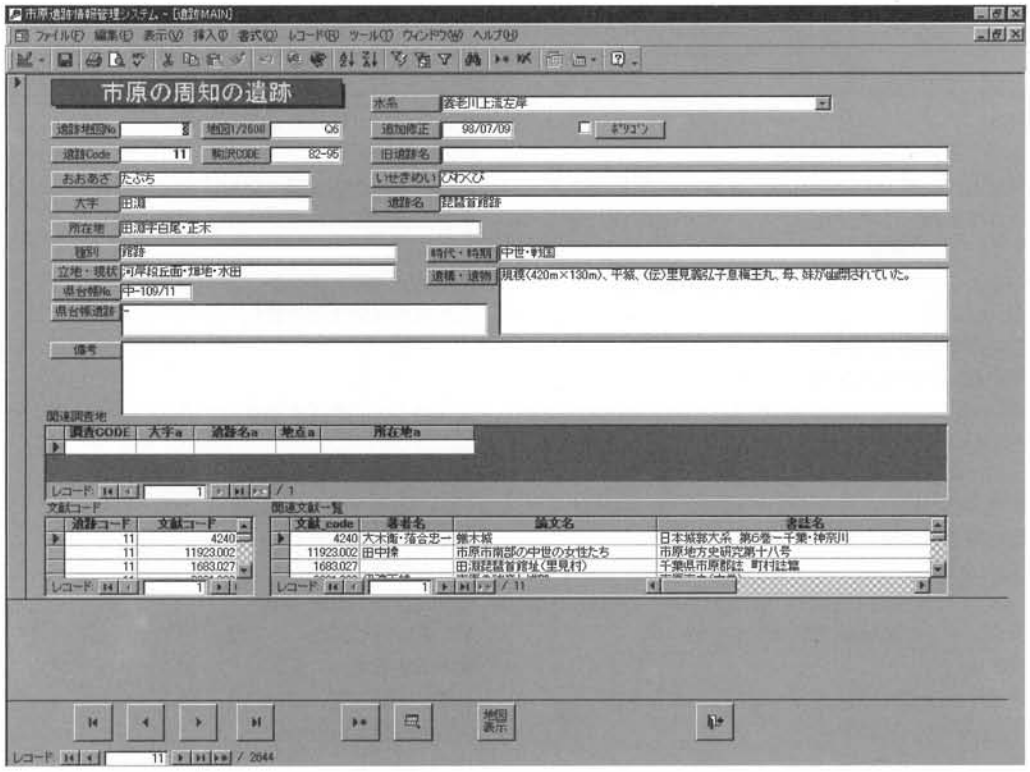
図形のデータには、ポリゴン（面）、ポリライン（線）、ポイント（点）という区別があり、「窯跡」・「横穴」がポイント、「馬土手」がライン、他がポリゴンである（尚、等高線・地形図類はラスターデータのイメージの貼り合わせである）。図形の入力は、デジタイザを用いて、基本的にセンター職員が行っている。

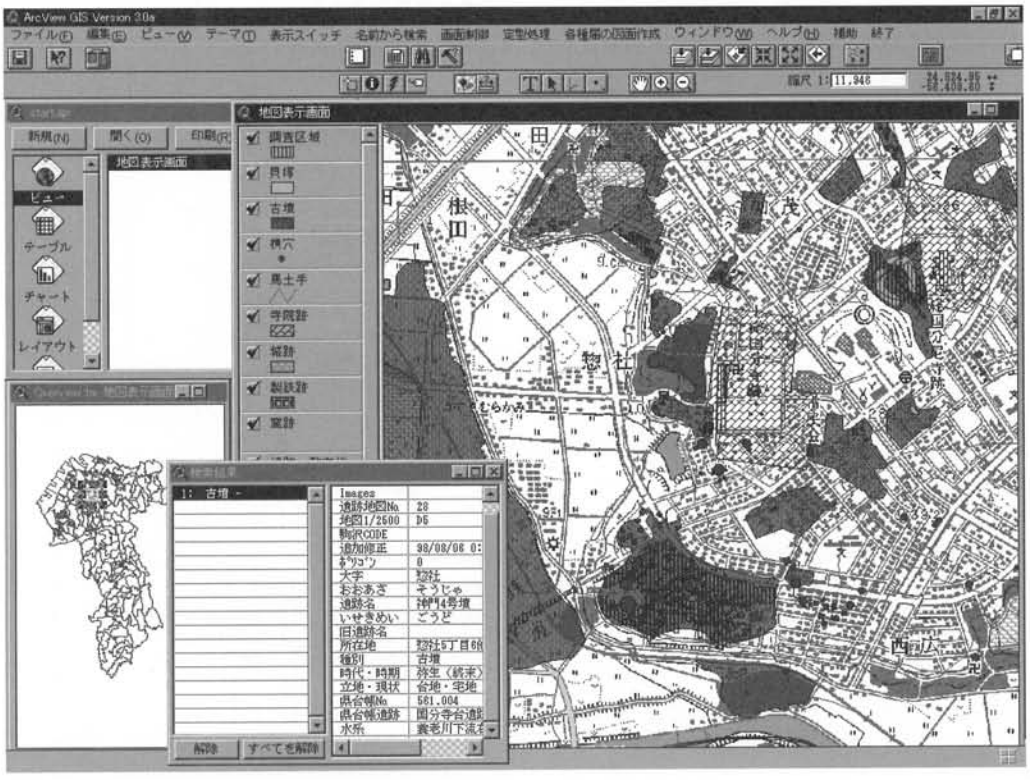
ArcView上では、図形を選択することによる検索、文字列による検索結果の表示、表示画面の印刷などが行える。ポリゴンには、図面をスキャンしたものや、現場写真などの画像ファイルを関連づけることができる。

今後の課題

データ入力が途上にあるが、とくにセンター発足以前に調査された遺跡の内容の入力が進んでいない。データベース構築の目的に沿うように、今後、これを重点的に行いたい。また、市教育委員会が受ける照会（「開発に伴う埋蔵文化財の有無」）の内容も、文字・図形情報ともに取り込んでいきたいと考えている。

（小出紳夫・小橋健司）


市原の周知の遺跡
遺跡名 椎名城跡
時代・時期 中世・戦国
遺構・遺物 現状(420m×130m)、平城、(伝)里見義弘子息権士丸、母、妹が幽閉されていた。


地図表示画面
検索結果
遺跡名 神門4号墳

V　平成９年度 受贈図書一覧

書　　名	寄　贈　者	受入日
Ｍｏｕｓｅｉｏｎ42	立教大学　学校・社会教育講座	９．４．２
シルクロードとガンダーラ	松戸市立博物館	〃
プレ古代出雲文化展サイエンスロマン “ＩＺＵＭＯ”	島根県立八雲立つ風土記の丘	〃
貝塚博物館紀要第24号	千葉市立加曽利貝塚博物館	〃
蒲生・上の原遺跡	木崎康弘	〃
企画展これは何でしょうぱあと2収蔵資料展	世田谷区立郷土資料館	〃
宮ノ口遺跡	京都府京都文化博物館	〃
宮ノ口遺跡第2次発掘調査	同　上	〃
平安京左京四条四坊四町	同　上	〃
城山遺跡第12地点・城山遺跡第13地点・西原大塚遺跡第14地点・中野遺跡第11地点・中野遺跡第16地点・市場裏遺跡第１地点	埼玉県志木市教育委員会	〃
泉南市遺跡群発掘調査報告書13	泉南市教育委員会	〃
弥生文化の成立　日本古代国家の成立を探る・Ⅳ	同　上	〃
南総郷土文化研究会誌第15号	南総郷土文化研究会	〃
福岡市埋蔵文化財センター年報第15号平成７年度	福岡市埋蔵文化財センター	〃
文部省科学研究費補助金重点領域研究「遺跡探査」第５回研究成果検討会議論文集	奈良国立文化財研究所	〃
千葉県中近世城跡研究調査報告書第17集	千葉県教育委員会	９．４．４
大相撲	成田山霊光館	〃
㈶瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第５輯	㈶瀬戸市埋蔵文化財センター	９．４．７
瀬沼三左衛門日記四	八王子市郷土資料館	〃
発掘された八王子城	同　上	〃
千葉県の指定文化財第７集（平成8年度）	千葉県教育委員会	〃
千葉県印旛郡酒々井町宗吾南地区確認調査報告書	酒々井町教育委員会	〃
千葉県印旛郡酒々井町本佐倉城跡発掘調査報告書	同　上	〃
柏市埋蔵文化財調査報告書33	柏市教育委員会	〃
空港跡地遺跡（J地区）	㈶香川県埋蔵文化財調査センター	９．４．８
空港跡地遺跡Ⅰ（本文編・写真図版編・付図）	同　上	〃
龍川五条遺跡Ⅰ（第1分冊・第2分冊）	同　上	〃
繋遺跡	盛岡市教育委員会	〃
繋遺跡平成５・６年度発掘調査概報	同　上	〃
志波城跡平成７年度発掘調査概報	同　上	〃
上平遺跡群猪去館遺跡・上平Ⅱ遺跡	同　上	〃
後川遺跡	滋賀県教育委員会	〃
今川東遺跡	同　上	〃
小野遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
蔵ノ町遺跡	同　上	〃
日置前遺跡	同　上	〃
八坂東遺跡	同　上	〃
平成８年度　芝山町内遺跡発掘調査報告書	芝山町教育委員会	〃
小南遺跡（№28）・東北久保・鳥井松遺跡８（№29）（本文・付図）	㈶かながわ考古学財団	〃
神奈川県立埋蔵文化財センター年報15	神奈川県立埋蔵文化財センター	〃
千葉県立房総風土記の丘年報19	千葉県立房総風土記の丘	〃
中沢貝塚の土器	南山大学	〃
長岡京跡右京第544次・今里遺跡発掘調査報告書	㈶長岡京市埋蔵文化財センター	〃
苫小牧市美沢東遺跡群発掘調査概要報告書Ⅳ	苫小牧市埋蔵文化財調査センター	〃

書　　名	寄　　贈　　者	受入日
富吉遺跡群確認調査報告書Ⅱ	君津市教育委員会	9．4．8
平成8年度君津市内発掘調査報告書	同　上	〃
（仮称）葛城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書	㈶茨城県教育財団	9．4．9
（仮称）萱丸地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書	同　上	〃
（仮称）島名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書	同　上	〃
伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（上巻・中巻・下巻）	同　上	〃
遺跡が語る茨城の歴史	同　上	〃
一般県道石岡つくば線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書	同　上	〃
一般国道354号（水海道バイパス）道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書	同　上	〃
牛久東下根特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書	同　上	〃
国営常陸海浜公園整備に伴う埋蔵文化財調査報告書	同　上	〃
主要地方道常陸那珂港山方線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書	同　上	〃
都市計画道荒川沖木田余線街路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書	同　上	〃
㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団年報15	㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
元総社寺田遺跡Ⅲ	同　上	〃
荒砥上ノ坊遺跡Ⅱ（本文図版・遺物観察表）	同　上	〃
白倉下原・天引向原遺跡Ⅲ（本文・実測写真図版・遺物観察表）	同　上	〃
箱田古市前Ⅰ・Ⅱ遺跡	同　上	〃
特別史跡特別名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園	㈶京都市埋蔵文化財研究所	〃
京都嵯峨野の遺跡	同　上	〃
郡家田代遺跡　本文・付図	㈶香川県埋蔵文化財調査センター	〃
川津一ノ又遺跡Ⅰ	同　上	〃
中間西井坪遺跡Ⅰ	同　上	〃
黒谷・水呑古墳群	佐賀県教育委員会	〃
東山田一本杉遺跡	同　上	〃
内野山北窯跡	同　上	〃
ゴッソー遺跡発掘調査報告書	㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	9．4．11
横町遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成７年度分）	同　上	〃
岩脇遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
紀要ⅩⅥ（平成７年度）	同　上	〃
江川鉄山跡発掘調査報告書	同　上	〃
寺久保遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
耳取Ⅰ遺跡Ａ地区発掘調査報告書	同　上	〃
小幅遺跡第２次発掘調査報告書	同　上	〃
大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書第２次～第５次調査（第１分冊・第２分冊・第３分冊・付図）	同　上	〃
沢田・仙人東遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
長倉Ⅳ遺跡・長倉Ⅴ遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
峠山牧場Ⅰ遺跡Ｂ地区範囲確認調査報告書	同　上	〃
日詰七久保遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
柏山館跡発掘調査報告書	同　上	〃
鳩岡崎上の台遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
尾呂部Ⅱ遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
牧田貝塚発掘調査報告書	同　上	〃
龍ヶ馬場遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
安芸国分寺東方遺跡発掘調査報告書	㈶東広島市教育文化振興事業団	〃
山崎１号遺跡発掘調査報告書	同　上	〃

書　　名	寄　　贈　　者	受入日
平成８年度野田市内遺跡発掘調査報告	野田市教育委員会	9．4．11
国立歴史民俗博物館研究年報４（1995年度）	国立歴史民俗博物館	9．4．14
四葉地区遺跡平成８年度（旧石器時代編）	板橋区四葉遺跡調査会	〃
四葉地区遺跡平成８年度年報	同　上	〃
研究紀要４	港区立港郷土資料館	9．4．16
夏見台遺跡第10次発掘調査報告書	船橋市遺跡調査会	9．4．17
千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告平成８年度	八千代市教育委員会	〃
中道通下遺跡発掘調査報告書	中道通下遺跡発掘調査団	〃
広島城外堀跡城北駅北交差点地点発掘調査報告	㈶広島市歴史科学教育事業団	9．4．18
寺山遺跡発掘調査報告	同　上	〃
番谷遺跡発掘調査報告	同　上	〃
平成７年度考古学教室記録集「埴輪作り体験」	同　上	〃
平成８年度考古学教室記録集「石器づくり」	同　上	〃
尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査報告書Ⅱ	㈶東京都教育文化財団　東京都埋蔵文化財センター	〃
隠川（3）遺跡	青森県埋蔵文化財調査センター	〃
宇田野（2）遺跡・宇田野（3）遺跡・草薙（3）遺跡	同　上	〃
琴湖岳（2）遺跡	同　上	〃
近野遺跡Ⅴ	同　上	〃
轡（2）遺跡	同　上	〃
隈無（4）遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
幸畑（10）遺跡・幸畑（6）遺跡・幸畑（3）遺跡	同　上	〃
高屋敷館遺跡発掘調査概報	同　上	〃
桜ヶ峰（2）遺跡	同　上	〃
十三湊遺跡	同　上	〃
十三湊遺跡Ⅱ	同　上	〃
小沢館跡	同　上	〃
松館遺跡	同　上	〃
石焼沢・西張（3）遺跡	同　上	〃
朝日山（3）遺跡	同　上	〃
洞内城跡	同　上	〃
畑内遺跡Ⅳ	同　上	〃
八盃久保（2）遺跡・八盃久保（3）遺跡・幸神遺跡	同　上	〃
野尻（2）遺跡Ⅱ・野尻（3）遺跡発掘調査報告書 野尻（4）遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
所蔵考古資料撰	浜松市博物館	〃
浜松市博物館館報Ⅸ	同　上	〃
平成８年度船橋市内遺跡発掘調査報告書	船橋市教育委員会	9．4．22
改田遺跡	美濃市教育委員会	9．4．25
南山遺跡	同　上	〃
段遺跡	同　上	〃
岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成７年度）	岩手県教育委員会	〃
国府台７	和洋女子大学文化資料館	〃
東京都国立市谷保東方遺跡Ⅱ	国立市教育委員会	〃
國學院大學考古学資料館紀要第13輯	國學院大學考古学資料館	9．4．28
群馬県立歴史博物館紀要第18号	群馬県立歴史博物館	9．5．1
瀬名遺跡Ⅴ（遺物編Ⅱ）図版編	㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所	〃
瀬名遺跡Ⅴ（遺物編Ⅲ）本文編	同　上	〃
多摩ニュータウン遺跡	㈶東京都教育文化財団 東京都埋蔵文化財センター	〃

書　　名	寄　　贈　　者	受入日
平成７年度松戸市内遺跡発掘調査報告	松戸市教育委員会	9．5．1
立出し遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
長岡京跡右京第548次調査概要	㈶長岡京市埋蔵文化財センター	9．5．2
岡山市埋蔵文化財調査の概要1995（平成７）年度	岡山市教育委員会	〃
平成７・８年度鎌ヶ谷市内遺跡発掘調査報告書（写真図版編）	鎌ヶ谷市教育委員会	〃
平成７・８年度鎌ヶ谷市内遺跡発掘調査報告書（本文・写真図版編）	同　上	〃
久野北側下遺跡第Ⅲ地点発掘調査報告書	玉川文化財研究所	〃
宿根北遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
石川稲荷山遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
川坂遺跡（西川坂1684-1地区）発掘調査報告書	同　上	〃
大蔵東原遺跡第７・８次発掘調査報告書	同　上	〃
飯山畠中遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
野庭町永作遺跡（日野宅地造成工事地区）発掘調査報告書	同　上	〃
小山市立博物館紀要第５号	小山市立博物館	〃
第34回企画展下野国寒川郡　古代・中世の軌跡	同　上	〃
東納内遺跡	深川市教育委員会	〃
内園６遺跡Ⅱ	同　上	〃
埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書平成８年度	千葉市教育委員会	〃
伊場遺跡遺物編７	浜松市博物館	〃
平成8年度埋蔵文化財発掘調査概報	福知山市教育委員会	〃
牧正一古墳	同　上	〃
『３年間のセンター史』合本	水沢市埋蔵文化財調査センター	9．5．13
水沢市埋蔵文化財調査センター［おもしろ考古学］古代東北ワールド	同　上	〃
岡山理科大学自然科学研究所研究報告第22号	岡山理科大学自然科学研究所	〃
京都市内遺跡試掘調査概報平成８年度	㈶京都市埋蔵文化財研究所	〃
京都市内遺跡発掘調査概報平成８年度	同　上	〃
京都市内遺跡立会調査概報平成８年度	同　上	〃
京都大学総合博物館春季企画展展示図録王者の武装　５世紀の金工技術	京都大学総合博物館	〃
京都府埋蔵文化財情報第63号	㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター	〃
研究連絡誌第48号	㈶千葉県文化財センター	〃
千葉県文化財センター研究紀要17	同　上	〃
古代學研究所研究紀要第６輯	㈶古代學協會	〃
将軍山古墳　確認調査編・付編　保存・整備工事編	埼玉県教育委員会	〃
上京・西大路町遺跡桜の御所跡隣接地点の発掘 同志社大学育真館地点の発掘調査	同志社大学校地学術調査委員会	〃
新保田中村前遺跡Ⅳ《本文・遺物観察表編》《骨角製品・動物遺体編・写真図版編》	㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
吹屋瓜田遺跡	同　上	〃
中江田八ツ縄遺跡	同　上	〃
中宿在家遺跡・上豊岡一里塚遺跡　本文・付図	同　上	〃
中沢平賀界戸遺跡 第１分冊《本文編》・第２分冊《写真図版編》	同　上	〃
波志江今宮遺跡	同　上	〃
飯土井上組遺跡　波志江中峰岸遺跡	同　上	〃
千葉県木更津市内遺跡発掘調査報告書1997	木更津市教育委員会	9．5．13
大畑台遺跡群発掘調査報告書Ⅱ	同　上	〃
中尾遺跡群発掘調査報告書Ⅲ	同　上	〃
塚原21号墳	同　上	〃
大阪府立近つ飛鳥博物館館報２	大阪府立近つ飛鳥博物館	〃
平成９年度春季特別展まつるかたち 古墳・飛鳥の人と神	同　上	〃

書　　名	寄　　贈　　者	受入日
大分市歴史資料館年報（平成７年度）	大分市歴史資料館	9．5．13
第15回特別展米と日本人のくらし	同　上	〃
筑波大学先史学・考古学研究第８号	筑波大学歴史・人類学系	〃
調査研究報告第10号	埼玉県立さきたま資料館	〃
平成８年度市原市内遺跡発掘調査報告	市原市教育委員会	〃
平成８年度成田市内遺跡発掘調査報告書	成田市教育委員会	9．5．14
のじぎく文化財だより第50号	㈶のじぎく文化財保護研究財団	〃
のじぎく文化財だより第56号	同　上	〃
のじぎく文化財だより第57号	同　上	〃
のじぎく文化財だより第58号	同　上	〃
資料目録９	㈶東京都教育文化財団 東京都埋蔵文化財センター	〃
汐留遺跡	同　上	〃
尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査概要Ⅴ	同　上	〃
黒谷川宮ノ前遺跡（第１分冊・第２分冊・付図）	㈶徳島県埋蔵文化財センター	〃
徳島県埋蔵文化財センター年報Ⅴol.６平成６年度(1994)	同　上	〃
大久保遺跡・本願寺遺跡	我孫子市教育委員会	〃
角田郡山遺跡Ⅴ	角田市教育委員会	〃
住社遺跡	同　上	〃
大久保古墳群Ⅰ	同　上	〃
柴又河川敷遺跡Ⅲ	葛飾区遺跡調査会	〃
平成５・６年度葛飾区埋蔵文化財調査年報	同　上	〃
平成８年度沼南町内遺跡発掘調査報告書	沼南町教育委員会	〃
大昔の大田区	大田区立郷土博物館	〃
大田区立郷土博物館紀要第7号1996年度	同　上	〃
特別展図録ミクロネシア	同　上	〃
町内遺跡Ⅰ 県指定史跡赤沼古代瓦窯跡灰原範囲確認調査報告書	鳩山町教育委員会	〃
中野久木谷頭遺跡Ｃ地点	流山市教育委員会	〃
平成８年度流山市市内遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
流山市上新宿貝塚	同　上	〃
三田市旧金剛寺跡	六甲山麓遺跡調査会	〃
長岡京市埋蔵文化財センター年報平成７年度	㈶長岡京市埋蔵文化財センター	9．5．28
多摩ニュータウン遺跡	㈶東京都教育文化財団 東京都埋蔵文化財センター	〃
まんが市原の歴史	㈳市原青年会議所	〃
まんが市原の歴史vol.２　市原むかしむかし	同　上	〃
広島県の埋蔵文化財平成６年度事業の概要	広島県教育委員会	〃
広島県の埋蔵文化財平成７年度事業の概要	同　上	〃
空港跡地遺跡（亀の町地区Ⅰ）	高松市教育委員会	〃
空港跡地遺跡（亀の町地区Ⅱ）	同　上	〃
松林遺跡	同　上	〃
埼玉県立埋蔵文化財センター年報６	埼玉県立埋蔵文化財センター	〃
世田谷区史料叢書第十二巻	世田谷区教育委員会	〃
埋蔵文化財年報平成６年度（1994）	調布市郷土博物館・調布市遺跡調査会	〃
埋蔵文化財年報平成７年度（1995）	同　上	〃
房総文化第十九号	房総文化研究所	〃
広島藩大坂蔵屋敷跡	㈶大阪市文化財協会	9．5．29
長原・瓜破遺跡発掘調査報告Ⅸ	同　上	〃
長原・瓜破遺跡発掘調査報告Ⅹ	同　上	〃

書　　名	寄　　贈　　者	受入日
天満本願寺跡発掘調査報告Ⅱ	(財)大阪市文化財協会	9.5.29
城山遺跡Ⅵ	(財)浜松市文化協会	〃
鳥居松遺跡	同　上	〃
木伐田遺跡	同　上	〃
茱萸ノ木田遺跡発掘調査概報	鴨川市遺跡調査会	〃
史跡吉川氏城館跡吉川元春館跡第２次発掘調査概要	広島県教育委員会	〃
十条久保遺跡発掘調査概報	十条久保遺跡調査会	〃
永見屋敷跡	津山市教育委員会	〃
西吉田北遺跡	同　上	〃
日上天王山古墳	同　上	〃
年報津山弥生の里第４号（平成７年度）	同　上	〃
有本古墳群	同　上	〃
地域をつなぐ未来へつなぐ	蜂屋孝之	〃
茂原市立木高橋家文書「御用留」第五集	茂原市教育委員会	〃
いわき市教育文化事業団研究紀要第８号	(財)いわき市教育文化事業団	9.5.30
石手寺前遺跡	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	〃
寒沢古墳群・愛宕古墳群・寒沢遺跡・上用瀬遺跡発掘調査報告書	(財)君津郡市文化財センター	〃
泉遺跡発掘調査報告書Ⅱ	同　上	〃
大畑台遺跡群大畑台遺跡（Ｃ）発掘調査報告書	同　上	〃
美生遺跡群Ⅱ	同　上	〃
平成８年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
根岸遺跡	いわき市教育委員会	〃
泉町Ｃ遺跡	同　上	〃
大谷遺跡・花ノ井遺跡	同　上	〃
登館跡	同　上	〃
草戸千ヶ軒町遺跡発掘調査報告Ⅴ	広島県教育委員会	〃
広島大学文学部帝釈峡遺跡群発掘調査室年報Ⅺ	広島大学文学部帝釈峡遺跡群発掘調査室	〃
社団法人愛知県トラック協会センター用地内埋蔵文化財発掘調査報告書	三好町教育委員会	〃
後川遺跡発掘調査報告書	滋賀県教育委員会	〃
日置前遺跡Ⅰ	同　上	〃
柳沢・養老田・寿行地北遺跡発掘調査報告書	出島村教育委員会	〃
倉敷埋蔵文化財センター年報３	倉敷埋蔵文化財センター	〃
池尻遺跡	同　上	〃
下戸塚遺跡の調査第４部中近世編	早稲田大学	〃
池之端七軒町遺跡（慶安寺跡）	池之端七軒町遺跡調査会	〃
栃木県上三川町殿山遺跡Ⅰ	日本窯業史研究所	〃
鷲ヶ峰遺跡北東地区第１次調査報告書	同　上	〃
鷲ヶ峰遺跡北東地区第２次調査報告書	同　上	〃
飛鳥山遺跡（本文編）（写真図版・観察表編）	飛鳥山遺跡調査会	〃
越谷遺跡他発掘調査報告書	名神高速道路内遺跡調査会	〃
芹沢配水池関連遺跡群行谷遺跡・大島仲ノ谷遺跡・諏訪谷西遺跡・椎ノ木坂遺跡	(財)かながわ考古学財団	9.6.2
小篭遺跡Ⅱ	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター	〃
須崎道路（吾井郷地区）埋蔵文化財確認調査報告書	同　上	〃
長畝古墳群	同　上	〃
太子Ａ窯跡	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター	〃
品野西遺跡	同　上	〃
落合橋南遺跡Ⅰ	同　上	〃

書　　名	寄　　贈　　者	受入日
浜松市半田土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（本文編・実測図版編・写真図版編・付図編）	(財)浜松市文化協会	9．6．2
宇治市埋蔵文化財発掘調査概報第32集	宇治市教育委員会	〃
東屋観音発掘調査概報	同　上	〃
白川金色院跡発掘調査概報平成８年度	同　上	〃
吉野口遺跡	岡山市教育委員会	〃
ヘボノ木遺跡第62次調査	久留米市教育委員会	〃
ヘボノ木遺跡第63次調査	同　上	〃
ヘボノ木遺跡平成６年度発掘調査概要	同　上	〃
安国寺遺跡第５次調査	同　上	〃
安武地区遺跡群Ｘ	同　上	〃
安武地区遺跡群ＸＩ	同　上	〃
久留米市文化財要覧	同　上	〃
久留米城下町魚屋町遺跡第１・２次調査	同　上	〃
久留米城下町呉服町遺跡	同　上	〃
久留米城外郭遺跡第２次調査松田家屋敷跡	同　上	〃
上津・藤光遺跡群	同　上	〃
城崎遺跡第２次調査	同　上	〃
神道遺跡第16次調査	同　上	〃
西行古墳群	同　上	〃
大善寺北部地区遺跡群Ｖ	同　上	〃
大善寺北部地区遺跡群Ⅵ	同　上	〃
筑後国府跡	同　上	〃
筑後国府跡平成７年度発掘調査概要	同　上	〃
筑後国府跡平成８年度発掘調査概要	同　上	〃
津福寺山遺跡	同　上	〃
道蔵遺跡Ⅱ	同　上	〃
二本木遺跡第10次調査	同　上	〃
日出原南遺跡第２次調査	同　上	〃
白口西屋敷遺跡	同　上	〃
不光院遺跡	同　上	〃
平成７年度久留米市内遺跡群	同　上	〃
平成８年度ヘボノ木遺跡発掘調査概要	同　上	〃
平成８年度久留米市内遺跡群	同　上	〃
長野県立歴史館研究紀要第３号	長野県立歴史館	〃
粟堀南Ａ遺跡	東庄町教育委員会	〃
信仰関連遺跡調査課程	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター	〃
権現山	豊橋市教育委員会	〃
公文遺跡（Ⅲ）・牟呂城址	同　上	〃
水神貝塚	同　上	〃
大西遺跡	同　上	〃
15年のあゆみ1981→1996	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	9．6．16
京都府遺跡調査概報第74冊	同　上	〃
京都府遺跡調査概報第75冊	同　上	〃
千葉県富津市萩ノ作遺跡発掘調査報告書	富津市教育委員会	〃
平成8年度千葉県富津市内遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
いにしえの木の匠	福島県立博物館	〃
企画展縄文絵巻	同　上	〃

書　　名	寄　贈　者	受入日
船窪遺跡群	㈶ひたちなか市文化・スポーツ振興公社	9．6．17
武田Ⅹ　1996年度武田遺跡群発掘調査の成果	同　上	〃
財団法人愛知県埋蔵文化財センター年報平成８年度	㈶愛知県埋蔵文化財センター	〃
平成７年度京都市埋蔵文化財調査概要	㈶京都市埋蔵文化財研究所	〃
愛知県埋蔵文化財情報12平成７年度	愛知県教育委員会	〃
井沼方遺跡・井沼方南遺跡発掘調査報告書	浦和市教育委員会	〃
馬場小室山遺跡発掘調査報告、井沼方遺跡発掘調査報告	同　上	〃
下村加茂遺跡発掘調査報告書	下村教育委員会	〃
瓢箪塚古墳　上浜田古墳群第７号墳　発掘調査報告書	海老名市教育委員会	〃
平原遺跡Ⅰ	佐賀県教育委員会	〃
平原遺跡Ⅱ	同　上	〃
小金城跡（第４地点）	松戸市遺跡調査会	〃
千葉県立中央博物館研究報告人文学科第５巻第１号	千葉県立中央博物館	〃
古代第103号	早稲田大学考古学会	〃
館石野Ⅰ遺跡発掘調査報告書　縄文時代列石遺構の調査	早稲田大学文学部考古学研究室	〃
井ノ内稲荷塚古墳Ⅱ第４次発掘調査概報	長岡京市教育委員会	〃
長岡京市文化財調査報告書第36冊	同　上	〃
築町遺跡	長崎市教育委員会	〃
武蔵国分寺跡西方地区武蔵台遺跡Ⅱ　資料編６・附編	都立府中病院内遺跡調査会	〃
府中市内遺跡３	府中市教育委員会	〃
オパウシナイ１遺跡	平取町教育委員会	〃
ペナコリ１遺跡	同　上	〃
みどりが丘１遺跡・平取桜井遺跡	同　上	〃
二風谷遺跡	同　上	〃
名古屋大学文学部研究論集128史学43〔考古学抜刷第12集〕	名古屋大学	〃
むこうまち往来こばなし	㈶向日市埋蔵文化財センター	9．6．18
向日市埋蔵文化財調査報告書第44集	同　上	〃
平成７年度財団法人向日市埋蔵文化財センター年報都城８	同　上	〃
年報平成８年度	㈶山形県埋蔵文化財センター	〃
桑原地区の遺跡Ⅲ	㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	〃
小野川流域の遺跡（本文編・図版編）	同　上	〃
中村松田遺跡	同　上	〃
庚塚遺跡	山武町教育委員会	〃
辻遺跡	同　上	〃
平成８年度山武町内遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
一般国道１号北勢バイパス埋蔵文化財発掘調査概報Ⅰ	四日市市教育委員会	〃
四日市市文化財保護年報７平成７年度	同　上	〃
高崎遺跡	多賀城市教育委員会	〃
山王遺跡Ⅰ	同　上	〃
市川橋遺跡	同　上	〃
小沢原遺跡	多賀城市教育委員会	〃
新田遺跡	同　上	〃
多賀城市埋蔵文化財調査センター年報平成７年度	同　上	〃
市内遺跡発掘調査報告東北原遺跡（第11次調査）	大宮市遺跡調査会	〃
側ヶ谷戸貝塚第２次調査	同　上	〃
真人原遺跡Ⅱ（遺物データ　フロッピー付）	東京都立大学人文学部考古学研究室	〃
人類誌集報1997	同　上	〃

書　　名	寄　贈　者	受入日
稲荷前Ｂ遺跡他	平塚市教育委員会	9．6．18
梶谷原・高林寺遺跡他	同　上	〃
御領宮遺跡	同　上	〃
厚木道遺跡第４地点	同　上	〃
山王久保遺跡	同　上	〃
原口遺跡Ⅰ（第１分冊・第２分冊）	(財)かながわ考古学財団	9．6．19
中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書16（概要・遺構編・遺物編・遺構図版編・遺物図版編・別図・成果と課題編）	(財)長野県埋蔵文化財センター	〃
横須賀リサーチパーク計画基盤整備事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書	横須賀リサーチパーク計画基盤整備事業地内埋蔵文化財発掘調査団	〃
横須賀市吉井・池田地区遺跡群Ⅰ 横須賀市吉井・池田地区遺跡群Ⅱ 付図	横須賀市吉井・池田地区埋蔵文化財発掘調査団	〃
須和田遺跡第6地点	市川市教育委員会	〃
平成８年度市川市内遺跡発掘調査報告	同　上	〃
平成元年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告	同　上	〃
エリ穴遺跡	松本市教育委員会	〃
県町遺跡ＸⅠ緊急発掘調査報告書	同　上	〃
小池遺跡Ⅱ・一ツ家遺跡緊急発掘調査報告書	同　上	〃
松本城下町跡伊勢町第８・９・12次本町１・２次試掘調査報告書	同　上	〃
上ノ平遺跡Ｃ地点	新潟県教育委員会	〃
大堀遺跡	同　上	〃
パネルディスカッション 敷石住居の謎に迫る　記録集	神奈川県立埋蔵文化財センター・(財)かながわ考古学財団	〃
宮ヶ瀬遺跡群Ｘ	同　上	〃
落川・一の宮遺跡調査略報Ⅴ	落川・一の宮遺跡（日野3・2・7号線）調査会	〃
平成８年度　さんだのいせき26～36・企画展16～27	三田市教育委員会	9．6．20
千葉県夷隅郡大多喜町横山白山台遺跡	(財)長生郡市文化財センター	9．7．15
千葉県夷隅郡大多喜町土島田遺跡	同　上	〃
千葉県長生郡長柄町大久保遺跡	同　上	〃
千葉県長生郡長柄町谷口遺跡・吹良遺跡	同　上	〃
財団法人八尾市文化財調査研究会報告52	(財)八尾市文化財調査研究会	〃
財団法人八尾市文化財調査研究会報告53	同　上	〃
財団法人八尾市文化財調査研究会報告54	同　上	〃
平成８年度（財）八尾市文化財調査研究会事業報告	同　上	〃
根切遺跡	我孫子市教育委員会	〃
高槻市文化財年報平成７年度	高槻市教育委員会	〃
嶋上遺跡群21	同　上	〃
四街道市の文化財第22号	四街道市教育委員会	〃
四街道市内遺跡発掘調査報告書1997	同　上	〃
鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報11	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	〃
小田原城三の丸御長屋跡第Ⅰ地点	小田原市教育委員会	〃
中里遺跡第Ⅲ地点発掘調査報告書	小田原市教育委員会	〃
物見塚古墳発掘調査報告書	同　上	〃
研究室の18年	新潟大学考古学研究室	〃
飯綱山古墳群（10・27号墳）測量調査報告	同　上	〃
多古町栗山川流域遺跡群	多古町教育委員会	〃
多古町栗山川流域遺跡群・島八幡下遺跡	同　上	〃
日本寺檀林関係資料目録	同　上	〃
国指定史跡上高津貝塚整備事業報告書	土浦市教育委員会	〃

書　　名	寄　贈　者	受入日
上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報第１号	土浦市教育委員会	9．7．15
上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報第２号	同　上	〃
土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場要覧	同　上	〃
土浦市養老田遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
土浦城（外丸御殿跡）発掘調査報告書	同　上	〃
柳沢・養老田・寿行地北遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
六十原Ａ遺跡	同　上	〃
水尻遺跡	東海大学校地内遺跡調査委員会	〃
東海大学校地内遺跡調査団報告７	同　上	〃
練馬区八ヶ谷戸遺跡第二次調査	八ヶ谷戸遺跡調査会	〃
市制25周年記念特別展“長岡京丼めしあがれ”	(財)向日市埋蔵文化財センター	9．7．16
物集女城跡	同　上	〃
平成８年度瀬戸市埋蔵文化財センター年報	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター	〃
川合遺跡遺物編１（土器・土製品本文編）	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	〃
川合遺跡遺物編３（木製品本文編）	同　上	〃
中島田遺跡Ⅱ	(財)徳島県埋蔵文化財センター	〃
下総町内遺跡群発掘調査報告1994年度	下総町教育委員会	〃
下総町内遺跡群発掘調査報告1995年度	同　上	〃
下総町内遺跡群発掘調査報告1996年度	同　上	〃
千葉県香取郡下総町文化財調査報告Ⅶ	同　上	〃
大菅並木Ⅱ・名古屋三ツ矢遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
上美都岐遺跡	佐川町教育委員会	〃
袖ヶ浦の植物	袖ヶ浦市教育委員会	〃
袖ヶ浦の地形・地質	同　上	〃
袖ヶ浦の地名	同　上	〃
袖ヶ浦の中世城館跡	同　上	〃
袖ヶ浦の動物	同　上	〃
袖ヶ浦の方言	同　上	〃
袖ヶ浦市向山野Ｂ遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
袖ヶ浦市史研究第５号	同　上	〃
袖ヶ浦市史料目録〔3〕	同　上	〃
袖ヶ浦市史料目録〔4〕	同　上	〃
平成8年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
汐留遺跡Ⅰ（第１分冊・第２分冊・第３分冊・第４分冊・第５分冊・付図）	(財)東京都教育文化財団　東京都埋蔵文化財センター	〃
多摩ニュータウン遺跡	同　上	〃
柏原５遺跡	苫小牧市埋蔵文化財調査センター	〃
春日町遺跡第Ⅴ地点	文京区遺跡調査会	〃
下十条遺跡	北区教育委員会	〃
御殿前遺跡Ⅴ	同　上	〃
坂長宮田ノ上遺跡　坂中第5遺跡　坂長佛谷遺跡　小町越城野原第1遺跡　小町越城野原第2遺跡	(財)鳥取県教育文化財団　鳥取県埋蔵文化財センター	9．7．17
小町石橋ノ上遺跡　朝金第２遺跡　田住桶川遺跡　田住第８遺跡	同　上	〃
長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅶ（第１分冊・第２分冊）	同　上	〃
鶴田墓ノ上遺跡　鶴田大道端遺跡　鶴田中峯山遺跡	同　上	〃
天萬土井前遺跡	同　上	〃
特別展　駿河湾の漁船	沼津市歴史民俗資料館	9．7．20
レトロ・レトロの展覧会1997	守山市埋蔵文化財センター	9．7．22
下長遺跡発掘調査報告書Ⅲ	同　上	〃

書　　名	寄　贈　者	受入日
吉身西遺跡第41次発掘調査報告書	守山市埋蔵文化財センター	9．7．22
経田遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
守山市文化財調査報告書第56冊	同　上	〃
守山市文化財調査報告書第58冊	同　上	〃
守山市文化財調査報告書第61冊	同　上	〃
小野遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
旧練兵場遺跡	㈶香川県埋蔵文化財調査センター	9．7．23
空港跡地遺跡発掘調査概報平成８年度	同　上	〃
県道関係埋蔵文化財発掘調査概報平成８年度	同　上	〃
高松港頭土地区画整理事業埋蔵文化財発掘調査概報平成８年度	同　上	〃
国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報平成８年度	同　上	〃
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要Ⅴ	同　上	〃
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報平成７年度	同　上	〃
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報平成８年度	同　上	〃
四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報平成８年度	同　上	〃
小谷窯跡　塚谷古墳	同　上	〃
水道局第３投棄場整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概報	同　上	〃
川津一ノ又遺跡	同　上	〃
京都府遺跡調査概報第76冊	㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター	9．7．25
京都府遺跡調査概報第77冊	同　上	〃
千葉県史研究第５号	㈶千葉県史料研究財団	〃
河内平野遺跡群の動態Ⅴ（本文編・図版編・付図）	㈶大阪府文化財調査研究センター	〃
大阪文化財研究第11号	同　上	〃
埋蔵文化財調査概要平成８年度	㈶富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所	〃
埋蔵文化財年報（8）平成８年度	同　上	〃
沼津市博物館紀要21	沼津市歴史民俗資料館	〃
大阪市立博物館報No.36	大阪市立博物館	〃
よみがえるあさくみがわのながれ	島根県教育庁	〃
檀原遺跡・殿淵山毛宅前鈩跡・谷川遺跡	同　上	〃
徳見津遺跡・目廻遺跡・陽徳寺遺跡	同　上	〃
斐伊川放水路発掘物語Part３	同　上	〃
本庄川流域条里遺跡	同　上	〃
柳Ⅱ遺跡・小久白墳墓群・神庭谷遺跡	同　上	〃
京都府埋蔵文化財情報第64号	㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター	9．7．28
財団法人枚方市文化財研究調査会研究紀要第4集	㈶枚方市文化財研究調査会	〃
枚方市文化財年報18（1996年度分）	同　上	〃
古代出雲文化展	古代出雲文化展実行委員会	〃
郡山遺跡ⅩⅦ	仙台市教育委員会	〃
仙台平野の遺跡群ⅩⅥ	仙台市教育委員会	〃
年報17	同　上	〃
年報18	同　上	〃
富沢・泉崎浦・山口遺跡(9)	同　上	〃
野川遺跡	同　上	〃
橋本遺跡	相模原市教育委員会	〃
勝坂遺跡第47次調査	同　上	〃
相模原市No.195遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
相模原市No.27遺跡発掘調査報告書	同　上	〃

書　　名	寄　　贈　　者	受入日
相模原市横山5丁目遺跡発掘調査報告書	相模原市教育委員会	9.7.28
大島上ノ原遺跡	同　上	〃
八幡山横穴群	袋井市教育委員会	〃
興善町遺跡	長崎市埋蔵文化財調査協議会	〃
社口遺跡第3次調査報告書	帝京大学山梨文化財研究所	〃
大坪遺跡発掘調査報告書Ⅲ	同　上	〃
帝京大学山梨文化財研究所研究報告第8集	同　上	〃
研究紀要第5号	(財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター	9.7.30
下高井城跡第3次発掘調査報告	取手市教育委員会	〃
下高井城跡発掘調査報告書	同　上	〃
市之代古墳群第3号墳調査報告	同　上	〃
取手と先史文化上巻	同　上	〃
取手と先史文化下巻	同　上	〃
取手と先史文化別巻1	同　上	〃
取手の朱印状	同　上	〃
取手の鳥居	同　上	〃
取手市遺跡分布調査報告	同　上	〃
取手市郷土史資料（写真集）	同　上	〃
取手市史近現代史料編Ⅰ	同　上	〃
取手市史近現代史料編Ⅱ	同　上	〃
取手市史近世史料編Ⅰ	同　上	〃
取手市史近世史料編Ⅱ	同　上	〃
取手市史近世史料編Ⅲ	同　上	〃
取手市史原始古代（考古）資料編	同　上	〃
取手市史古代中世史料編	同　上	〃
取手市史資料目録第三集	同　上	〃
取手市史資料目録第四集	同　上	〃
取手市史資料目録第八号	同　上	〃
取手市史資料目録第九集	同　上	〃
取手市史資料目録第十集	同　上	〃
取手市史資料目録第十一集	同　上	〃
取手市史資料目録第十二集	同　上	〃
取手市史資料目録第十三集	同　上	〃
取手市史資料目録第十四集	同　上	〃
取手市史社寺編	同　上	〃
取手市史植物編	同　上	〃
取手市史石造遺物編	同　上	〃
取手市史通史編Ⅰ	同　上	〃
取手市史通史編Ⅱ	同　上	〃
取手市史通史編Ⅲ	同　上	〃
取手市史別巻本陣交通史料集Ⅱ	同　上	〃
取手市史民家編	同　上	〃
取手市史民俗編Ⅰ	同　上	〃
取手市史民俗編Ⅱ	同　上	〃
取手市史民俗編Ⅲ	同　上	〃
取手市史余録創刊号	同　上	〃
取手市史余録第二号	同　上	〃

書　　名	寄　贈　者	受入日
取手市史余録第三号	取手市教育委員会	9.7.30
取手市史余録第四号	同　上	〃
取手市史余録第五号	同　上	〃
取手市史余録第六号	同　上	〃
取手市小文間における縄文時代中期の貝塚1983	同　上	〃
取手市内における重要遺跡発掘調査報告1983	同　上	〃
取手市内における重要遺跡発掘調査報告1984	同　上	〃
取手市内遺跡発掘調査報告書１	同　上	〃
取手市内遺跡発掘調査報告書２	同　上	〃
取手市内遺跡発掘調査報告書３	同　上	〃
新屋敷遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
西方貝塚発掘調査報告書	同　上	〃
大鹿城跡発掘調査報告書	同　上	〃
大渡Ⅰ遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
中妻貝塚	同　上	〃
中妻貝塚1984	同　上	〃
中妻貝塚の話	同　上	〃
中妻貝塚発掘調査報告書	同　上	〃
史跡長柄横穴群保存管理計画書	長柄町教育委員会	〃
横倉戸館遺跡	栃木県教育委員会	〃
温泉神社北遺跡	同　上	〃
下野国分寺跡ⅩⅡ（瓦・本文編）	同　上	〃
外城遺跡（鷲城跡）	同　上	〃
間々田地区遺跡群Ⅰ	同　上	〃
戸木内遺跡（第４次調査）	同　上	〃
三輪仲町遺跡（本文編Ⅰ・本文編Ⅱ・写真図版編・付図）	同　上	〃
山海道遺跡	同　上	〃
西裏遺跡	同　上	〃
栃木県埋蔵文化財保護行政年報19	同　上	〃
那須官衙関連遺跡Ⅳ	同　上	〃
八幡根遺跡	同　上	〃
青山開戸遺跡	(財)かながわ考古学財団	9.8.5
史跡滝山城跡内便所改築事業報告書	八王子市教育委員会	〃
八王子市打越大畑遺跡Ⅱ調査報告書	同　上	〃
八王子市日向四谷遺跡Ⅱ	同　上	〃
八王子市埋蔵文化財年報平成８年度	同　上	〃
弥生の鋳物工房とその世界	北九州市立考古博物館	〃
下飯田林・中ノ宮・草木遺跡	(財)横浜市ふるさと歴史財団	9.9.3
財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター年報７平成８年度	同　上	〃
財団法人東総文化財センター年報１平成３・４年度	(財)東総文化財センター	〃
ひたちなか市埋蔵文化財調査センター年報第２号	ひたちなか市埋蔵文化財調査センター	〃
松月院跡・伝本願寺跡	三重県埋蔵文化財センター	〃
瀬干遺跡・綾垣内遺跡・大蓮寺遺跡・柳辻遺跡・北ノ垣内遺跡	同　上	〃
石薬師東古墳群・石薬師東遺跡（第５次）発掘調査概報	同　上	〃
堀田遺跡第３次発掘調査概報	同　上	〃
山武考古学研究所年報№14	山武考古学研究所	〃
四街道市の文化財第23号	四街道市の文化財第23号	〃

書　　名	寄　　贈　　者	受入日
神山遺跡群遺跡確認調査概要報告書	津南町教育委員会	9．9．3
相吉遺跡	同　上	〃
上野忍岡遺跡群	東京芸術大学発掘調査団	〃
栃木県立なす風土記の丘資料館年報第５号（平成８年度版）	栃木県教育委員会	〃
文化財学報第十五集	奈良大学文学部文化財学科	〃
柏公園遺跡（Ⅱ）	柏市教育委員会	〃
研究ノート６号平成８年度	㈶茨城県教育財団	9．9．4
年報16平成８年度	同　上	〃
飛瀬・底津遺跡	㈶岐阜県文化財保護センター	〃
北小木古窯跡群・大沢13号古窯跡	同　上	〃
研究紀要第13号	㈶埼玉県埋蔵文化財調査事業団	〃
原遺／谷畑	同　上	〃
戸崎前遺跡	同　上	〃
五関中島／堤根	同　上	〃
広木上宿遺跡縄文時代編	同　上	〃
今井川越田遺跡Ⅱ	同　上	〃
埼玉県埋蔵文化財調査事業団年報17	同　上	〃
山王裏／上川入／西浦／野本氏館跡	同　上	〃
石神貝塚	同　上	〃
大山遺跡第９次	同　上	〃
滝の宮坂遺跡	同　上	〃
築道下遺跡Ⅰ	同　上	〃
東町二丁目遺跡	同　上	〃
新潟県埋蔵文化財調査事業団年報平成８年度	㈶新潟県埋蔵文化財調査事業団	〃
池ヶ谷遺跡Ⅳ	㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所	〃
多摩ニュータウン遺跡	㈶東京都教育文化財団　東京都埋蔵文化財センター	〃
水深遺跡（第２次）・水深北遺跡（第３次）発掘調査報告書	浦和市遺跡調査会	〃
前窪遺跡発掘調査報告書（第３次）	同　上	〃
大久保領家片町遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
大崎西桔木遺跡（第２次）・大崎東新井遺跡（第３次）・大崎北久保遺跡（第３次）発掘調査報告書	同　上	〃
大崎東新井遺跡（第２次）・大崎北久保遺跡（第１次、第２次）・鶴巻西遺跡（第２次）発掘調査報告書	同　上	〃
中尾中丸遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
東裏遺跡発掘調査報告書（第３次）	同　上	〃
本村遺跡発掘調査報告書（第ＸⅢ地点）	同　上	〃
日本全国書誌1997-29 №2138	国立国会図書館	〃
埼玉県立埋蔵文化財センター年報７平成８年度	埼玉県立埋蔵文化財センター	〃
松本市竹渕遺跡Ⅱ緊急発掘調査報告書	松本市教育委員会	〃
千葉県立総南博物館研究報告第１号	千葉県立総南博物館	〃
武蔵大学人文学会雑誌第28巻第４号	武蔵大学人文学会	〃
遠所遺跡	㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター	9．9．24
加茂遺跡第１次・第２次調査の概要	㈶石川県埋蔵文化財保存協会	〃
財団法人石川県埋蔵文化財保存協会年報７平成７年度	同　上	〃
財団法人石川県埋蔵文化財保存協会年報８平成８年度	同　上	〃
太田・黒田遺跡第33・34次発掘調査概報	㈶和歌山市文化体育振興事業団	〃
府中Ⅳ遺跡第２次発掘調査概報	同　上	〃
和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報３平成４（1992）・平成５（1993）年度	同　上	〃
和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報４平成６（1994）年度	同　上	〃

書　　名	寄　　贈　　者	受入日
兜塚古墳発掘調査報告書	玉川文化財研究所	9．9．24
桜橋付近遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
上ノ原遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
堂之上遺跡	同　上	〃
南八王子地区遺跡調査報告11	同　上	〃
宮ノ腰遺跡発掘調査報告Ⅰ	三重県埋蔵文化財センター	〃
窪田大垣内遺跡（第３次）・管ヶ谷古墳群発掘調査報告	同　上	〃
千葉県立安房博物館研究紀要VOL．4	千葉県立安房博物館	〃
伊興遺跡	足立区伊興遺跡調査会	〃
太宰府・佐野地区遺跡群Ⅶ	太宰府市教育委員会	〃
大宰府史跡	同　上	〃
筑前国分寺跡Ⅰ	同　上	〃
辻遺跡	同　上	〃
宝満山遺跡群Ⅱ	同　上	〃
網代門口	東京都網代母子寮遺跡調査会	〃
河原子台Ⅱ-２・３遺跡	白井町教育委員会	〃
名古屋市博物館研究紀要第20巻	名古屋市博物館	〃
埋蔵文化財調査報告12平成８年度（1996年度）	練馬区教育委員会	〃
継体天皇と今城塚古墳	㈱吉川弘文館	9．9．29
稲荷下遺跡	えびの市教育委員会	〃
小木原遺跡群蕨地区（C・D地区）・久見迫Ｂ地区・地主原地区、原田・上江遺跡群六部市遺跡、蔵元・中満・法光寺遺跡Ⅰ・Ⅱ	同　上	〃
苧畑第３・山神原遺跡	同　上	〃
田代地区遺跡群 上田代遺跡・松山遺跡・竹之内遺跡・妙見原遺跡	同　上	〃
内小野遺跡	同　上	〃
妙見原遺跡	同　上	〃
史叢第57号	日本大学史学会	〃
吉見台遺跡Ｂ地点	㈶印旛郡市文化財センター	9．9．30
小菅三ツ塚遺跡	同　上	〃
千葉県印旛郡印旛村吉高浅間古墳発掘調査報告書	同　上	〃
千葉県佐倉市太田向原遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
大室十三塚	同　上	〃
南羽鳥遺跡群Ⅰ（本文編・図版編）	同　上	〃
桜之宮１号墳	㈶香取郡市文化財センター	〃
事業報告Ⅵ平成７年度	同　上	〃
多古台遺跡群№８地点Ⅱ	同　上	〃
中ノ台遺跡Ａ地区	㈶香取郡市文化財センター	〃
津宮毘沙門遺跡	同　上	〃
反鍬遺跡	同　上	〃
名号戸遺跡	同　上	〃
千葉県の自然誌本編２千葉県の大地	㈶千葉県史料研究財団	〃
東京都埋蔵文化財センター研究論集ＸⅥ	㈶東京都教育文化財団 東京都埋蔵文化財センター	〃
及川中原遺跡	国道412号線遺跡発掘調査団	〃
及川天台遺跡	同　上	〃
国立歴史民俗博物館研究報告第70集	国立歴史民俗博物館	〃
国立歴史民俗博物館研究報告第71集	同　上	〃
中在家南遺跡他（第１分冊・第２分冊・第３分冊）	仙台市教育委員会	〃

書　　名	寄　　贈　　者	受入日
市原市西野遺跡第２次発掘調査報告書	千葉県教育委員会	9．9.30
千葉県埋蔵文化財分布地図（1）	同　上	〃
千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報平成７年度	千葉県教育庁	〃
埋蔵文化財保護の手引き増補改訂版	千葉県教育庁生涯学習部文化課	〃
間洞Ⅱ遺跡発掘調査報告書	㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	9．10．1
岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成８年度）	同　上	〃
紀要ⅩⅦ（平成８年度）	同　上	〃
久保遺跡調査報告書	同　上	〃
山ノ内Ⅱ遺跡調査報告書	同　上	〃
山ノ内Ⅲ遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
山屋館経塚・山屋館跡発掘調査報告書	同　上	〃
小幅遺跡第４次発掘調査報告書	同　上	〃
上鷹生遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
瀬原Ⅰ遺跡第２次・３次発掘調査報告書	同　上	〃
平沢Ⅰ遺跡発掘調査報告書Ⅲ	同　上	〃
目名市Ⅱ遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
雲宮遺跡	㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター	〃
瓦谷古墳群	同　上	〃
第15回小さな展覧会	同　上	〃
多摩ニュータウン遺跡	㈶東京都教育文化財団　東京都埋蔵文化財センター	〃
愛知県陶磁資料館研究紀要13	愛知県陶磁資料館	〃
愛知県陶磁資料館研究紀要14	同　上	〃
企画展経塚出土陶磁展	同　上	〃
特別企画展松岡美術館名品展	同　上	〃
笠懸村稲荷山遺跡	笠懸村教育委員会	〃
笠懸村和田遺跡	同　上	〃
向山遺跡調査概報	同　上	〃
笠懸町内遺跡Ⅰ	同　上	〃
笠懸町内遺跡Ⅱ	同　上	〃
岩宿時代	同　上	〃
古代からのメッセージ	同　上	〃
国立歴史民俗博物館研究報告第73集	国立歴史民俗博物館	〃
研究紀要第２号	青森県埋蔵文化財調査センター	〃
実吉遺跡	同　上	〃
垂柳遺跡・五輪野遺跡	同　上	〃
田名部館跡	青森県埋蔵文化財調査センター	〃
鬼虎川遺跡の弥生貝塚（第21･27次発掘調査）	㈶東大阪市文化財協会	9．10．3
鬼虎川遺跡第33次発掘調査報告	同　上	〃
鬼虎川遺跡第35-1次発掘調査報告	同　上	〃
鬼虎川遺跡北部の歴史時代耕作地跡と地震層序	同　上	〃
鬼塚遺跡第８次発掘調査報告	同　上	〃
宮ノ下遺跡東部における歴史時代の層序	同　上	〃
郷土史のたのしみ	同　上	〃
財団法人東大阪市文化財協会概報集1996年度（1）	同　上	〃
植附遺跡第３次発掘調査概報	同　上	〃
神並遺跡ⅩⅣ	同　上	〃
神並遺跡西端部の歴史時代水路跡と縄文　奈良時代の埋積谷	同　上	〃

書　　名	寄　贈　者	受入日
水走遺跡第３次・鬼虎川遺跡第21次発掘調査報告	㈶東大阪市文化財協会	9.10. 3
西ノ辻遺跡第33次発掘調査報告	同　上	〃
東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告1994年度	同　上	〃
東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告1995年度	同　上	〃
東大阪市埋蔵文化財発掘調査概要1995年度調査（1）	同　上	〃
東大阪市埋蔵文化財発掘調査概要1995年度調査（2）	同　上	〃
布施駅北口駐車場及び寝屋川流域調節池建設工事に伴う宮ノ下遺跡第２次発掘調査報告書	同　上	〃
北島遺跡の耕作地跡と古環境（本文・附編 北島遺跡第1次発掘調査地の出土遺物）	同　上	〃
平成９年度秋季特別展 大和の高殿 渦巻飾から飛雲飾へ	㈶桜井市文化財協会	9.10. 6
千葉県の歴史資料編近現代４（産業・経済１）	㈶千葉県史料研究財団	〃
千葉県の歴史資料編中世２（県内文書１）	同　上	〃
㈶東大阪市文化財協会年報1983年度	㈶東大阪市文化財協会	〃
瓜生堂上層遺跡・皿池遺跡	同　上	〃
鬼虎川の金属器関係遺物	同　上	〃
鬼虎川遺跡	同　上	〃
久宝寺遺跡発掘調査報告	同　上	〃
高井田遺跡第２・３次調査報告	同　上	〃
芝ヶ丘遺跡発掘調査概報	同　上	〃
若江遺跡発掘調査報告書Ⅰ遺構編 本文編・図版編・文献編	同　上	〃
若江遺跡発掘調査報告書Ⅰ遺物編	同　上	〃
若江北遺跡	同　上	〃
西ノ辻遺跡第22次発掘調査報告書	同　上	〃
東大阪市遺跡保護調査会年報1979年度	同　上	〃
奈良時代の東大阪	同　上	〃
縄手遺跡１	同　上	〃
観福寺北遺跡群関耕地遺跡発掘調査報告書	玉川文化財研究所	〃
三の丸元蔵堀第Ⅲ・Ⅳ地点 加藤直衛邸跡第Ⅰ地点発掘調査報告書	同　上	〃
久留里城址資料館年報18（平成８年度）	君津市立久留里城址資料館	〃
湯後遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	9.10.13
京都府埋蔵文化財情報第65号	㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター	9.11.10
栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター年報第７号	㈶栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター	〃
五万堀遺跡	玉里村教育委員会	〃
玉里村立史料館報Vol. 2	玉里村立史料館	〃
九州歴史資料館研究論集22	九州歴史資料館	〃
九州歴史資料館年報平成８年度	同　上	〃
平成７年度佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書	佐倉市教育委員会	〃
屋敷町遺跡	三田市教育委員会	〃
市川市出土遺物の分析　古代の鉄・土器について	市川市教育委員会	〃
『占いの文化史　てんのかみさまのいうとおり』	小山市立博物館	〃
小山市立博物館報第14号平成８年度	同　上	〃
加曽利貝塚	千葉市立加曽利貝塚博物館	〃
第21回特別展図録 縄文人の顔 土偶・土面から見た素顔	大宮市立博物館	〃
特別展　弥次さん喜多さん旅をする	大田区立郷土博物館	〃
酒呑場遺跡Ｇ区	長坂町教育委員会	〃
長坂上条遺跡	同　上	〃
北村遺跡	同　上	〃
第５回企画展図録　前方後方墳の世界Ⅱ	栃木県立なす風土記の丘資料館	〃

書　　名	寄　　贈　　者	受入日
美沢10遺跡	苫小牧市埋蔵文化財調査センター	9.11.10
和洋女子大学文化資料館収蔵資料図録一	和洋女子大学文化資料館	〃
研究ノート山武創刊号	㈶山武郡市文化財センター	9.11.11
七堀道下遺跡	㈶新潟県埋蔵文化財調査事業団	〃
大洞原Ｃ遺跡	同　上	〃
長野県埋蔵文化財センター紀要５　1996	㈶長野県埋蔵文化財センター	〃
長野県埋蔵文化財センター年報13　1996	同　上	〃
東京都埋蔵文化財センター年報17　1996（平成８）年度	㈶東京都教育文化財団　東京都埋蔵文化財センター	〃
平成９年度東京都埋蔵文化財センター要覧	同　上	〃
永田遺跡	いわき市教育委員会	〃
久留米城下町両替町遺跡	久留米市教育委員会	〃
古墳時代の馬の装い　さきたまに馬がやってきた！	埼玉県立さきたま資料館	〃
資料館報№28	同　上	〃
埼玉県立博物館紀要21	埼玉県立博物館	〃
埼玉県立博物館紀要22	同　上	〃
花咲新田台遺跡	習志野市教育委員会	〃
鷺沼1丁目遺跡群	同　上	〃
谷津貝塚遺跡Ａ地点	同　上	〃
藤崎３丁目南遺跡	同　上	〃
浜川戸遺跡18次 小渕山下遺跡 花積内谷耕地遺跡4次	春日部市教育委員会	〃
神奈川県埋蔵文化財調査報告39	神奈川県教育委員会	〃
平成９年度企画展図録「古代の道と旅」	千葉県立房総風土記の丘	〃
平成９年度夏季企画展古墳の科学捜査	大阪府立近つ飛鳥博物館	〃
平成９年度秋季特別展「あつれき」と「交流」	同　上	〃
遺跡を測る	奈良国立文化財研究所	〃
車石遺跡発掘調査報告書	八王子市教育委員会	〃
八王子市石川天野遺跡調査報告書	同　上	〃
山手宮前遺跡	㈶岐阜県文化財保護センター	9.11.12
小関御祭田遺跡	同　上	〃
安威川総合開発事業に伴う文化財等総合調査中間報告書	㈶大阪府文化財調査研究センター	〃
河内平野遺跡群の動態Ⅵ（遺構・遺物編、遺物・考察編、写真図版編）	同　上	〃
植田池・長滝・安松遺跡（本文編・図版編・付図）	同　上	〃
中嶋遺跡他3区・８～13区	同　上	〃
堀田城之内遺跡	岐阜県文化財保護センター	〃
歴史学13	高山歴史学研究所	〃
千駄ヶ谷五丁目遺跡　遺物編（第Ⅲ-１分冊・第Ⅲ-２分冊）	千駄ヶ谷五丁目遺跡調査会	〃
一天狗遺跡Ｊ地点4区南・W地点 雷電池東遺跡Ｆ地点発掘調査報告書	鶴ヶ島市教育委員会	〃
羽折遺跡Ａ１次・２次・３次調査発掘調査報告書	同　上	〃
上山田遺跡（１～５次）	同　上	〃
鶴ヶ島市内発掘調査報告書	同　上	〃
鶴ヶ島中学西遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
稲荷作遺跡発掘調査報告書	日立市教育委員会	〃
下の内遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
下相田遺跡	同　上	〃
宮脇遺跡・宮脇Ａ遺跡・宮脇Ｂ遺跡	同　上	〃
原の内Ａ遺跡・原の内Ｂ遺跡	同　上	〃
山中遺跡・明神越遺跡	同　上	〃

書　　名	寄　　贈　　者	受入日
西大塚遺跡発掘調査報告書	日立市教育委員会	9.11.12
折笠赤坂遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
日立市水木町水木古墳群発掘調査報告	同　上	〃
清洲城下町遺跡Ⅶ	㈶愛知県埋蔵文化財センター	9.11.13
西上免遺跡	同　上	〃
大縄遺跡	同　上	〃
大毛池田遺跡	同　上	〃
田所遺跡	同　上	〃
空港跡地遺跡Ⅱ（本文・付図）	㈶香川県埋蔵文化財調査センター	〃
国分寺六ツ目古墳（本文・付図）	同　上	〃
三条黒島遺跡・川西北七条Ⅰ遺跡	同　上	〃
小山・南谷遺跡Ⅰ	同　上	〃
百相坂遺跡	同　上	〃
菅原神社台地上遺跡（第1分冊・第2分冊・第3分冊）	㈶東京都教育文化財団 東京都埋蔵文化財センター	〃
永犬丸遺跡群1	㈶北九州市教育文化事業団	〃
金丸遺跡1	同　上	〃
研究紀要第11号	同　上	〃
高槻遺跡第8地点	同　上	〃
高野遺跡	同　上	〃
社ノ木遺跡	同　上	〃
潤崎遺跡5（第6地点・第7地点）	同　上	〃
小倉城跡3	同　上	〃
森山西遺跡Ⅰ区	同　上	〃
森山西遺跡Ⅱ区	同　上	〃
大積前田遺跡	同　上	〃
徳力土地区画整理事業関係調査報告10	同　上	〃
片伊田遺跡2（Ⅸ・Ⅹ区の調査）	同　上	〃
片伊田遺跡3（Ⅴ・Ⅵ区の調査）	同　上	〃
屏賀坂遺跡（第2地点）	同　上	〃
特別展展示解説書『藩校・私塾・寺子屋　近世房総教育史』	千葉県立南総博物館	〃
調布市中耕地遺跡	調布市教育委員会	〃
外箕輪遺跡Ⅲ	㈶君津郡市文化財センター	9.11.17
亀塚遺跡	同　上	〃
君津郡市文化財センター研究紀要Ⅶ	同　上	〃
根形台遺跡群ⅩⅥ地点	㈶君津郡市文化財センター	〃
千葉県袖ヶ浦市上笠上谷遺跡（2）	同　上	〃
千葉県袖ヶ浦市神納三俣台遺跡	同　上	〃
千葉県袖ヶ浦市谷ノ台遺跡Ⅱ	同　上	〃
千葉県富津市富士見台遺跡Ⅵ	同　上	〃
千葉県木更津市中越遺跡	同　上	〃
千葉県木更津市蓮華寺遺跡Ⅲ	同　上	〃
池ノ谷2号塚	同　上	〃
美生遺跡群Ⅲ	同　上	〃
富津陣屋跡発掘調査報告書	同　上	〃
九反田遺跡	㈶浜松市文化協会	〃
天王中野遺跡2	同　上	〃
港郷土資料館館報15平成8年度版	港区立港郷土資料館	〃

書　　名	寄　　贈　　者	受入日
三田臺町・三田臺裏町・芝伊皿子臺町町屋遺跡発掘調査報告書	港区立港郷土資料館	9.11.17
平成9年度特別展図録汐留遺跡	同　上	〃
杉並区立郷土博物館常設展示図録平成元年度版	杉並区立郷土博物館	〃
纒向の時代　最近の発掘調査から	(財)桜井市文化財協会	9.11.28
出土した古代の土器	群馬県埋蔵文化財調査センター	〃
宝満山遺跡群Ⅱ	山村信榮（太宰府市教育委員会）	〃
私とあなたの琵琶湖アルバム	滋賀県立琵琶湖博物館	〃
仲ノ台遺跡・ヲイノ作遺跡他発掘調査報告書	小川浩一	〃
研究ノート　武蔵野台地東部(本郷台)における石神井川の流路変遷	増渕和夫（川崎教育委員会）	〃
千葉県野田市座生沼における完新世の古環境変遷	同　上	〃
加瀬台古墳群の研究Ⅱ	同　上	〃
特別展日本のかたな	東京国立博物館	〃
平成9年度第2回企画展「七歳までは神のうち」展示図録	八千代市歴史民俗資料館	〃
武蔵大学人文学会雑誌第29巻第1・2号	武蔵大学人文学会	〃
梅坪遺跡Ⅳ	豊田市教育委員会	〃
向日市埋蔵文化財調査報告書第41集	(財)向日市埋蔵文化財センター	9.12.2
釜ノ口遺跡（本文・付図）	(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	〃
古照遺跡第8・9次調査（第1分冊・第2分冊）	同　上	〃
松山市埋蔵文化財調査年報Ⅸ平成8年度	同　上	〃
檜山峠7号墳	同　上	〃
瀬戸・美濃系大窯とその周辺　大窯生産の成立と展開	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター	〃
石川県出土文字資料集成	(社)石川県埋蔵文化財保存協会	〃
中山修一先生追悼文集	長岡京跡発掘調査研究所	〃
島田池遺跡・鷸貫遺跡 本文編(第1分冊・第2分冊)図版編(第3分冊)	島根県教育委員会	〃
平成9年度特別企画展図録「縄文のなりわい」	富山県埋蔵文化財センター	〃
伊勢国分寺・国府跡4	鈴鹿市教育委員会	〃
西ノ谷遺跡	(財)横浜市ふるさと歴史財団	10.2.4
君津郡市文化財センター第4回遺跡発表会資料	(財)君津郡市文化財センター	〃
特別展「群馬の遺跡2　発掘最前線'97」	群馬県立歴史博物館	〃
古代の碑　石に刻まれたメッセージ	国立歴史民俗博物館	〃
国立歴史民俗博物館研究報告第74集	同　上	〃
青山史学第15号	青山学院大学文学部史学科研究室	〃
発掘速報展大阪'98	大阪府立近つ飛鳥博物館	〃
研究輯録Ⅶ	(財)広島県埋蔵文化財調査センター	10.2.5
三原城跡	同　上	〃
年報12平成7年度	同　上	〃
年報13平成8年度	同　上	〃
横岫楯跡・水沢館跡発掘調査報告書	(財)山形県埋蔵文化財センター	〃
宮下遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
後田遺跡・大道下遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
荒川2遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
西町田下遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
津谷遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
土崎遺跡・梵天塚遺跡・中谷地遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
塔の腰遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
富山2遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
北柳1・2遺跡発掘調査報告書	同　上	〃

書　　名	寄　　贈　　者	受入日
木戸下遺跡第２次発掘調査報告書	(財)山形県埋蔵文化財センター	10. 2. 5
野新田遺跡発掘調査報告書	同　上	〃
多摩ニュータウン遺跡	(財)東京都教育文化財団 東京都埋蔵文化財センター	〃
宇治市埋蔵文化財発掘調査概報第35集	宇治市教育委員会	〃
乙方遺跡発掘調査概報	同　上	〃
西浦遺跡発掘調査概報	同　上	〃
村雨町遺跡Ａ地区発掘調査報告書	各務原市埋蔵文化財調査センター	〃
坊の塚古墳周濠範囲確認調査報告書	同　上	〃
安濃津　本文編・遺物観察表　写真図版編	三重県埋蔵文化財センター	〃
三島市文化財年報第８号	三島市教育委員会	〃
三嶋大社境内遺跡第３地点	同　上	〃
小平Ｃ遺跡　小平Ｂ遺跡	同　上	〃
市ノ沢団地遺跡	市ノ沢団地遺跡調査団	〃
諏訪町Ｃ遺跡	諏訪町Ｃ遺跡発掘調査団	〃
宇佐別府道路・日出ジャンクション関係埋蔵文化財調査報告書	大分県教育委員会	〃
横山遺跡・尾畑遺跡	同　上	〃
大在古墳・浜遺跡第２地点	同　上	〃
飯田二反田遺跡	同　上	〃
稙田市遺跡	同　上	〃
シンポジウム「魏志倭人伝と一支国」	長崎県教育委員会	〃
県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅴ	同　上	〃
原始・古代の長崎県資料編Ⅱ	同　上	〃
黒丸遺跡Ⅱ	同　上	〃
桟原城跡調査報告書	同　上	〃
長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅳ	同　上	〃
平成８年度体験発掘講座タイムスリップたんけん隊 発掘だより	同　上	〃
京都府埋蔵文化財情報第66号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	10. 2. 10
熊八幡遺跡（本文編・写真図版編）	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
上栗須寺前遺跡群Ⅲ(第１分冊《本文編》・第２分冊《観察資料編》・第３分冊《写真図版編》・付図)	同　上	〃
白井北中道Ⅱ遺跡・吹屋犬子塚遺跡・吹屋中原遺跡　第１冊（古代・中近世篇）本文・付図	同　上	〃
長岡京跡右京第22・25次調査報告書	(財)長岡京市埋蔵文化財センター	〃
稲沢市内遺跡発掘調査報告書（Ⅱ）	稲沢市教育委員会	〃
稲沢市内遺跡発掘調査報告書（Ⅲ）	同　上	〃
尾張国分寺の発掘調査	同　上	〃
文化財いなさわ	同　上	〃
大阪市の文化財改訂第７版	大阪市教育委員会	〃
下り遺跡・二本木Ａ遺跡・二本木Ｂ遺跡	栃木県教育委員会	〃
柿の内遺跡　下台原南遺跡	同　上	〃
金山遺跡Ⅳ（本文編・遺物観察表編・鍛冶関連遺物編・写真図版編）	同　上	〃
金山遺跡Ⅴ（本文編・遺物観察表編・写真図版編）	同　上	〃
大曲北遺跡・小橋Ⅰ遺跡	同　上	〃
藤岡神社遺跡（遺構編）	同　上	〃
道下遺跡	同　上	〃
品川台遺跡	同　上	〃
野木Ⅲ遺跡	同　上	〃
武蔵国分寺跡西方地区府中病院道路拡張に伴う試掘調査報告書Ⅰ	府中病院内遺跡調査会	〃
道後一万遺跡	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	10. 2. 12

書　　名	寄　　贈　　者	受入日
御田台遺跡（並岡1010-1地点）	㈶山武郡市文化財センター	10. 2. 12
根本遺跡	同　上	〃
山田・宝馬古墳群（1020地点）	同　上	〃
松尾城跡Ⅰ	同　上	〃
大網山田台遺跡群Ⅲ（第1分冊・第2分冊）	同　上	〃
長岡京跡右京六条二坊二町・三町の調査	㈶長岡京市埋蔵文化財センター	〃
早川城跡発掘調査報告書	綾瀬市教育委員会	〃
高鍋城跡（嶋田地区）	宮崎県埋蔵文化財センター	〃
天神河内第2遺跡	同　上	〃
霧島遺跡	同　上	〃
企画展そして土器は運ばれた	斎宮歴史博物館	〃
山武考古学研究所年報No.15	山武考古学研究所	〃
志木市遺跡群Ⅷ	志木市教育委員会	〃
千駄ヶ谷五丁目遺跡 本文編(第Ⅰ分冊)・遺構編(第Ⅱ分冊)・文献編(第Ⅳ分冊)・付図	千駄ヶ谷五丁目遺跡調査会	〃
柿泊遺跡	長崎市教育委員会	〃
奈良市埋蔵文化財調査センター紀要1996	奈良市教育委員会	〃
奈良市埋蔵文化財調査概要報告書平成8年度	同　上	〃
平城京・藤原京出土軒瓦型式一覧	同　上	〃
平城京東市跡推定地の調査ＸＶ	同　上	〃
明治大学博物館年報1996年度	明治大学博物館	〃
落川・一の宮遺跡調査略報Ⅵ1997年の調査	落川・一の宮遺跡(日野3.2.7号線)調査会	〃
長岡京左京出土木簡一（本文・付図）	㈶京都市埋蔵文化財研究所	10. 2. 24
庄遺跡Ⅰ	㈶徳島県埋蔵文化財センター	〃
若葉台遺跡	坂戸市遺跡発掘調査団	〃
堺市博物館報第16号	堺市博物館	〃
堺市博物館報第17号	同　上	〃
愛鷹山麓の縄文時代遺跡と縄文土器	沼津市歴史民俗資料館	〃
下ノ内浦・山口遺跡	仙台市教育委員会	〃
高屋敷遺跡ほか発掘調査報告書	同　上	〃
富沢・泉崎浦・山口遺跡（10）	同　上	〃
平成9年度千葉県遺跡調査研究発表会発表要旨	千葉県文化財法人連絡協議会	〃
茨城県土浦市入ノ上遺跡	土浦市教育委員会	10. 2. 24
長峯遺跡	同　上	〃
下大槻峯遺跡（No.30）Ⅰ	㈶かながわ考古学財団	10. 2. 25
宮畑(No.34)遺跡　矢頭(No.35)遺跡　大久保(No.36)遺跡	同　上	〃
中里遺跡（No.31）　西大竹上原遺跡（No.32）	同　上	〃
カクシクレ遺跡	㈶岐阜県文化財保護センター	〃
与島古墳群	同　上	〃
角江遺跡Ⅱ 遺物編1(土器・土製品) 本文編、別冊図版・遺物編2(木製品)・遺物編3(石器・金属製品他)・遺構編	㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所	〃
曲金北遺跡（遺物・考察編）	同　上	〃
焼場遺跡Ａ地点	同　上	〃
静岡の原像をさぐる　発掘調査報告会	同　上	〃
大見城跡	同　上	〃
中峯遺跡	同　上	〃
高岡市埋蔵文化財分布調査概報Ⅷ	高岡市教育委員会	〃
高岡城遺跡調査概報	同　上	〃
市内遺跡調査概報Ⅴ	同　上	〃

書　　名	寄　　贈　　者	受入日
市内遺跡調査概報Ⅵ	高岡市教育委員会	10. 2. 25
麻生谷遺跡・麻生谷新生園遺跡調査報告	同　上	〃
K36遺跡	札幌市教育委員会	〃
K39遺跡大木地点	同　上	〃
K39遺跡長谷工地点	同　上	〃
秋田市強清水遺跡	秋田市教育委員会	〃
秋田市地ノ内遺跡	同　上	〃
イヨマイ6遺跡における考古学的調査3	千歳市教育委員会	〃
キウス4遺跡における考古学的調査	同　上	〃
上総市原第十号	市原市文化財研究会	10. 2. 26
多摩ニュータウン遺跡	㈶東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター	〃
郡家大林上遺跡（本文・付図）	㈶香川県埋蔵文化財調査センター	10. 3. 10
日本のやきもの	㈲メディアミューズ	10. 3. 13
ひたちなか市の考古学vol. 1	㈶ひたちなか市文化・スポーツ振興公社	10. 3. 18

付編1．瀬又小滝遺跡調査報告

担当　　田中清美

市原市文化財センター年報（平成9年度）掲載の瀬又小滝遺跡概要を受けて、当章では本報告として掲載する。なお当遺跡のセンター調査コードは「セ251」である。下総台地南西端部に位置し（図1）、標高は約65m，南側開析谷との比高差は約20mである。調査地点は年報概要にある遺跡地形図の網点部分に当たる。旧石器はトレンチを一カ所設定したが、遺物等は検出されなかった。発掘調査の記録類は、実測図が1／20の縮尺を基本とした。方位は国家座標第Ⅸ系北であり、そのままX•Y•Zとしている。写真撮影は、35ミリと6×7判のモノクロとカラーリバーサルフィルムを使用した。記載した遺構番号・遺構名は調査時と同一である。

調査の結果、縄文時代早期後半の竪穴状遺構（竪穴式住居跡）1軒と土坑11基（陥穴6）を検出した。竪穴状遺構（7号）は平面形態が不整長方形であり、規模は上端長軸3,42m・短軸2,36m、深さ0,23mを測り、主軸方向はN-30°-Eである。床面は平坦で踏み固めは不明瞭である。中央やや北側にピットが存在する。浅く3カ所の下場がみられ、炉は認められない（図3）。土坑は8号が丸みをもった楕円形を呈し、規模は上端長軸2,08m、短軸1,90m、深さ0,51mを測る。また北側にはピットが1カ所存在する。9号は長円形の陥穴であり、底に2本のピットが認められる。7号と8号及び9号には切り合い関係があり、7・8・9と順に新しくなる。1、2号（図3～4）と4～6号（図5）も陥穴と考えられ、小型の不整形を呈している。底は平坦であり、ピットは認められない。その他の土坑の機能は不明である（図5・6）。第7図には旧石器確認トレンチの標準土層を掲載した。土坑の規模等は別表を参照されたい。

出土遺物は、遺構から7号（図9－1～4）、8号（図9－5）、9号（図9－6）、10号（図9－7）、標準土層Ⅱ層下部から（図9－8・9、図8－1）である。遺構出土の土器片は、沈線や刺突文を組み合わせた文様を施し、焼成は良好であり、田戸上層（古段階）の範疇と考えている（蜂屋孝之氏御教示）。以上のように小範囲の調査ではあるが、主に縄文早期沈線文系の遺物を出土する竪穴状遺構と、土坑を検出した。検出配置から更に西側に同時期の遺構が展開すると推定される。周辺の沈線文土器を出土する遺跡は、千葉市南河原坂第5遺跡、北河原坂第2遺跡、南河原坂第1遺跡などがみられる。陥穴については時期が不明確ながら形態的に類似する例が付近に多く存在する。村田川上流域についてはこれからの事例集成と分析が今後の課題である。また当遺跡周辺での表面採集では、縄文時代中期の土器片や古墳時代前期の土器片が採集されており、広い範囲にわたって多様な時期の遺構が存在すると想定される。

※　写真図版は後部図版編の図版1から図版9までが瀬又小滝遺跡である。

別　表　　瀬又小滝遺跡遺構土坑等一覧　　（単位m）

NO.	遺構番号	規模 上場	規模 下場	深さ	平面形態	主軸方位	備考
1	1	1,19×1,17	0,82×0,68	0,95	不整円形	N-68°-E	陥穴
2	2	1,34×1,07	0,98×0,61	0,62	不整長円形	N-51°-E	陥穴
3	4	1,20×1,11	0,98×0,78	0,57	不整円形	N-12°-W	陥穴
4	5	1,42×0,93	0,87×0,48	0,50	不整長円形	N-90°-W	陥穴
5	6	1,10×0,99	0,81×0,55	0,89	不整長円形	N-23°-E	陥穴
6	7	3,43×2,36	3,03×2,01	0,23	不整長方形	N-30°-E	竪穴状遺構（住居跡）
7	8	2,08×1,90	0,85×0,58	0,51	不整円形	N-19°-E	
8	9	1,92×0,94	1,24×0,42	1,06	不整長円形	N-52°-E	陥穴
9	10	1,01×0,81	0,80×0,49	0,21	不整円形	N-29°-W	
10	11	1,52×0,79	1,37×0,69	0,20	不整瓢単形	N-41°-W	
11	12	1,58×0,87		0,38	不整長円形	N-12°-W	
12	13	0,85×0,37		0,30	不整長円形	N-19°-E	

引用参考文献

(1)土気南遺跡群Ⅰ［南河原坂第1遺跡・南河原坂第2遺跡・文六第4遺跡・文六第5遺跡・大椎第2遺跡・御堂崎城跡・後沢第1遺跡・後沢第2遺跡］寺門義範・小川和博・石井純一　1992年3月　千葉市土気南土地区画整理組合・財団法人千葉市文化財調査協会

(2)土気南遺跡群Ⅱ［弥三郎第2遺跡］織笠　昭・寺門義範　1992年3月　千葉市土気南土地区画整理組合・財団法人千葉市文化財調査協会

(3)土気南遺跡群Ⅲ［大谷城跡 坂ノ越遺跡］小高春雄・氏家敏之・広岡公夫・酒井英男・倉田　義広・横田正美　1993年3月千葉市土気南土地区画整理組合・財団法人千葉市文化財調査協会

(4)土気南遺跡群Ⅳ［弥三郎第1遺跡・文六第1遺跡・文六第2遺跡・文六第3遺跡］寺門義範　小川和博・横田正美　1993年3月千葉市土気南土地区画整理組合・財団法人千葉市文化財調査　協会

(5)土気南遺跡群Ⅴ［南河原坂第3遺跡］追川吉生・島田和高・野口淳・吉川耕太郎　1996年3月千葉市土気南土地区画整理組合・財団法人千葉市文化財調査協会

(6)土気南遺跡群Ⅶ［南河原坂窯跡群・鐘つき堂遺跡］倉田義広・山下亮介・飛田正美。松原典明・村田六郎太　1996年3月千葉市土気南土地区画整理組合・財団法人千葉市文化財調査協会

瀬又小滝遺跡調査地点
円印

0　　1,000m

図1　位置図

図2　調査全体図

X＝－51.310

風倒木痕

旧石器
トレンチ

風倒木痕

Y＝36.340

※丸番号は遺構番号

0　　10m

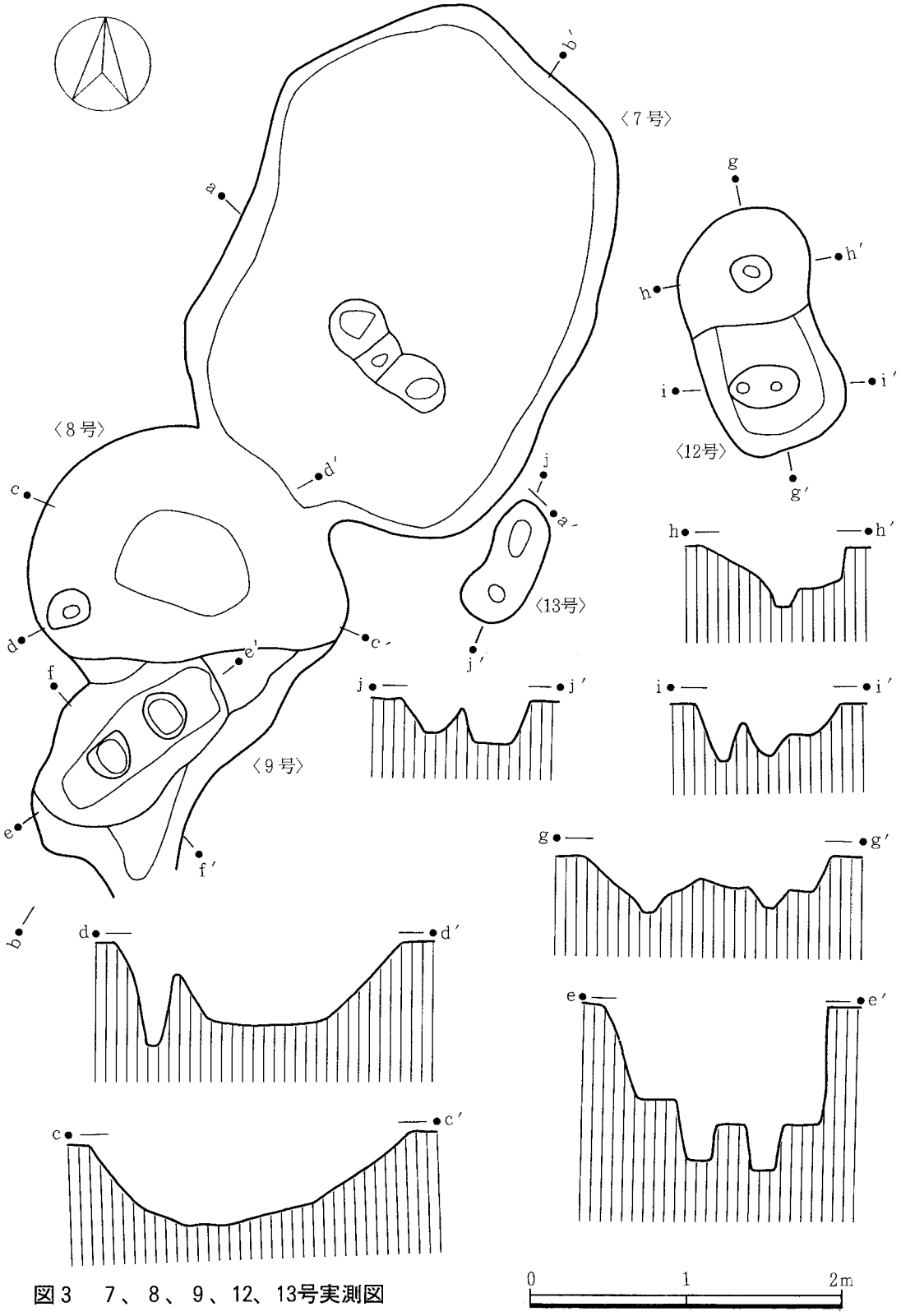
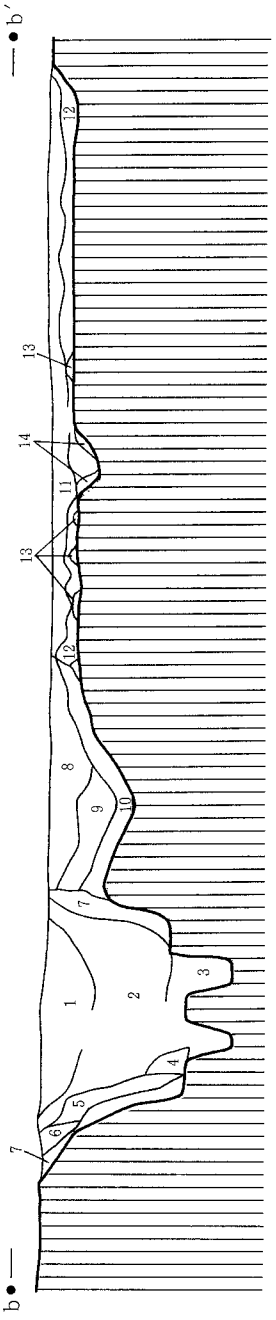
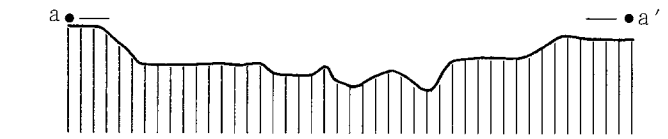
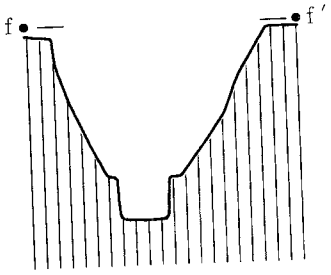


図3　7、8、9、12、13号実測図

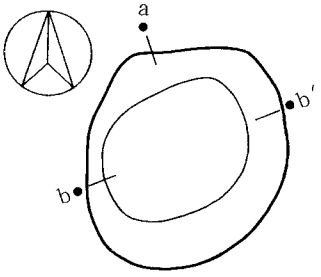




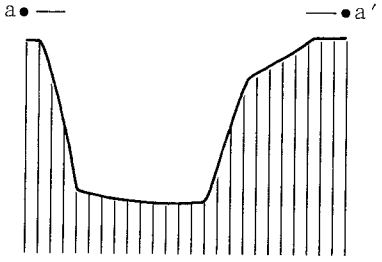


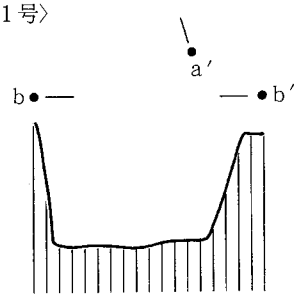
2号土層説明

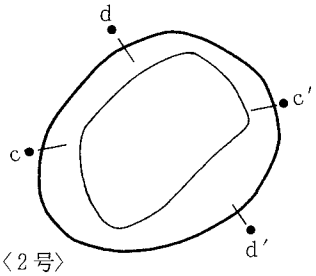
1．黒褐色。ローム粒を多く含む。
2．　〃　。ローム粒を含む。
3．　〃　(少し硬質)。ローム粒を含む。
4．暗褐色(少し硬質)。　〃　。
5．　〃　(少し軟質)。軟質のローム土塊を含む。
6．　〃　(　〃　)。ローム粒を多く含む。
7．褐色(少し硬質)。ローム土塊を含む。



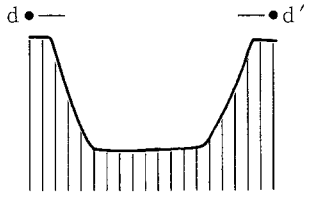
〈1号〉

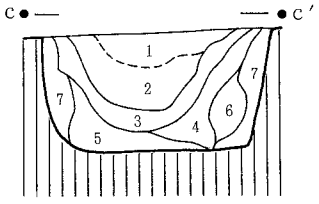






〈2号〉



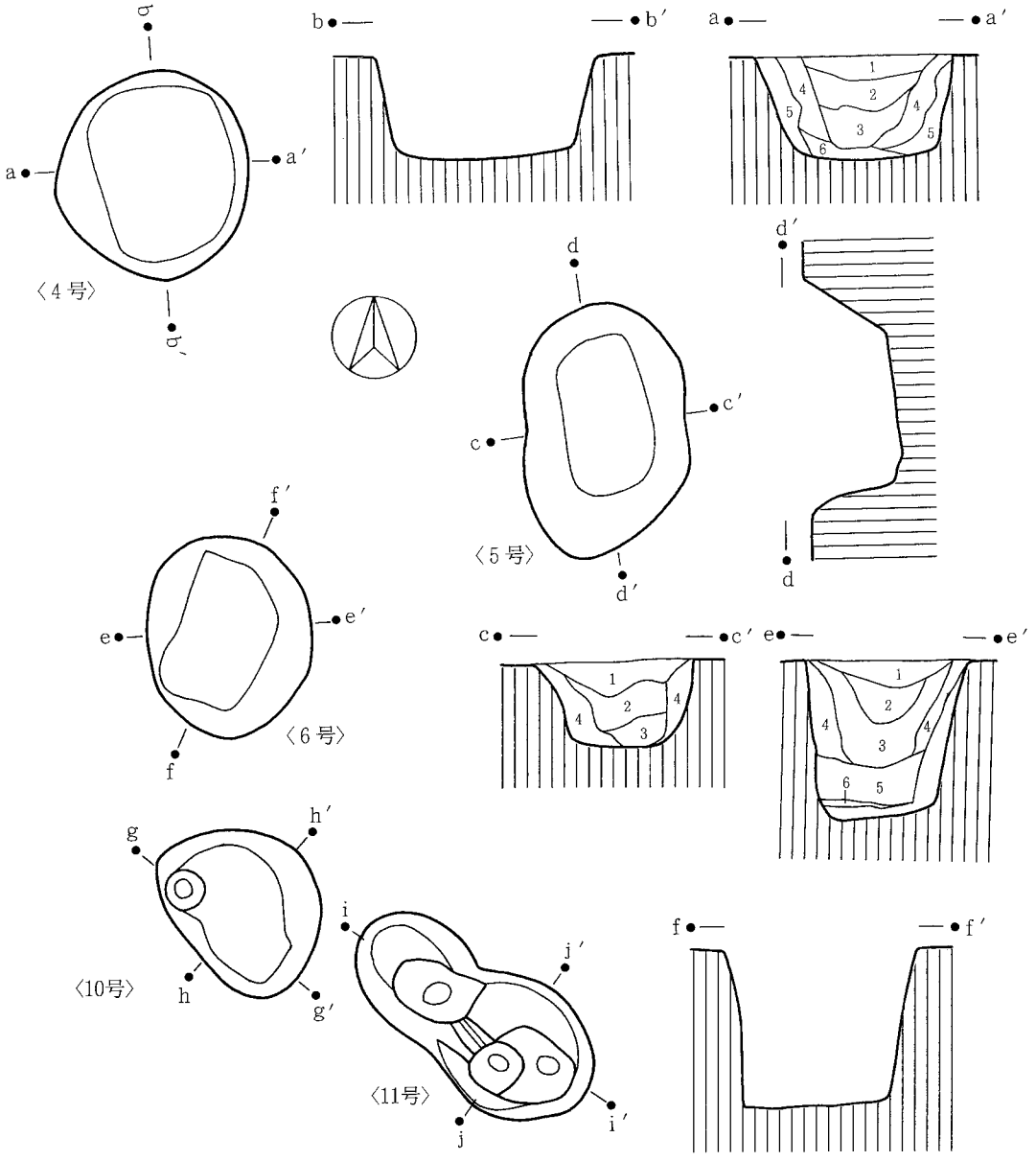


7～9号土層説明

1．黒色。ローム粒少量含む。
2．　〃。ローム粒(軟)を含む。
3．暗褐色(軟質)。ローム土塊を多く含む。
4．3に似る。3よりローム土塊が多い。
5．黒褐色。ローム粒を多く含む。
6．暗褐色(少し硬質)。ローム土塊を多く含む。
7．黒褐色。ローム土塊(軟質)を含む。
8．黒褐色。ローム粒を少量含む。
9．　〃　(少し硬質)。ローム粒を含む。
10．暗褐色(少し硬質)。ローム土塊を多く含む。
11．黒褐色。ローム粒を多く含む。
12．褐色(少し硬質)。ローム粒を含む。
13．ローム土塊
14．褐色。軟質ローム土塊を含む。

0　1　2m

図4　7、1、2号実測図



土層説明

〈4号〉
1．黒　色（少し軟質）。ローム粒を含む。
2．　〃　（少し硬質）。　〃　。
3．　〃　（　〃　）。ローム粒を少量含む。
4．暗褐色（　〃　）。軟質のローム土塊を含む。
5．褐色。軟質のローム土塊。
6．暗褐色（少し軟質）。ローム粒を多く含む。

〈5号〉
1．黒　色（少し軟質）。ローム粒を極少量含む。
2．黒褐色（少し硬質）。ローム粒を含む。
3．暗褐色（　〃　）。ローム粒を少量含む。
4．褐　色（　〃　）。ローム土塊を含む。

〈6号〉
1．黒　色（少し硬質）。ローム粒を多く含む。
2．　〃　。ローム粒を含む。
3．黒褐色（少し硬質）。軟質のローム粒を含む。
4．褐　色（　〃　）。ローム土塊を含む。
5．褐　色（少し軟質）。ローム土塊群。
6．黒　色（軟質）。ローム粒を多く含む。

0　1　2 m

図5　4、5、6、10、11号土坑実測図

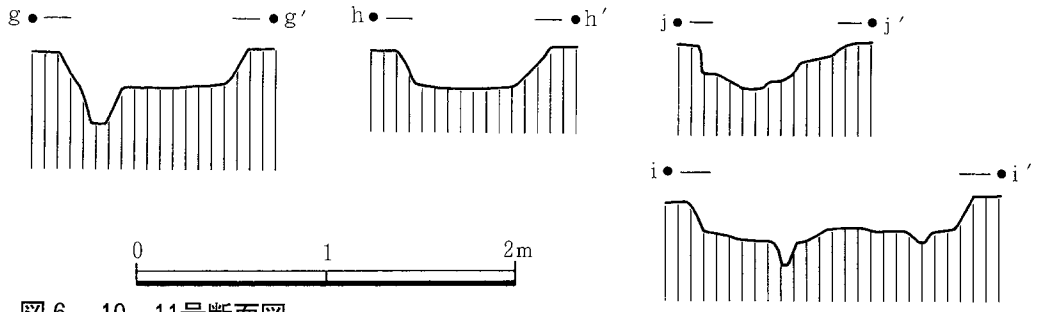


図6　10、11号断面図

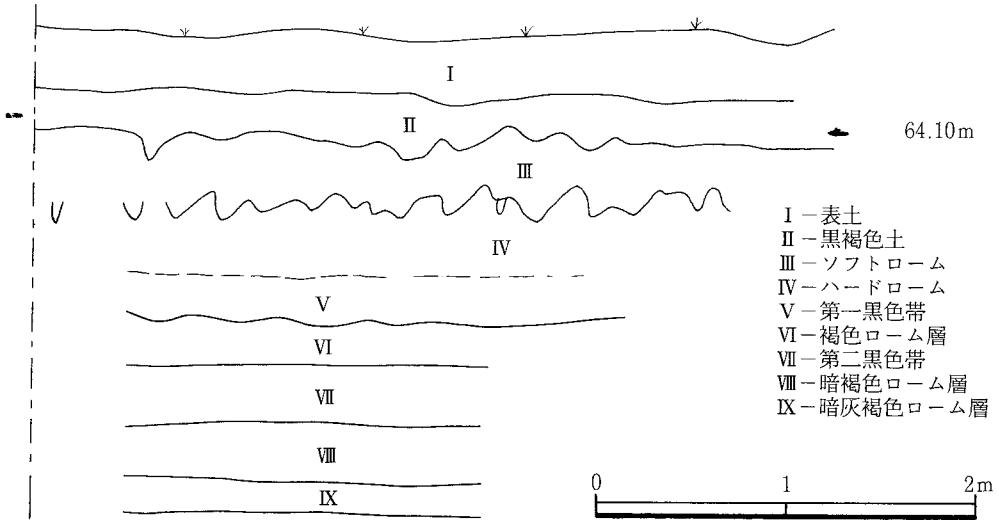


図7　標準土層図（旧石器確認トレンチ東側壁）

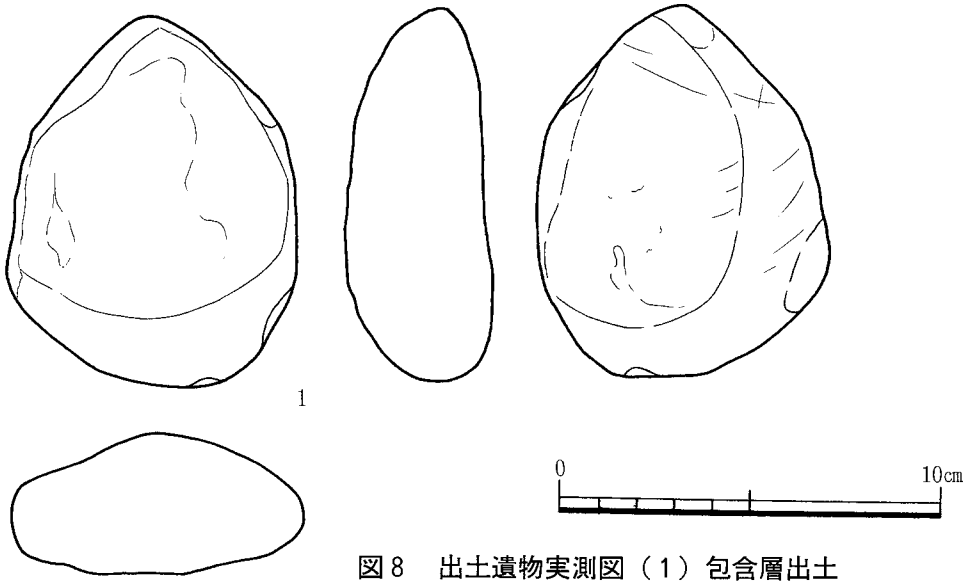


図8　出土遺物実測図（1）包含層出土

図９　出土遺物実測図
１～４＝７号、５＝８号、６＝９号、７＝10号、８，９＝包含層　10～19表採

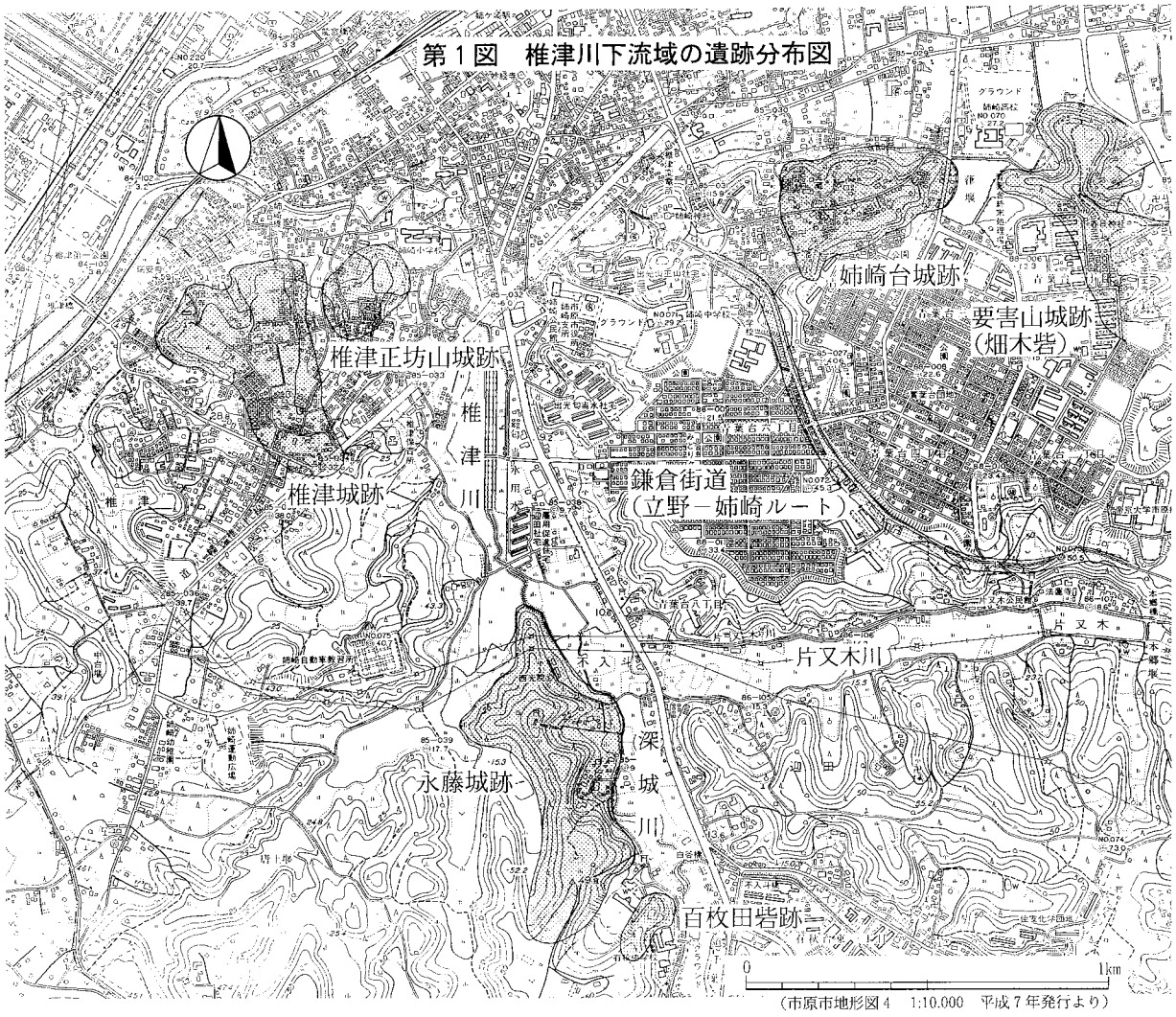
付編2．百枚田砦跡調査報告

担当　北見一弘

調査に至る経緯　今回の調査は中学校用地内の駐輪場の建設に先立つものである。遺跡は椎津川（境川）上流、深城川と片又木川の合流する地点の、これら小河川に樹枝状に開析された標高24m～38m、南西方向から北東方向に延びる痩せ尾根状をなす台地上、北緯35°27′09″、東経140°03′04″に位置する。調査は、台地の東斜面の標高22mの平場を中心に行われた（第3図）。なお、現在までに、百枚田砦跡についての文献史料、伝承は確認できない。

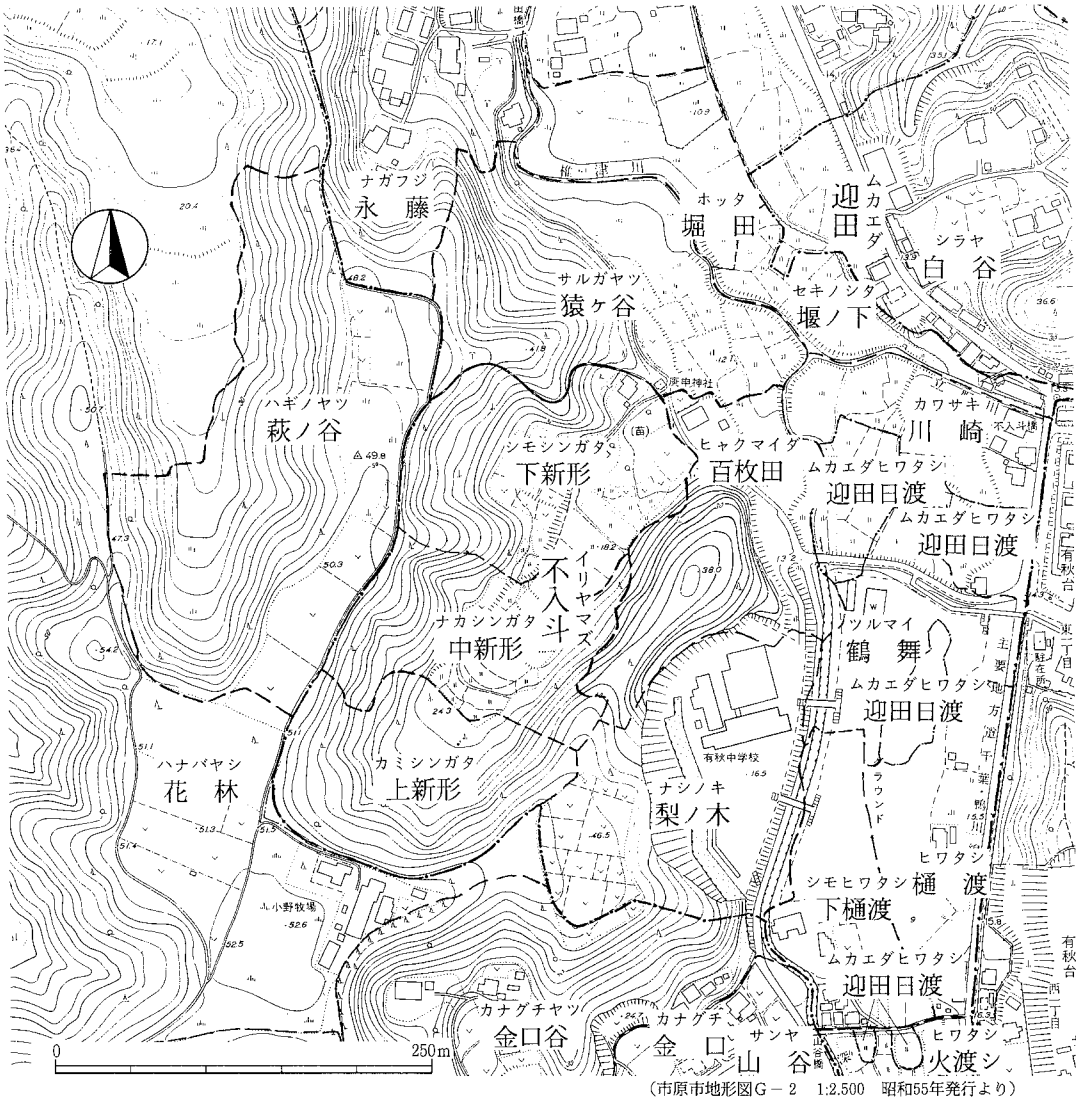
遺跡名は調査時に於いては「不入斗百枚田遺跡」と呼称したが、報告では、登録名に従い「百枚田砦跡」とする(1)。

周辺の遺跡　当遺跡と谷を1つ挟んで中世・戦国期とされる永藤城跡が隣接し（延長2年建立とされる西光院が所在する）、更に椎津川河口域左岸には、椎津正坊山城跡、椎津城跡が、右



第1図　椎津川下流域の遺跡分布図

（市原市地形図4　1:10.000　平成7年発行より）

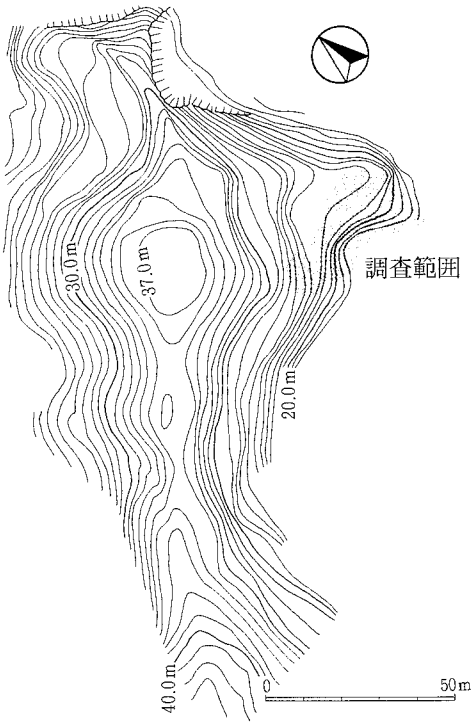


（市原市地形図G－2　1:2.500　昭和55年発行より）

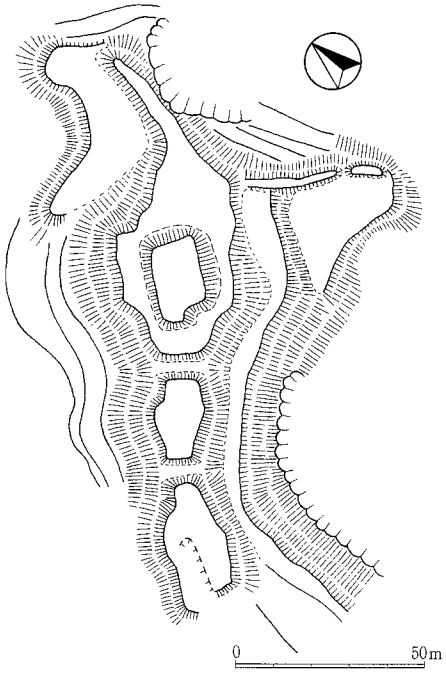
第２図　百枚田砦跡周辺地形図

岸には推定鎌倉街道、立野－姉崎ルートの東側に姉崎台城跡、要害山城跡（畑木砦）が存在する（第１図）。この内、関連する発掘調査が行われているのは、椎津城跡及び姉崎台城跡のみである。椎津城では、昭和46年と平成元年に測量及び確認調査が実施されているほかに、五霊台遺跡で、椎津城に関連する堀跡2条が検出され(2)、また椎津尾崎遺跡では検出されたピット群を椎津城に付随する集落遺構とする見解がある(3)。姉崎台城に関連する調査では、姉崎東原遺跡Ｃ地点で、生産が16世紀前半頃の陶器片が出土しているが、城郭関連の遺構は検出されていない為、その内容は不明である(4)。又、姉崎台城に近接する台地には、要害山城跡とされており、地形から見た城の構造から戦国時代前半期の可能性があるが(5)、発掘調査は行われていない為、やはり詳細は不明である。

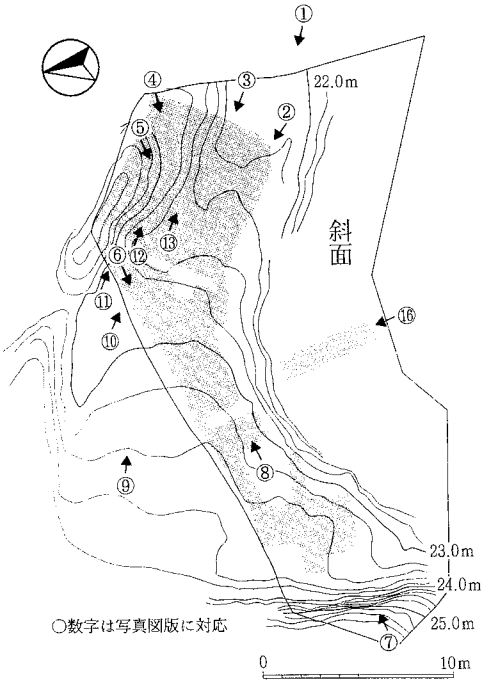
調査概要　調査対象地となる平場は、三方を急斜面に囲まれ、重機のによる掘削が不可能であるため、掘削は、斜面部のトレンチ以外は全て人力により行われた。以上の理由から、調査は



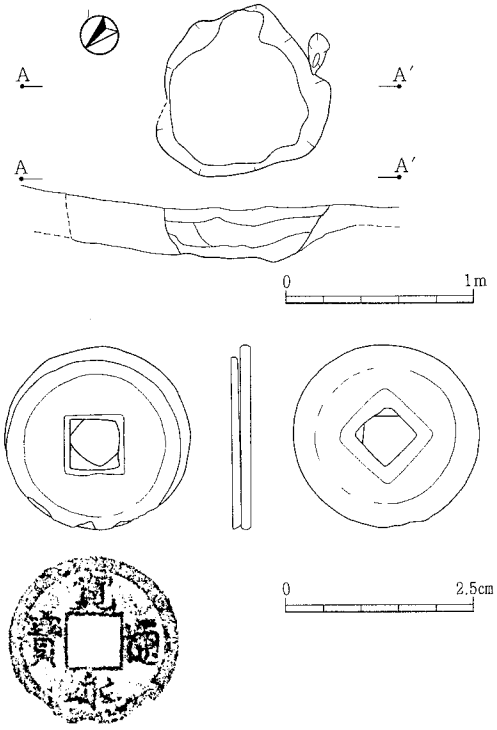
第３図　地形図



第４図　百枚田砦跡概念図



第５図　調査範囲図



第６図　002遺構及び遺物実測図

地形的に曲輪と見られる平場を中心として行い、遺構の把握につとめた。

遺　　構　検出されたのは土塁１基と、この土塁と並行して延びる溝状遺構２条、台地整形痕、近世土坑１基である。

土塁　土塁は、全長が、台地突端部から北西方向へ調査区外に延びる約35ｍで、中央程で1カ所断絶する（第４・５図)。この内の突端部側、約８ｍが調査対象である。高さが最頂部から整地平坦面まで1.3ｍを測り、基部幅は2.4ｍ～３ｍ、上面幅は約１ｍ、断面形状は台形で（第８図E-E′)、その中位において北西から南東に上るスロープ状の平坦部をもつ。土層断面の観察からは、地山となる黄橙色粘質土が、表土下に見られ、土塁は盛り土によるものではなく、平坦部を造り出す際に、帯状に削り残された部分であると想定できる。スロープ状の平坦部については、著しい硬化は見られない。

溝状遺構　(003・004）は土塁に対して並行に２条検出された(第７図)。

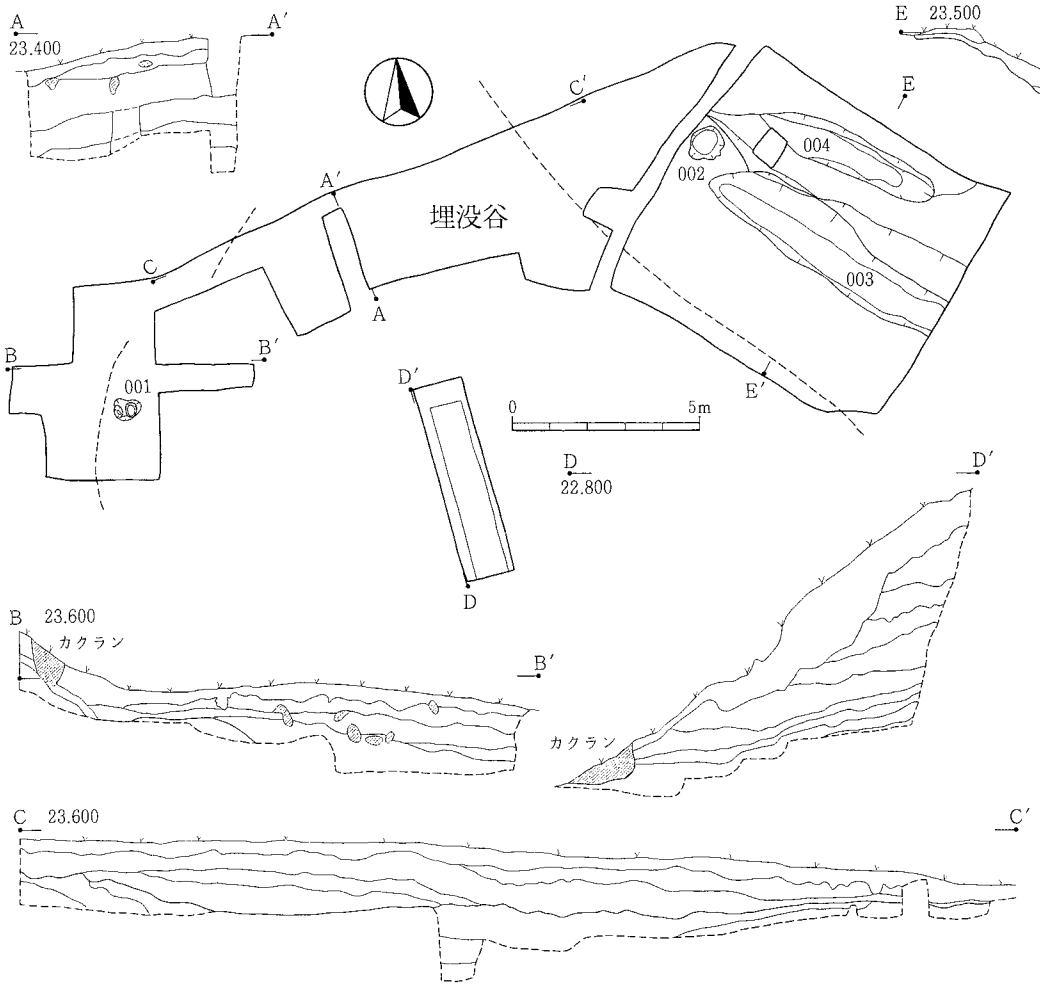
003は平坦面と土塁の境界を成し、調査区外南東方向に延びる。調査区内で、全長7.10ｍ、上部幅1.1ｍ～1.7ｍ、深さ20㎝程を測る。土層断面の観察では、覆土下層において、暗褐色土中に黄橙色粘質土をしみ状に含む層が存在し、上層には整地平坦面の覆土と同じ暗褐色土層が認めたれるため、平坦面が埋没する以前に溝の中位ほどまで土が堆積していた事が伺える。このことから掘削時期は、整地平坦面の造成時と、大きな時間差がないと考えられる。

004は土塁の中位にあるスロープ状の平坦部と土塁上部との境界に位置する。 全長5.10 ｍ、上部幅0.7ｍ～1.1ｍ、最深部で10㎝の深さを測る。南東から北西方向に5ｍの距離を10㎝～16㎝程下がる傾斜角度は、スロープ状の平坦面のそれと近似するため。平坦面を意識したものであると考える。埋没状況、掘削時期共に、003と同様と考えられる。

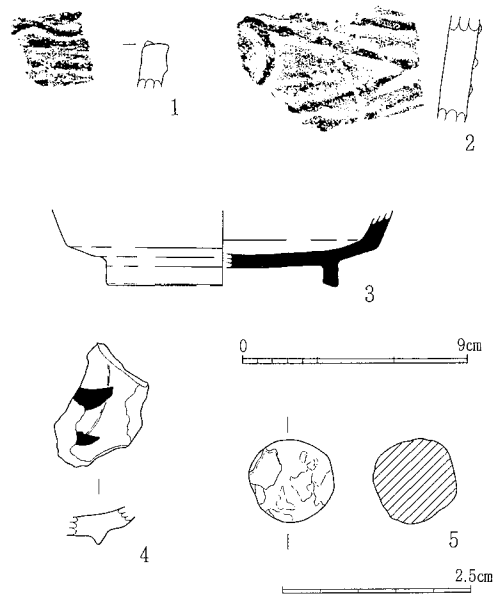
台地整形痕　台地整形痕とした、土塁を含む平坦面の削り出しは調査区東側で検出された。南北に2.5ｍ～2.6ｍ、東西に12.5ｍを測り、東西方向については、調査区外に広がる事が予想される。調査区中央に入り込む埋没谷の範囲については、現地表面から1.8ｍ以上の暗褐色土の堆積が見られ、表土を含めて８層に分けられるが、土層断面の観察からは整地面を明確には捉えられなかった。そこで、土層の堆積状況から、、他層に比べて、上面において比較的フラットであり、調査区東側の整地平坦面に近いレベルにある層の上面を整地面と想定し、上層を除去したが、この面の調査では遺構の検出には至らなかった（第８図　断面図C-C′ 太線)。

土坑　002遺構は平坦面の土塁際、003遺構の延長線上に位置する。平面形態は不整楕円形で、95㎝×90㎝ を測る。遺構確認面からの深さは31㎝である。覆土は黒褐色土が主体で、黄橙色粘質土の混入する。遺物は寛永通宝２点が覆土最上部位から出土している。２枚が付着しており、確認できる１枚は新寛永である。(第６図参照)

斜面部トレンチ　斜面部については、重機により、トテンチを1本設定したが（第７図全体図・



第７図　全体図（1:200）及び断面図（1:100）



第８図　遺構外遺物実測図

断面図D-D′)、遺構は検出されず、土層の状況からは平坦部造成による土の移動は看取できない。平場に見られた地山である黄橙色粘質土は土層の下位に認められ、これより上層は黒褐色の有機質土であり、旧地形として、浅い谷を形成していたことが伺える。

遺構外遺物　今回の調査では、遺物は、縄文土器、ロクロ土師器の小片を中心として、整理箱１箱ほど出土したが、そのほとんどが小片である。1・2は諸磯ｂ式と思われる。共に焼成は良好、明橙色を呈する。1は口唇部に粘土紐を蛇行させて貼り付けた微隆起が巡る。3は須恵器高台付杯で体部下端に回転ヘラケズリ、付け高台の接着部位に、へら状工具によるヨコナデが巡る。4は瀬戸・美濃産施釉陶器で見込に高台痕が残る。登り窯第Ⅲ期（17世紀後葉～18世紀前葉）に比定できる。5は銃弾と思われる。直径11mm、重さ5.7ｇ。断面構造は不明だが、表面は緑青が見られ淡い緑色、その剥離部位は灰色を成す。（第８図参照）

小　　結　今回の調査では、本遺跡が城郭に直接結びつく根拠は認められない。中世遺物の出土も認められないが、台地上には郭、堀切、曲輪、帯曲輪状の地形が認められ、本調査の結果を持って中世城郭の可能性を否定するものではない。今後の調査成果に期待する。

※写真図版は後部図版編の図版10・11までが、百枚田砦跡である。

引用参考文献

(1) 『千葉所在中近世城館跡詳細分布調査報告書Ⅱ－旧上総・安房国地域－』
千葉県教育委員会　1996
『千葉県埋蔵文化財分布地図（3）－千葉市・市原市・長生地区（改訂版）－』
財団法人　千葉県文化財センター　1999

(2) 高橋　康男　『財団法人　市原市文化財センター調査報告書第64集　市原市五霊台遺跡』1998

(3) 櫻井　敦史　「椎津尾崎遺跡」『市原市文化センター年報　平成6年度』　1997

(4) 櫻井　敦史　『財団法人　市原市文化財センター調査報告書第54集　市原市姉崎東原Ｃ地点』1994

(5) 　同　上

付編３．西野下田遺跡調査報告

担当　田所　真

Ⅰ　調査の概要

店舗建設に伴う西野下田遺跡の本調査である。調査区の行政地番は市原市西野下田299-1ほかであり、建物部分355㎡を対象とした。調査期間は、平成7年12月1日～12月27日であった。現地の調査は、原因者の費用負担にて実施している。調査コードは、215である。なおこれに先行して、確認調査（センター調査コード211・128㎡／1,280㎡・平成７年9月11日～22日）が行われている。本編に使用した地形図は、国土地理院発行の1：25，000地形図（姉崎　N1－54－19－16－3）ならびに1：25，000土地条件図「姉崎」（昭和45年編集）である。現地調査には座標北を使用した。調査時の遺構番号や遺物番号は、本文中に（　）書きで示した。記録類ならびに出土資料は、市原市埋蔵文化財調査センターに保管されている。

Ⅱ　遺跡の位置と環境（挿図１・２）

市原市は房総半島の西北部に位置し、東京湾岸の八幡宿から姉崎に至る海岸線より、内陸部に延びて養老渓谷に至っている。近代の行政区分では、旧市原郡全域を包括する地域である。地形的には、南部に北～北北西の単斜構造をもつ上総丘陵が聳え、北部に浅い谷を樹脂状に発達させた下総台地が続く(1)。市域のほぼ中央には養老川が流れ、房総丘陵を侵食・蛇行しながら、段丘面を形成しつつ下流域へ至っている。以後は広い沖積地を北に向い、大坪・海士有木あたりで西に大きく進路を変える。海浜部の三角州性低地に向けて、緩やかな流れを北北西に取る。流路が安定したのは近年のことであって、流域には幾条にもおよぶメアンダー地形が観察されている(2)。下流域における現存村落の配置や遺跡の分布は、こういった地形によって取り囲まれた、自然堤防上に展開する傾向が強い。自然堤防基盤層の形成と発達は、縄文海進のピーク時（縄文時代前期黒浜式期）以降であり(3)、西野一帯の自然堤防は、縄文時代後期の海退開始時期には、形成過程にあった。古墳時代中期の二子塚古墳が砂帯上に現存することなどから推察すると、この間に陸地化が促され、地形的安定が確保されていったものと考えられる。西野下田遺跡の場合も、養老川下流域南岸の自然堤防上に立地している。調査区は微高地形の縁辺部に位置する。西野の西隣には「小折」の字が見られ、古代海上郡の郡家所在地に比定地されている(4)。このことから、西野・小折地区では、これまでに４回にわたる発掘調査が行われてきた(5)。小折の西側には、重圏紋や均整唐草紋の軒瓦を葺く今富廃寺跡が知られている(6)。上総国分尼寺の造寺機関である坊作遺跡からは、「海上厨」の墨書土器も出土しており、国分寺造営期の海上郡家の活動が伺われる。西野下田遺跡は、低地や旧河道に分断されながらも自然堤防上に展開する海上郡家(7)を中心とした歴史的景観の一角に位置している。

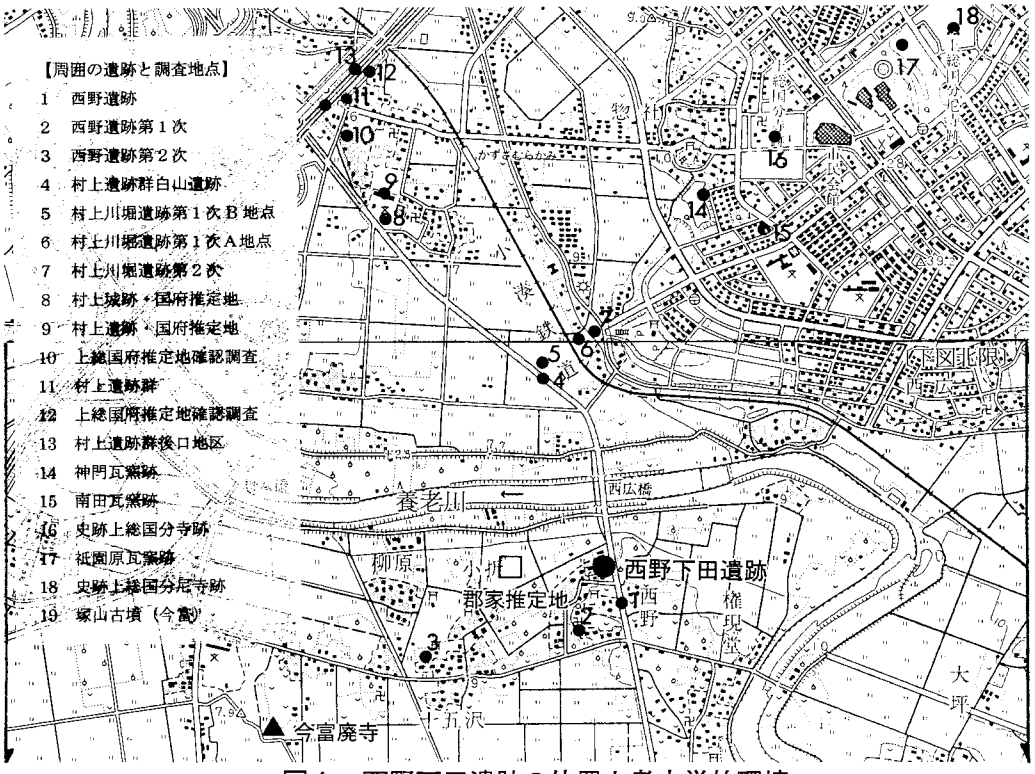


図１　西野下田遺跡の位置と考古学的環境

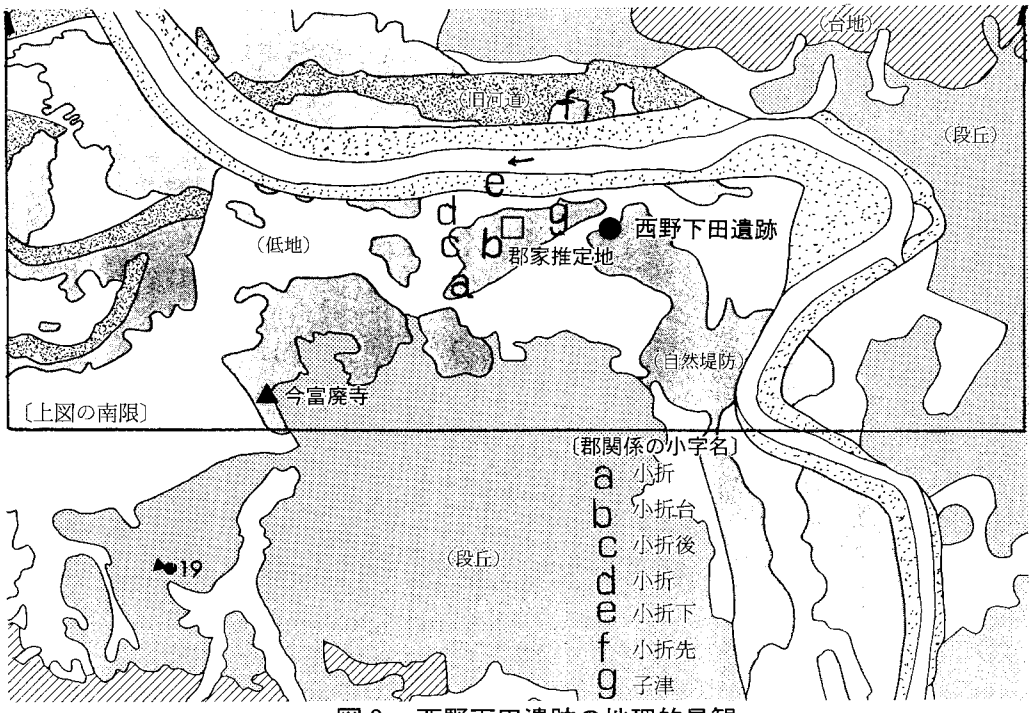


図２　西野下田遺跡の地理的景観

Ⅲ　遺構の概要（挿図３・４）

西野下田遺跡からは、道路遺構１条・溝３条・土抗４基・ピット群1ヶ所が検出されている。

１号遺構（SX１-a・土抗）：南北に重複する土抗３基の、中央に位置する。切り合い関係は、１号→４号→３号である。略方形を呈している。一辺1.5m前後。掘り込みは40cm程であった。平底である。中央東半寄りに、遺物の集中が認められた。埋土は自然堆積である。

２号遺構（道路状遺構）：調査区東半に確認された浅い溝状の地形（SD４）を横断するために利用された小径である。普請の跡は見ない。遺構底面に路面（土間状の硬化面）が観察されている。溝状地形の底に走っている。土層観察では、埋土に切り合いは認められなかった。遺構の向きは、東に対して６度北に振れる。幅員は不明瞭であるが、60cm～100m程度であろう。

3号遺構（SX１-c・土抗）：土抗3基の南端に位置する。３基の中で最も新しいものである。不正形の円形を呈している。直径2.4m前後、掘り込みは15cm～20cmであった。平底であるが壁面は緩やかに立ち上がる。遺物は南東隅より２点出土している。埋土は自然堆積である。

4号遺構（SX１-b・土抗）：土抗3基の北端に位置する。２番目に古い。方形を呈している。一辺1.9m前後。掘り込みは30cm程であった。平底である。中央西側に遺物が出土している。

5号遺構（SD５・溝）：幅員１m弱の平底の溝である。ａとｂの２ヶ所で検出されている。掘り込みは、10cm前後と浅い。溝の向きは、東に対して40度北に振れる。溝状地形（SD４）の中層に造られている。なお、北側６mの地点に類似した振れの溝が存在した可能性がある。

６号遺構（土抗）：円形を呈し、直径60cmを測る。確認面からの深さは１mと深く、垂直に掘り込んでいる。

７号遺構（SD２・溝）：ａ．ｂ．ｃ３条の溝からなっている。新旧関係は不明である。ａの幅員は70cm、掘り込みは15cm前後。平底である。ｂ．ｃは対であろうか。ｂに見る復員は140cmである。ａに比べて掘り込みも深く、60cmを測る。ｂとｃの間には、60cm程度の隔たりが認められる。施設などの区画溝であるならば、出入り口にあたるのであろうか。各溝の振れは、ａがほぼ東西方向、ｂが東に対して5度北、ｃは東に対して５度南であった。

８号遺構（SD-１・溝）：遺構確認面では幅員110cmの丸底の溝であるが、調査区北端部の断面観察によると上部は撥型に開き、現地表面から掘り込んでいる。確認調査開始時点の現況が果樹園であったことを考慮すると、これに伴う地割溝の可能性が高い。

９号遺構（SX-２・土抗）：調査区北端部に一部が検出されている。確認面での遺構規模は100cm程度であるが、上部は８号遺構同様撥型に開き、現地表面から掘り込んでいる。

ピット群：規模も小さく、果樹園に関する木杭跡から古代に遡るものまでが含まれている。掘り込みのしっかりしたものは少ない。また、掘立柱建物跡になると考えられるピットも確認できなかった。十尺等間で一列に並ぶピットが一ヶ所、古代のものとして確認できる。

Ⅳ　遺物の概要（挿図５・６）

西野下田遺跡の本調査で出土した遺物は、整理箱に２箱程度と少ない。供伴関係の明らかなものは、須恵器25点、土師器41点、鉄鏃１点、礫５点である。他は一括資料である。

１号遺構（SX1-a・土抗）：須恵器２点、土師器30点、鉄鏃１点、礫４点。土師器30点のうち28点（25～39と40～52）は、遺構の南東部分２ヶ所に集中して出土している。

３号遺構（SX１-c・土抗）：須恵器２点。９世紀代の無台杯が出土している。低部の切り離し技法はヘラ切りであり、体部が撥型に開く箱型の器形である。

４号遺構（SX１-ｂ・土抗）：須恵器２点、土師器７点、礫１点。

５号遺構（SD５・溝）：須恵器５点。永田・不入窯跡産の、杯２点と甕胴部３点であった。

浅い溝状の地形（SD４）：須恵器14点、土師器４点。

以上が供伴資料の概要であるが、大半が細片であることと、埋土上層内などから出土している一括資料の中に数量的な纏まりが認められること等から、本節では先に行われた確認調査の出土資料をも含めて器種や部位ごとに分類を行い、全体的な傾向の把握を行うこととした。

分類の対象としたものは供膳具・瓶類および須恵器の甕類である。土師器の煮沸具については、破片から技法的な特徴の変遷を捉えにくく保留とした。

供膳具には、土師器と須恵器とが観られた。土師器には無台杯と有台杯とがあり、轆轤整形のものと非轆轤整形のものが認められる。須恵器では、無台杯（市原市域産13点・他地域4点）・高台付杯（市原市域産12点・他地域０点）・蓋（市原市域産２点・他地域3点）・盤（市原市域産２点・他地域０点）の４種が確認でき、在地産（特に永田・不入窯跡産）の製品でほぼ需給関係が完結している。他地域のものでは、７世紀代のものに東海系の蓋が、９世紀代のものに常陸産や下総南部の杯と東濃系の蓋が認められている。

瓶類には、須恵器と施釉陶器とが観られた。頚部などの部位が観られず細分はできない。須恵器は在地産（５点）のみである。施釉薬陶器（30点）には灰釉陶器が観られ、猿投窯の製品と考えられる。供膳具に比べて搬入製品の比率が高く、需給関係に異なったものが認められる。

須恵器甕類には、小甕と大甕とが観られた。小甕（25点）は、頚部片1点と胴部片であった。在地産の特徴を有するものは無く、下総南部の窯から供給されていたものと思われる。胴部の叩き技法は、後述分類「平行叩き（荒）」に分類される。大甕の破片点数は188点で最も多い。口縁部・頚部・肩部・胴部の部位が観られる。頚部の施紋には波状紋・列点紋・斜線・無紋の４種があり、波状紋の中に千葉市宇津志野窯跡や新治窯跡などの製品が若干認められる。胴部の叩き技法は概略４種であり、擬似格子叩・斜格子叩（細）・斜格子叩（荒）・平行叩（荒）他に分類される。在地産からの供給を挟んで、搬入地域に変化が看取される。

その他として、格子叩きの瓦1点と、中近世陶磁器若干が出土している。

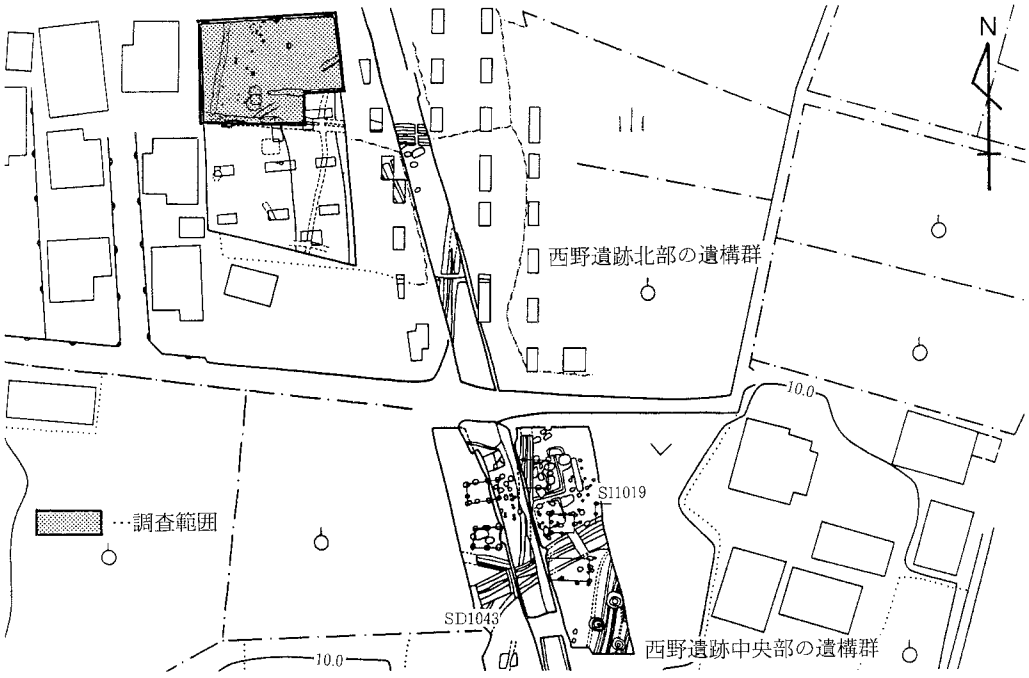


図3　西野下田遺跡の調査範囲と周辺の遺構群

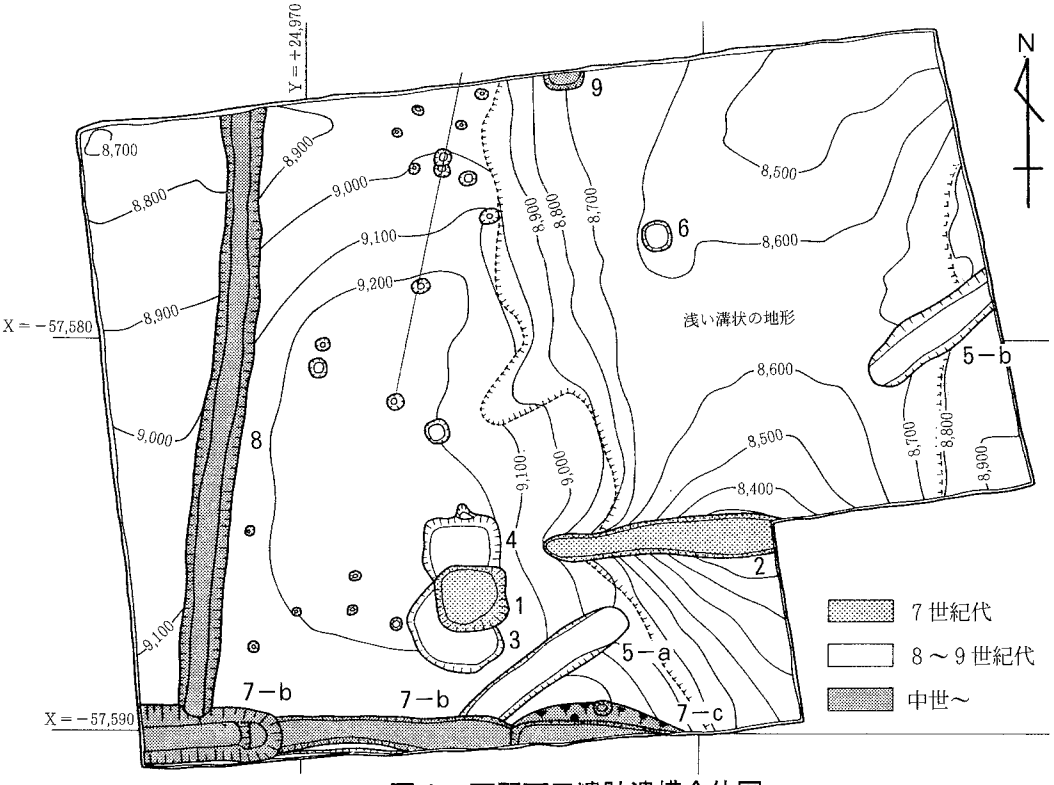


図4　西野下田遺跡遺構全体図

V　まとめ（挿図２・３・７）

西野下田遺跡の発掘調査からは、竪穴式建物跡や掘立柱建物跡、柵列・門跡・区画溝といった古代官衙に関連する遺構の発見はなかった。墨書土器の発見もない。南側隣接の確認調査範囲で発見されたピット群が、報文(8)のとおり掘立柱建物跡の一部だとするならば、遺跡の北限をここに求めることはできよう。東辺はどうであろうか。７号遺構の東側延長と考えられる溝は、「西野遺跡」(9)の北部遺構群にも認められている。しかし、西野遺跡の調査成果をみると、西野下田遺跡の東側隣接区には際立ったものが認められず、遺跡の主体が、南側の中央部遺構群以南にあることを物語っている。このことは、自然堤防の広がりと調査地点との関係から考えても、肯首できるところであろう。では、遺構の振れなどから、関連性を見ることはできるだろうか。２号遺構（道路状遺構）や、浅い溝状の地形（SD-４）との関係を推察するには、不明な部分が多い。しかし、５号遺構（SD-５・溝）と、西野遺跡中央部遺構群発見の溝SD1043であれば見かけ上の振れが近く、関連性を検討する余地が残る。SD1043の振れは、図７に示した西野遺跡編年試案Ⅱ期のSI1019（竪穴式建物跡）に近い。共時性を認めてよければ、Ⅲ期の段階で溝の人為的な埋め戻しを行い、掘立柱建物跡群によって構成される施設へと、内容的な変更が行われたものと考えられよう。先に見た、西野下田遺跡出土遺物の概要も、西野遺跡編年試案Ⅱ期以降、Ⅳ期までの存続を示し、共通する部分が多い。西野下田遺跡は、西野遺跡の一部と見て大過あるまい。しかしこのことが、海上郡家との同一視を許容するものでない。小折地区で行われた重要遺跡確認調査の成果と併せ、今後の検討に委ねたい。　　（写真図版は12～15図版）

(1) 木村泰治「市原市の地形」『市原市史（別巻）』1978 市原市　徳橋秀一ほか『姉崎地域の地質』1984 地質調査所
(2) 藤原文夫「養老川」『市原市史（別巻）』1978 市原市
(3) 近藤敏「テフラの観察について　その方向性と視点・論点」『市原市文化財センター研究紀要Ⅲ』1995 財団法人市原市文化財センター
(4)『大日本地名辞書』小熊吉蔵「千葉縣に於ける王朝時代郡家の遺蹟」『史跡名勝天然記念物調査第二十輯』 1935 千葉県ほか
(5) 今泉潔・山口典子『市原市西野遺跡・白山遺跡・村上遺跡発掘調査報告書』1989 財団法人千葉県文化財センター
櫻井敦史『平成７年度市原市内遺跡発掘調査報告』1996 市原市教育委員会
高梨俊夫『市原市西野遺跡第1次発掘調査報告書』1996 千葉県教育委員会
渡邊高弘『市原市西野遺跡第２次発掘調査報告書』1997 千葉県教育委員会
田所真「19. 西野下田遺跡」『市原市文化財センター年報　平成７年度』1998
(6) 福間元ほか『今富地区遺跡発掘調査報告書』1982 市原市今富地区遺跡調査会
須田勉「古代地方豪族と造寺活動　上総国を中心として」『古代探叢』1980
(7) 藤原文夫「養老川」『市原市史（別巻）』1978 市原市　成田山仏教図書館蔵「上総國柳原村図」（天明五年）では、図２の旧河道ラインに養老川が流れている。郡関係小字の「小折先」が小折対岸に残るのは、流路変遷の結果であろう。
(8) 櫻井敦史『平成７年度市原市内遺跡発掘調査報告』1996 市原市教育委員会
(9) 注(5)に同じ。

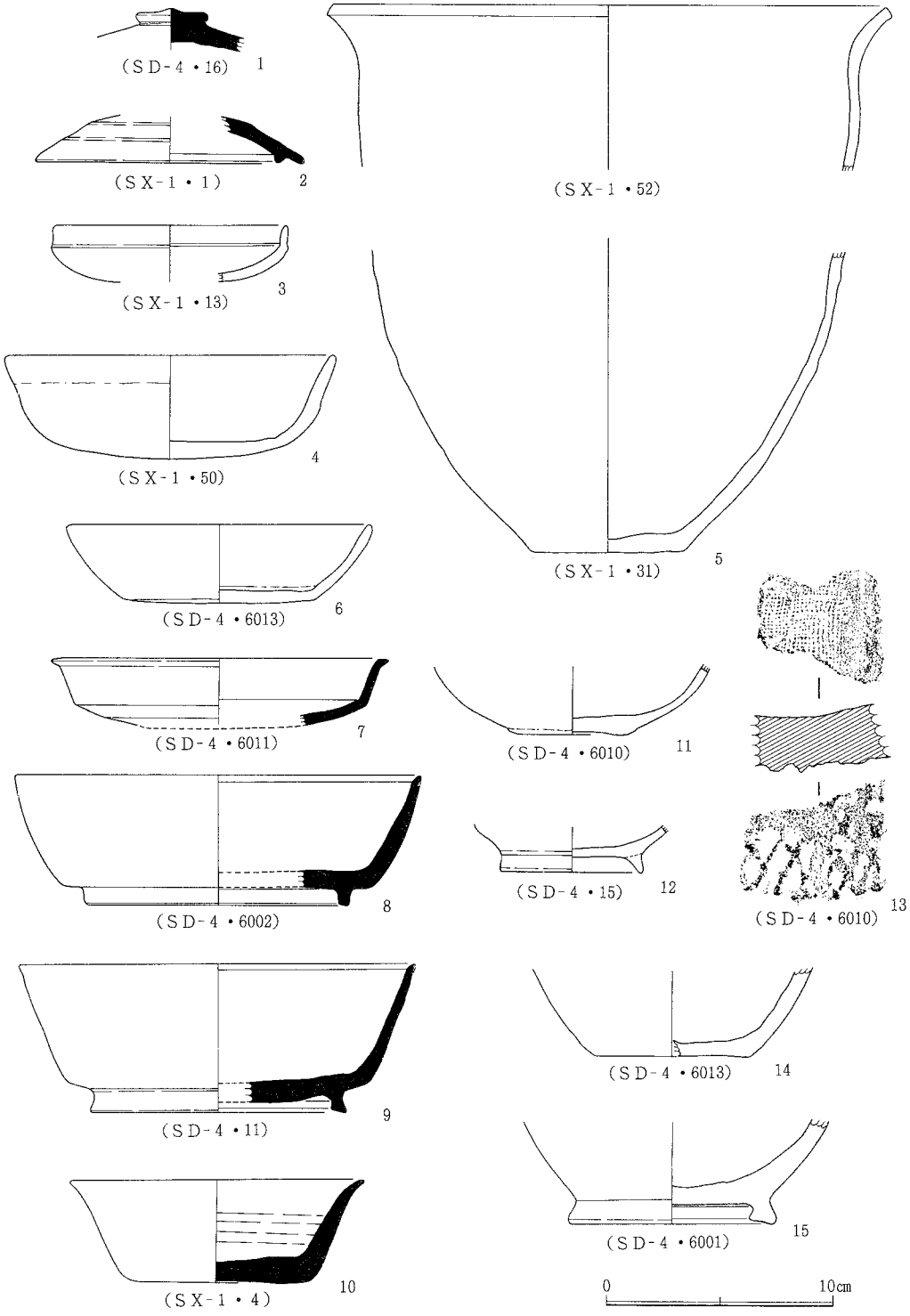


図5　西野下田遺跡出土遺物

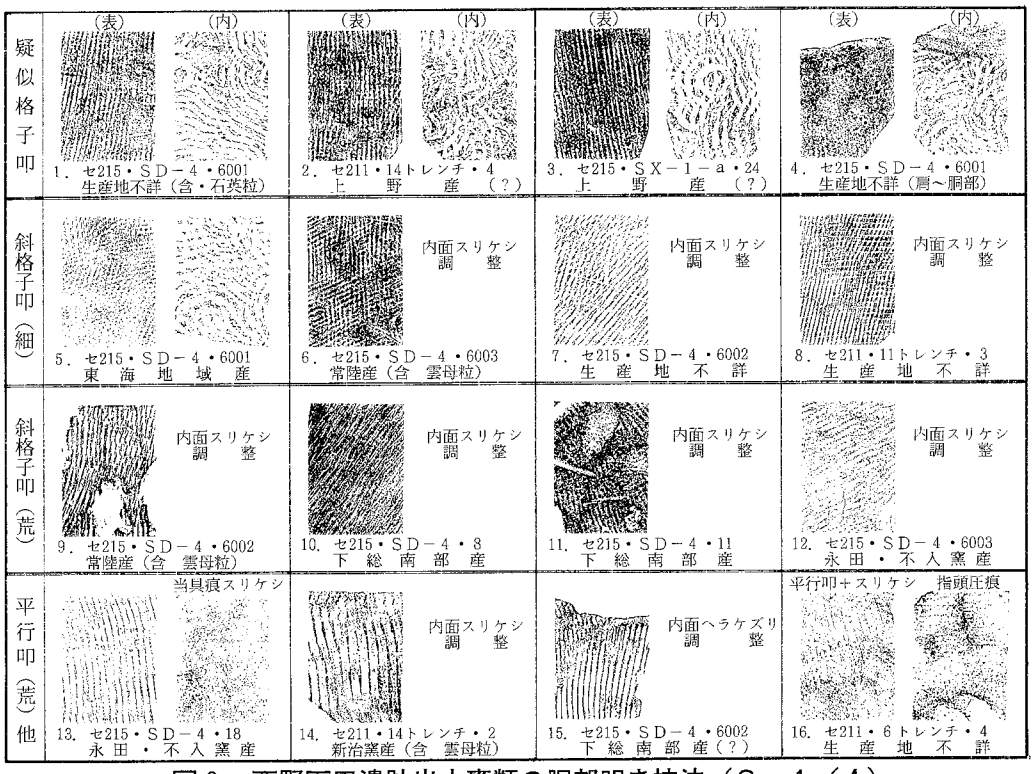


図6　西野下田遺跡出土甕類の胴部叩き技法（S＝1／4）

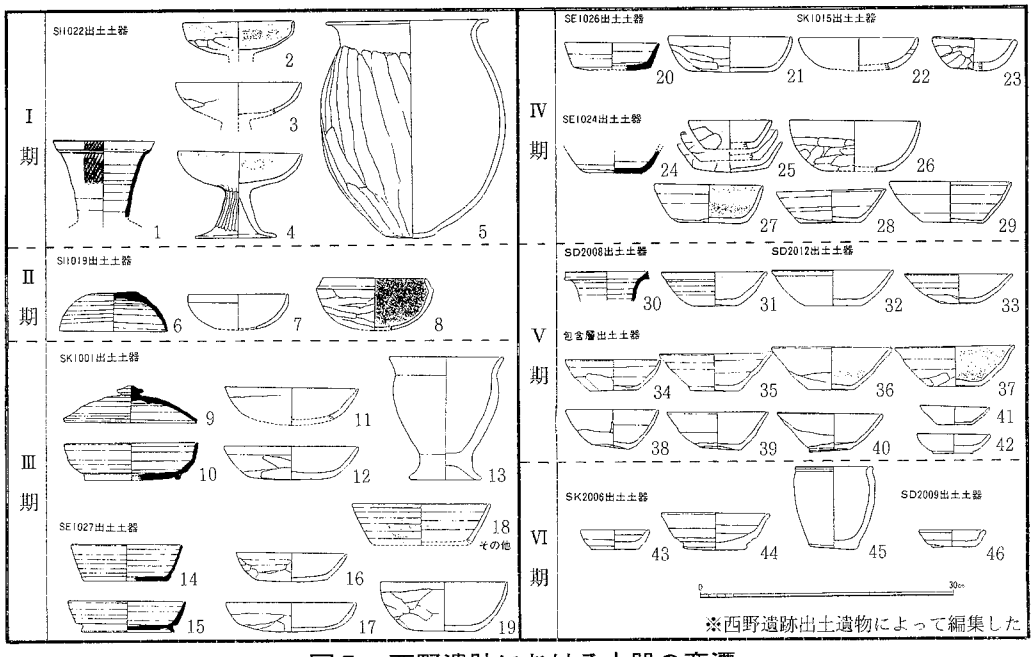


図7　西野遺跡における土器の変遷

瀬又小滝遺跡－1

調査地区遠景（西側より）

調査地区遠景（南東側より）

調査前の状況（南西より）

瀬又小滝遺跡－2

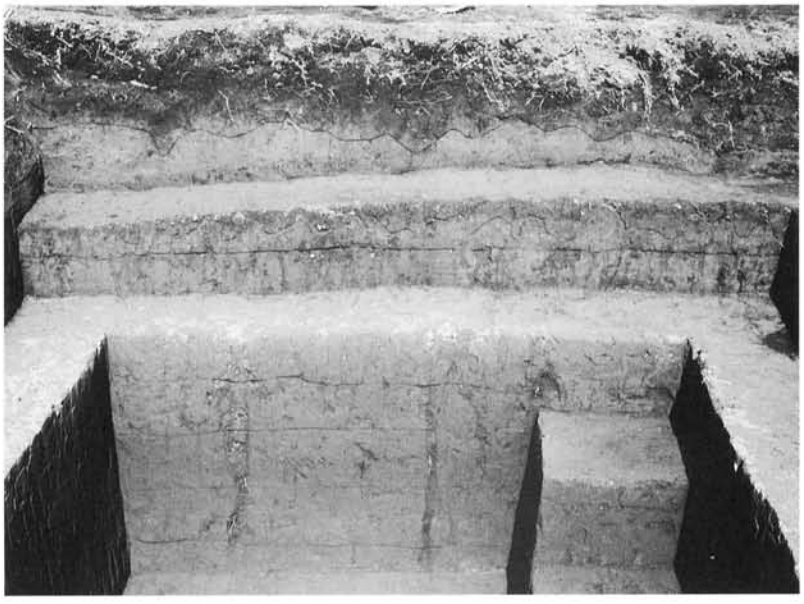
トレンチ調査状況

調査状況（東側より）

瀬又小滝遺跡－3

調査状況（東側より）
手前は旧石器トレンチ

調査状況
（西側より）



土層断割状況
（旧石器トレンチ東側壁）

瀬又小滝遺跡－4

7号遺構（竪穴状遺構）
南側より

7号遺構（竪穴状遺構）
北側より

5号遺構（右上）、10号遺構（左上）
11号遺構（正面手前）南東側より

10号遺構（左）、11号遺構（右）
西側より

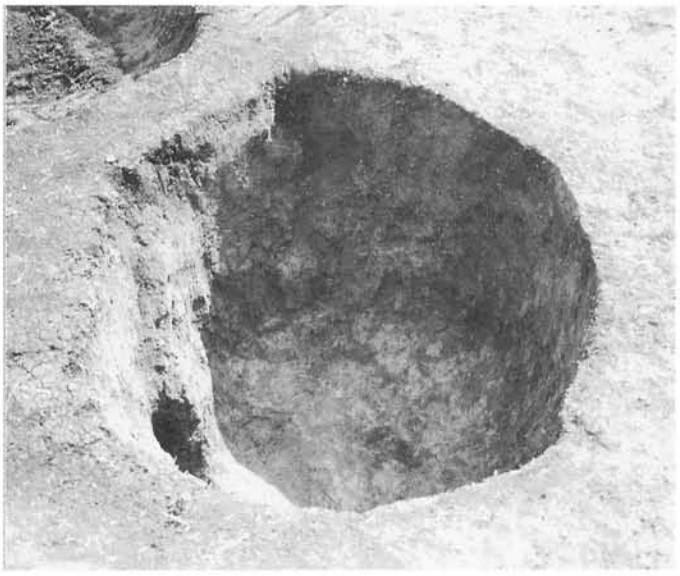
瀬又小滝遺跡－5

1号遺構（土坑）
南側より

2号遺構（土坑）北西側より

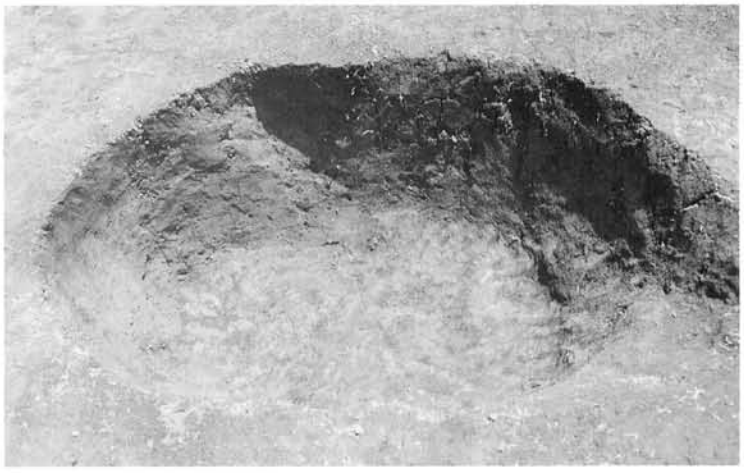
1号遺構（土坑）
北東側より

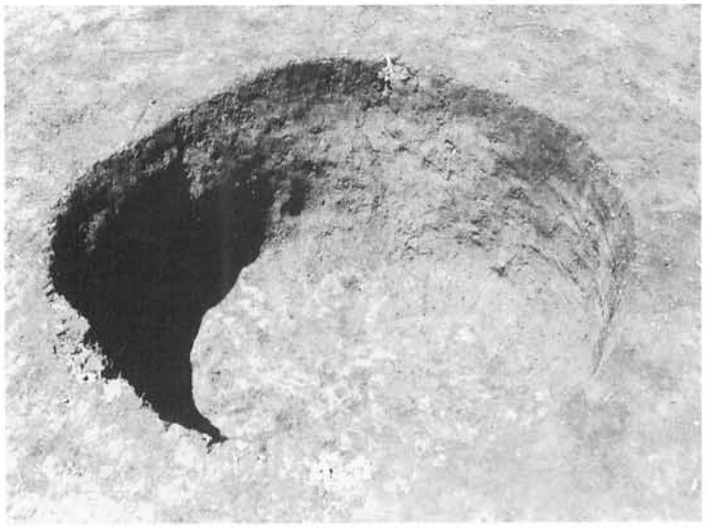
瀬又小滝遺跡－6



2号遺構（土坑）
北東側より

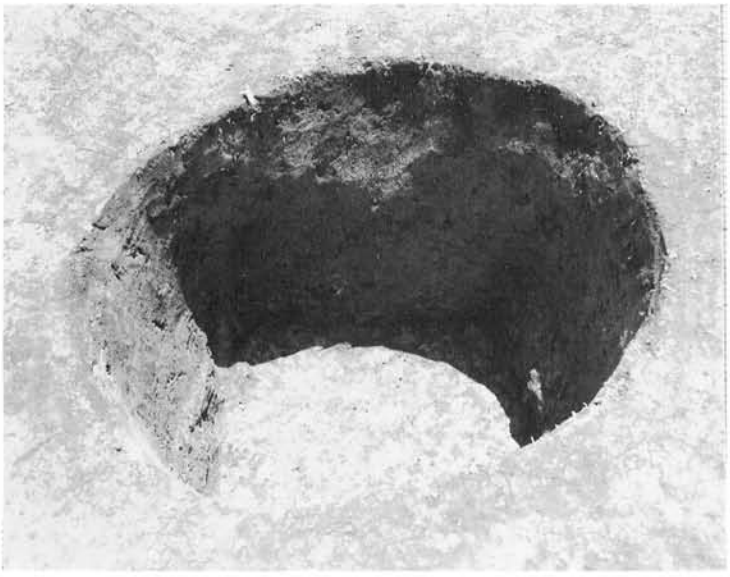
5号遺構（土坑）
西側より





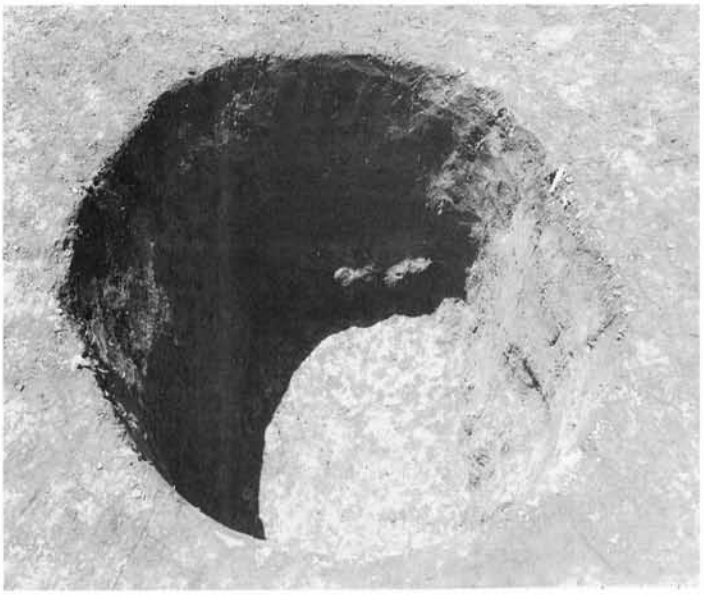
4号遺構（土坑）
西側より

瀬又小滝遺跡－7



6号遺構（土坑）
西側より

2号遺構（土坑）
西側より



6号遺構（土坑）
北東側より

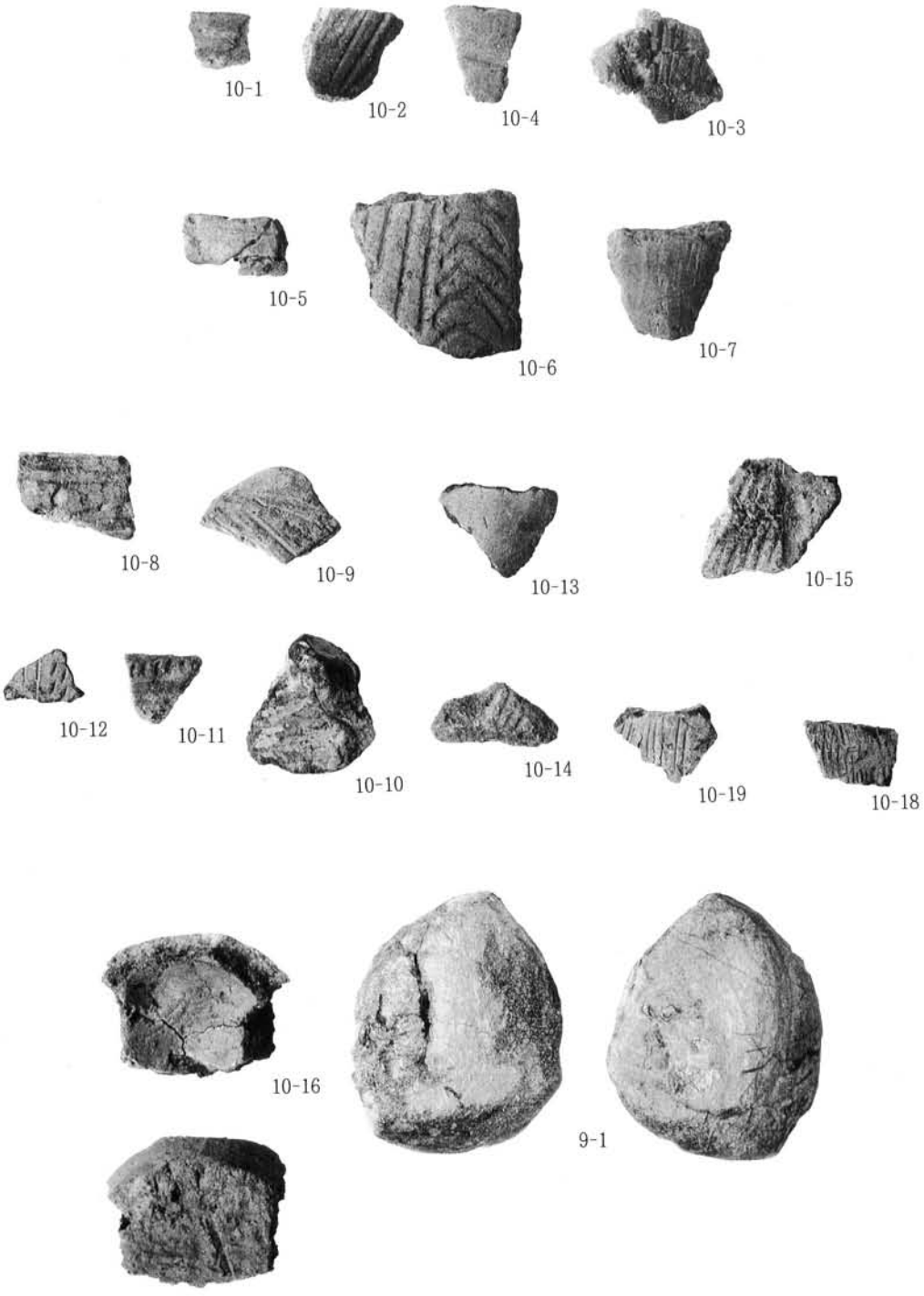
瀬又小滝遺跡－8

9号遺構（陥穴）
南東側より

8号遺構（土坑）
南東側より

8号遺構（土坑）
東側より

図版9



各遺構、Ⅰ・Ⅱ層出土及び表採遺物（番号は図9、10と一致する）

① 調査区南東側突端部

② 土塁及び平坦部

③ 平坦部全景

④ 平坦部（写真奥が斜面）

⑤調査区全景

⑥ 調査区中央部（埋没谷）

⑦ 調査区西側全景

⑧ 台地突端部（奥に土塁）

⑨　平坦部全景

⑩　調査区東側全景

⑪　3号遺構

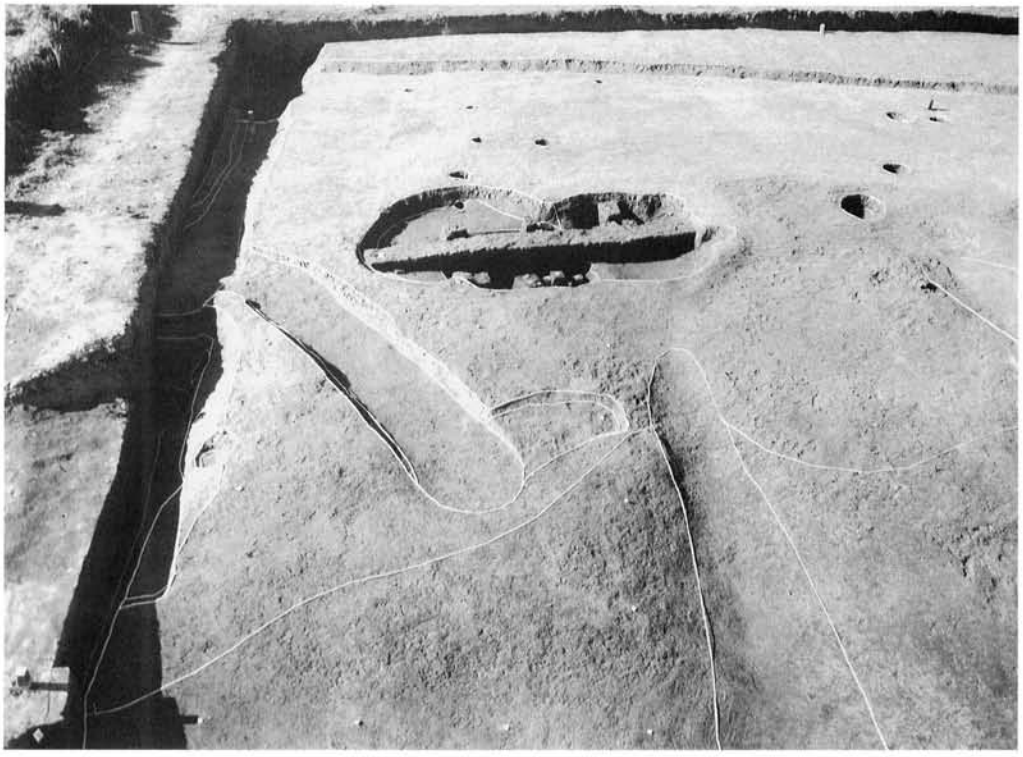
⑫　4号遺構

⑬　平坦面下部構造観察用トレンチ

⑭　2号遺構断面

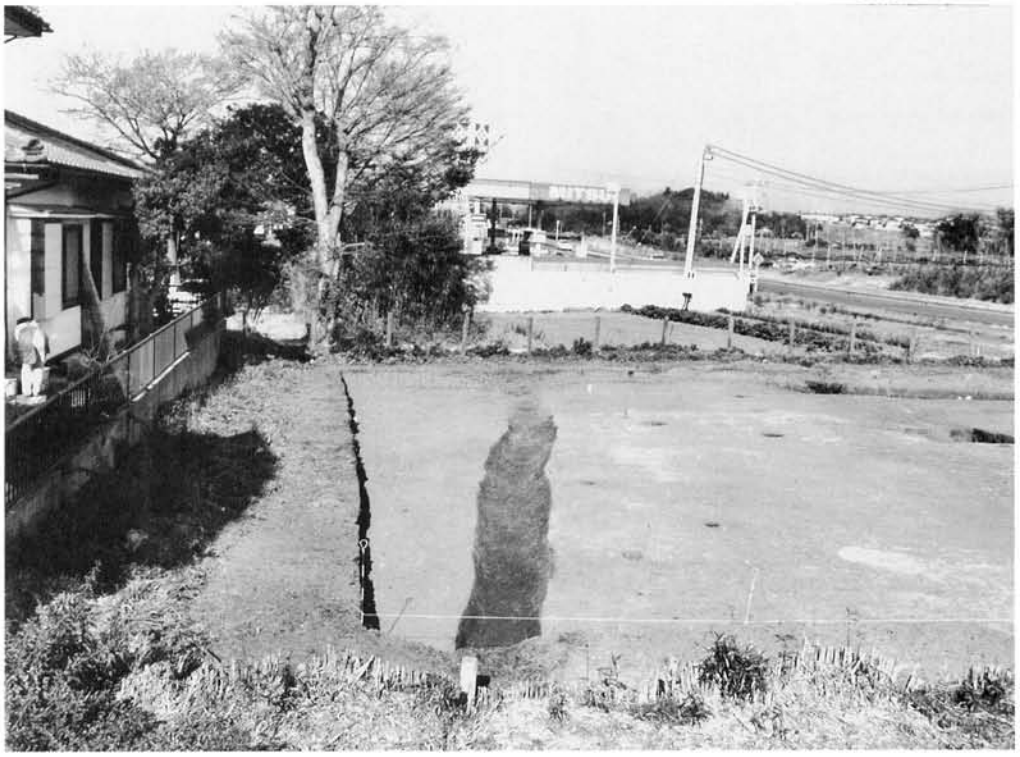
⑮　2号遺構完掘状況

⑯　斜面構造観察用トレンチ



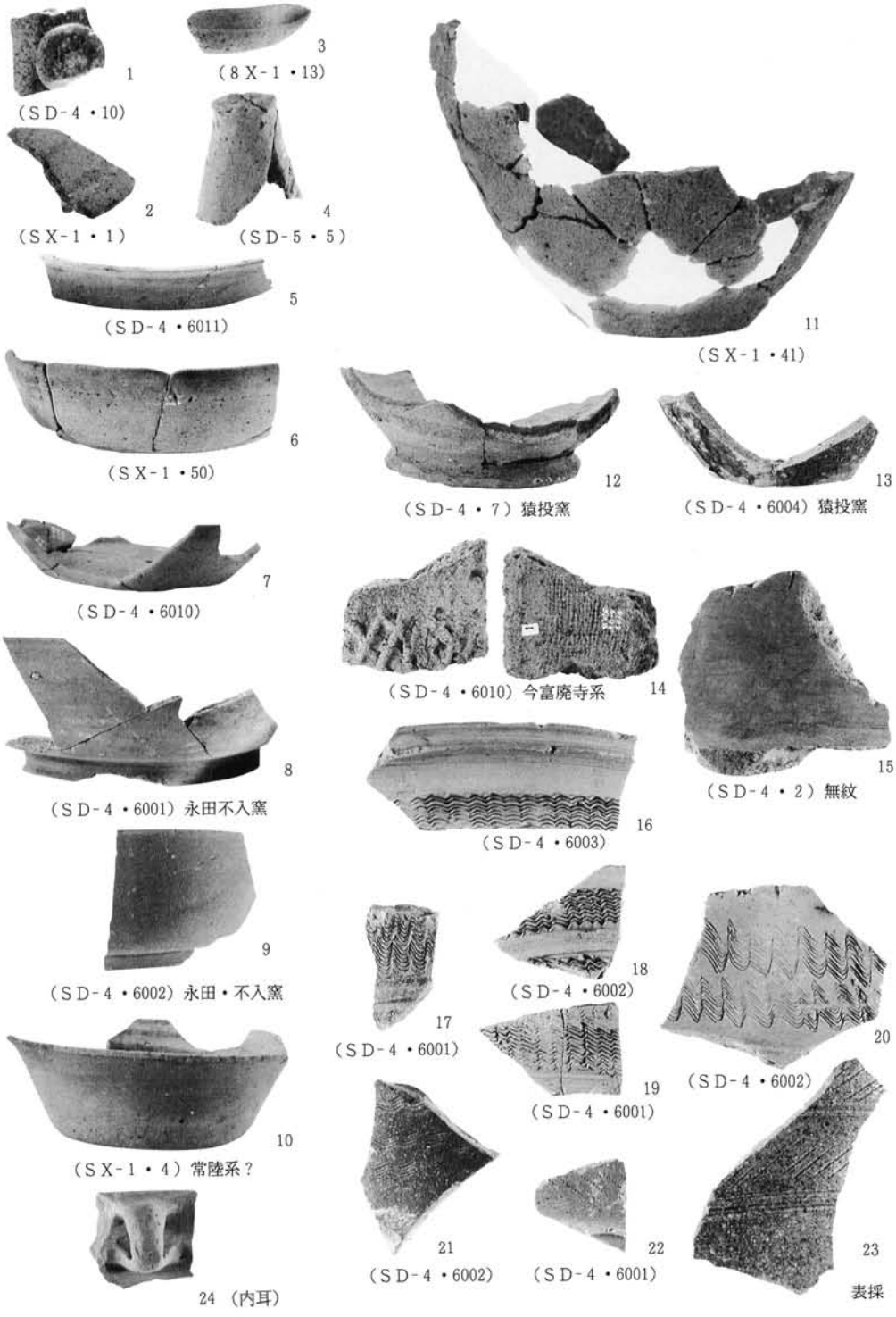
上は遺跡全景（北東より）。調査区中央の測量杭右が６号遺構。
下は調査区南半の遺構群（東より）。

上は左から3号遺構・1号遺構・4号遺構（東より）
下は調査区南西部。左側が手前より7－a遺構・7－b遺構。右は8号遺構（北東より）



上は９号遺構とピット群（南より）。
下は調査区全景。画面手前の窪地状の部分が浅い溝状の地形ＳＤ４（北北東より）

図版15



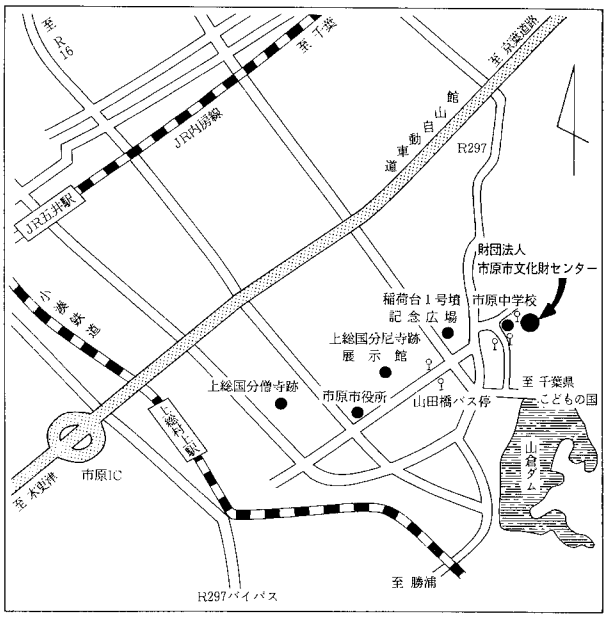
※甕頸部分類：15→無紋、16～21→波状紋、22→列点紋、23→斜線

抄　　録

ふりがな	いちはらしぶんかざいセンターねんぽうへいせいきゅうねんど
書名	市原市文化財センター年報　平成９年度
副書名	付編　1．瀬又小滝遺跡調査報告　2．百枚田砦跡調査報告　3．西野下田遺跡調査報告
巻次	
シリーズ名	市原市文化財センター年報
シリーズ番	平成９年度
編著者名	1．田中清美　2．北見一弘　3．田所　真
編集機関	財団法人市原市文化財センター
所在地	〒290-0011 千葉県市原市能満1,489番地　TEL 0436-41-7300　FAX 0436-42-0133
発行年月日	2000年　3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		経緯度		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
1． せまたこたき 瀬又小滝遺跡	ちばけんいちはらしせまた 千葉県市原市瀬又 あざしもうるしば 字下漆房769-15	12219	セ251	35度 32分 12秒	140度 13分 23秒	19970710 ～ 19970725	100㎡	市原市営水道加圧所建設用地に伴う埋蔵文化財調査
2． ひゃくまいだとりであと 百枚田砦跡	ちばけんいちはらしいりやまず 千葉県市原市不入斗 1272番地	12219	セ243	35度 27分 09秒	140度 03分 04秒	19970422 ～ 19970515	360㎡	中学校駐輪場等整備に伴う埋蔵文化財調査
3． にしのしもだ 西野下田遺跡	ちばけんいちはらしにしの 千葉県市原市西野 あざしもだ 字下田249－1	12219	セ215	35度 28分 49秒	140度 06分 31秒	19951201 ～ 19951227	355㎡	店舗建設に伴う埋蔵文化財調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
瀬又小滝遺跡	集落 包蔵地	縄文時代早期 縄文時代中期 古墳時代前期	縄文時代早期後半の竪穴状遺構（住居跡）・土坑	田戸上層式土器片 縄文中期土器片 古墳時代前期土器片	縄文早期沈線文系土器群時期の遺構遺物の検出は希で当該期は貴重である。
百枚田砦跡	中世 城郭跡	中世・戦国時代	土塁・溝状遺構 台地整形 土坑	諸磯式土器片 中世陶器片・古銭 銃弾・カワラケ片	不入斗百枚田遺跡から登録に従って百枚田砦跡に名称変更した。
西野下田遺跡	古代 海上郡家 推定地	奈良平安時代 中世	土壙・小径 ピット群 溝状遺構	土師器・須恵器 杯・高台付杯・盤 灰釉陶器片	古代海上郡家推定地の西野遺跡の一部分と考えられる。



〔交通案内〕

○ＪＲ東日本内房線五井駅下車
五井駅東口より中央武道館行バスあり
終点　文化財センター下車徒歩２分

○ＪＲ東日本内房線八幡宿駅下車
八幡宿駅西口より市原市役所経由国分寺台行、又は千葉県こどもの国行山田橋下車
徒歩５分　市原中学校入口を入る

○館山自動車道市原ＩＣを降り
市原市役所方面へ車で15分

市原市文化財センター年報

（平成９年度）

平成12年３月31日　発行

発　行　　財団法人　市原市文化財センター
〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地
TEL　0436(41)７３００
FAX　0436(42)０１３３

印　刷　　三陽工業株式会社
〒290-0056 千葉県市原市五井5510の１
TEL　0436(22)４３４８